

新座市消防団第五分団車庫建替工事

図面リスト

意匠		構造		電気設備		機械設備	
A-01	建築工事特記仕様書1	S-01	構造設計標準仕様	E-01	電気設備工事特記仕様書1	M-01	機械設備工事特記仕様書1
A-02	建築工事特記仕様書2	S-02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図1	E-02	電気設備工事特記仕様書2	M-02	機械設備工事特記仕様書2
A-03	建築工事特記仕様書3	S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図2	E-03	電気設備 分電盤接続図・機器室図	M-03	機械設備工事特記仕様書3
A-04	建築工事特記仕様書4	S-04	鉄骨構造標準図1	E-04	電灯設備 1・2階平面図	M-04	機械設備 凡例・空調設備 機器表
A-05	建築工事特記仕様書5	S-05	鉄骨構造標準図2	E-05	コンセント設備 1・2階平面図	M-05	空調設備 配管・ダクト 1・2階平面図・系統図
A-06	建築工事特記仕様書6	S-06	基礎伏図・基礎リスト	E-06	弱電設備 1・2階平面図	M-06	衛生設備 機器表・器具表・樹リスト
A-07	案内図・計画概要・配置図・敷地求積図	S-07	柱脚伏図・梁伏図	E-07	【解体】電気設備 平面図	M-07	衛生設備 1・2階平面図・系統図
A-08	特記事項・仕上表	S-08	軸組図1			M-08	【解体】空調設備 1・2階平面図・機器表・系統図
A-09	平面図・屋根伏図・建物求積図・求積表	S-09	軸組図2			M-09	【解体】衛生設備 1・2階平面図・器具表・系統図・樹リスト
A-10	立面図	S-10	軸組図3				
A-11	断面図・法規チェック・平均地盤高さ算定	S-11	鉄骨部材リスト				
A-12	建具表	S-12	鉄骨架構図1				
A-13	矩計図	S-13	鉄骨架構図2				
A-14	1階平面詳細図						
A-15	2階平面詳細図						
A-16	階段断面詳細図						
A-17	部分詳細図						
A-18	家具図・雑詳細図						
A-19	サイン図・雑詳細図						
A-20	外構平面図・詳細図						
A-21	【参考】仮設計図図						
A-22	解体工事特記仕様書1						
A-23	解体工事特記仕様書2						
A-24	【解体】車庫・倉庫 仕上表・配置・平面詳細図						
A-25	【解体】車庫・倉庫 立面図・断面図						
A-26	【解体】車庫 矩計図・雑詳細図						
A-27	【解体】車庫 基礎伏図・基礎リスト						
A-28	【解体】車庫 梁伏図・鉄骨部材詳細図						
A-29	【解体】車庫 軸組図						
A-30	【解体】車庫 鉄骨部材リスト						
A-31	【解体】車庫 鉄骨詳細図						

工 事 名 **新座市消防団第五分団車庫建替工事**

特記仕様書

1 工事概要
1.1 工事場所 **埼玉県新座市野火止3丁目1番** 用地地番 **市南化陸整第3区域**
1.2 敷地面積 **155.91 ㎡**
1.3 工事種目 (建物概要) **1 柱根基礎鉄骨造 2 階段付(地下-1階+P+1階)**
建築面積 **69.03 ㎡**
延べ面積 **129.60 ㎡**
1.4 階面構成
1階 64.80 ㎡
2階 64.80 ㎡

4. 工 期
4.1 工期 契約の締結日(令和4年6月)から令和5年3月まで
4.2 工期 契約の締結日(令和4年6月)から令和5年3月まで
4.3 工期 契約の締結日(令和4年6月)から令和5年3月まで

5. 工事範囲
※「3. 工事種目」全てを工事範囲とする。
※「4.3. 工事種目」のうち……………の工事範囲は下記表のとおりとする。
ただし、他の工事種目は全て今回工事範囲とする。

2 仮設工事 ※工事範囲外
3 土工 ※工事範囲外
4 地盤工事 ※工事範囲外
5 鉄筋工事 ※工事範囲外
6 コンクリート工事 ※工事範囲外
7 鉄骨工事 ※対象外
8 3D-CADソフト・A-LI-GIS社・押出成形セメント使用 ※対象外
9 防水工事 ※工事範囲外
10 石工事 ※対象外
11 タイル工事 ※対象外
12 木工事 ※工事範囲外
13 屋根及びとい工事 ※工事範囲外
14 金具工事 ※工事範囲外
15 左官工事 ※工事範囲外
16 建具工事 ※工事範囲外
17 カーテンウォール工事 ※対象外
18 塗装工事 ※工事範囲外
19 内装工事 ※工事範囲外
20 エニット及びその他の工事 ※工事範囲外
21 排水工事 ※工事範囲外
22 舗装工事 ※工事範囲外
23 舗装及び壁上部化工事 ※対象外

II 建築工事仕様
(1) 資材調達書、本特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて「埼玉県建築工事特別共通仕様書」及び国土交通省大臣官庁告示第88号「公共建築工事標準仕様書（建設工事編）令和4年版」（以下、「標準仕様書」といふ。）による。
なお、新たなものが追加された、当該基準によらない場合は、監督員と協議し、適用する標準等を選択する。

章 項目 特記事項
1 一般共通事項
1.1 適用基準等
1.2 条件明示事項
1.3 工事実績情報(RA)
1.4 適用ロシズ
1.5 製約の関連工事
1.6 施工に注意を要する区域等
1.7 工事の記録
1.8 電気保安技術者
1.9 施工条件
1.10 施工の安全確保
1.11 施工中の環境保全等
1.12 廃棄物の処理等
1.13 製品の品質等
1.14 技能士

2 化学物質の濃度測定
3 中間検査
4 完成図書
5 仮設工事
6 足場その他
7 仮設工事
8 監督員事務所
9 現場表示板
10 工事用水
11 工事用電力
12 工事用入路
13 仮囲い
14 仮道すいれ
15 障灰及び壁土
16 建設発生土の処理
17 山の面の撤去
18 鉄筋工事
19 レンクリート工事
20 鉄骨工事
21 地業工事

2 構造コンクリートブロック造
3 コルクシートブロック造
4 ALCパネル
5 押出成形セメント板(石膏板)
6 防水工事
7 アスファルト防水
8 断熱材
9 断熱材
10 断熱材
11 断熱材
12 断熱材
13 断熱材
14 断熱材
15 断熱材

Technical specification document for waterproofing and construction materials. It consists of multiple numbered sections (1-12) and tables detailing requirements for various materials and construction methods. Key sections include: 1. Waterproofing methods for different structures and substrates; 2. Specifications for modified asphalt and sheet waterproofing; 3. Requirements for composite fiber systems; 4. Details for waterproofing systems using various membranes and sealants; 5. Specifications for geotextiles and fabric reinforcement; 6. Details for tile and stone waterproofing; 7. Requirements for waterproofing of concrete structures; 8. Guidelines for construction joints and reinforcement; 9. Specifications for tiles and tiles; 10. Details for stone and masonry work; 11. Requirements for waterproofing of tiles and stones; 12. Specifications for construction methods. Each section contains detailed technical instructions and tables with columns for material types, grades, water content, and other properties. The document also includes a table at the bottom for project information: 地所名称 (Site Name): RO6, 03; 新築工事 (New Construction); 新都市消防団第五分団車庫建設工事 (Construction of Fire Station for the 5th Fire Team, Shinjoshi); 防雨仕様 (Weatherproofing Specification); 建築工事設計仕様書 (Architectural Design Specification); A-02

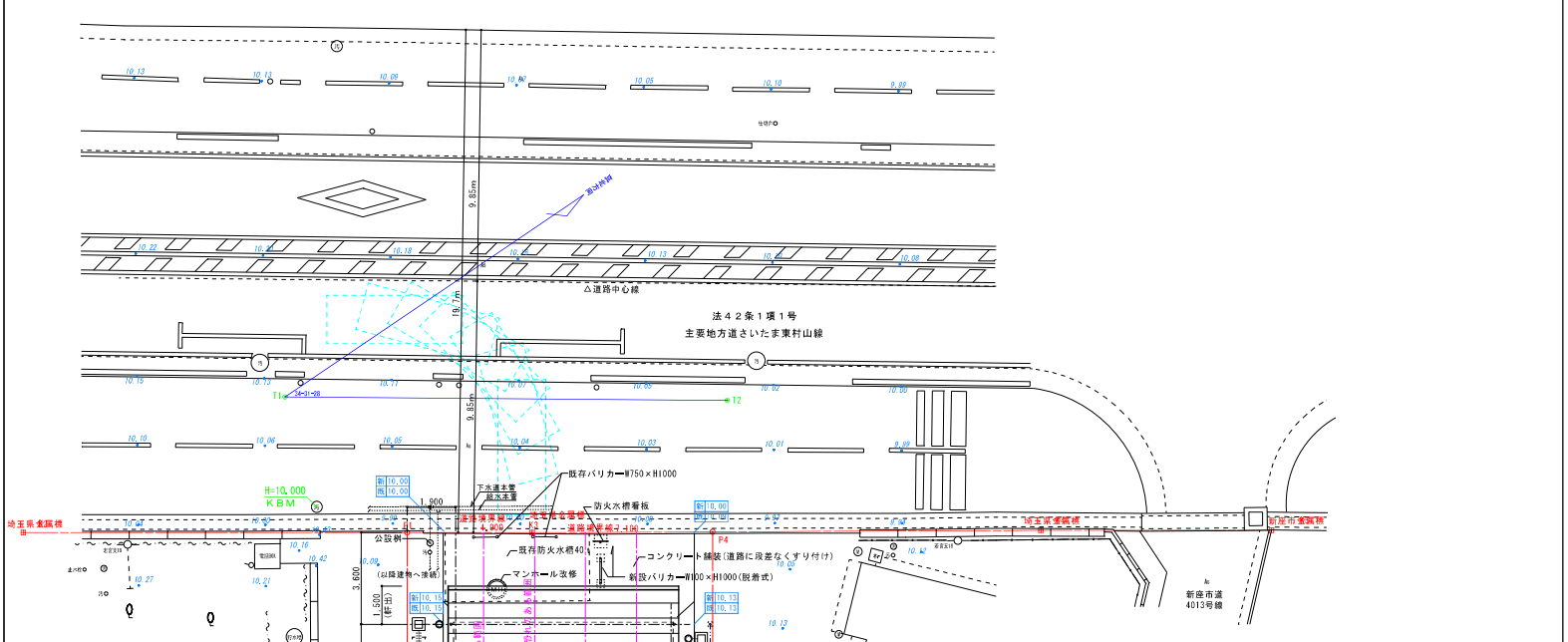
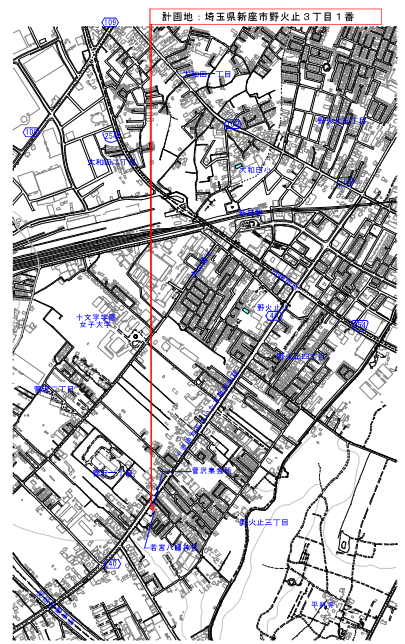
⑬ 屋根及び 土工事	① 長尺金属屋根	(13.2.1~3)(13.2.2, 3)	<p>①A-ベークライトボード</p> <p>② JAS 0300に基づく構造用パネル</p> <p>・ MDP</p> <p>③ 接合具等</p> <p>④ 接着剤</p> <p>⑤ 防露・防錆・防虫処理</p> <p>⑥ 内側断熱処理及び 床組み</p> <p>⑦ 窓、出入口その他</p> <p>⑧ 床板張り</p> <p>⑨ 壁及び天井下地</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨</p>
	② 折板屋根	(13.2.2)(13.2.2, 3)(13.2.3)	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨</p> <p>⑩ ⑪ ⑫</p> <p>⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>
⑭ 屋根及び 土工事	① 長尺金属屋根	(13.2.1~3)(13.2.2, 3)	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨</p> <p>⑩ ⑪ ⑫</p> <p>⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>

⑮ 左 官工 事	① モルタル塗り	(14.2.1)(表14.2.1)	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨</p> <p>⑩ ⑪ ⑫</p> <p>⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>
	② さっころボード下地 その他のボード下地	(14.2.2)(表14.2.2)	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨</p> <p>⑩ ⑪ ⑫</p> <p>⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>
⑯ 左 官工 事	① モルタル塗り	(14.2.1)(表14.2.1)	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨</p> <p>⑩ ⑪ ⑫</p> <p>⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>
⑰ 左 官工 事	② さっころボード下地 その他のボード下地	(14.2.2)(表14.2.2)	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨</p> <p>⑩ ⑪ ⑫</p> <p>⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>

⑰ 左 官工 事	① モルタル塗り	(14.2.1)(表14.2.1)	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨</p> <p>⑩ ⑪ ⑫</p> <p>⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>
	② さっころボード下地 その他のボード下地	(14.2.2)(表14.2.2)	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨</p> <p>⑩ ⑪ ⑫</p> <p>⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>
⑰ 左 官工 事	① モルタル塗り	(14.2.1)(表14.2.1)	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨</p> <p>⑩ ⑪ ⑫</p> <p>⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>
⑰ 左 官工 事	② さっころボード下地 その他のボード下地	(14.2.2)(表14.2.2)	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨</p> <p>⑩ ⑪ ⑫</p> <p>⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>

⑰ 左 官工 事	① モルタル塗り	(14.2.1)(表14.2.1)	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨</p> <p>⑩ ⑪ ⑫</p> <p>⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>
	② さっころボード下地 その他のボード下地	(14.2.2)(表14.2.2)	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨</p> <p>⑩ ⑪ ⑫</p> <p>⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>
⑰ 左 官工 事	① モルタル塗り	(14.2.1)(表14.2.1)	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨</p> <p>⑩ ⑪ ⑫</p> <p>⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>
⑰ 左 官工 事	② さっころボード下地 その他のボード下地	(14.2.2)(表14.2.2)	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨</p> <p>⑩ ⑪ ⑫</p> <p>⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳</p>

Main content area containing various technical specifications and tables for building materials, organized by category such as 20 ユニネット及びその他工事, 21 排水工事, 22 舗装, etc. Each category includes detailed tables for material types, dimensions, and performance criteria.



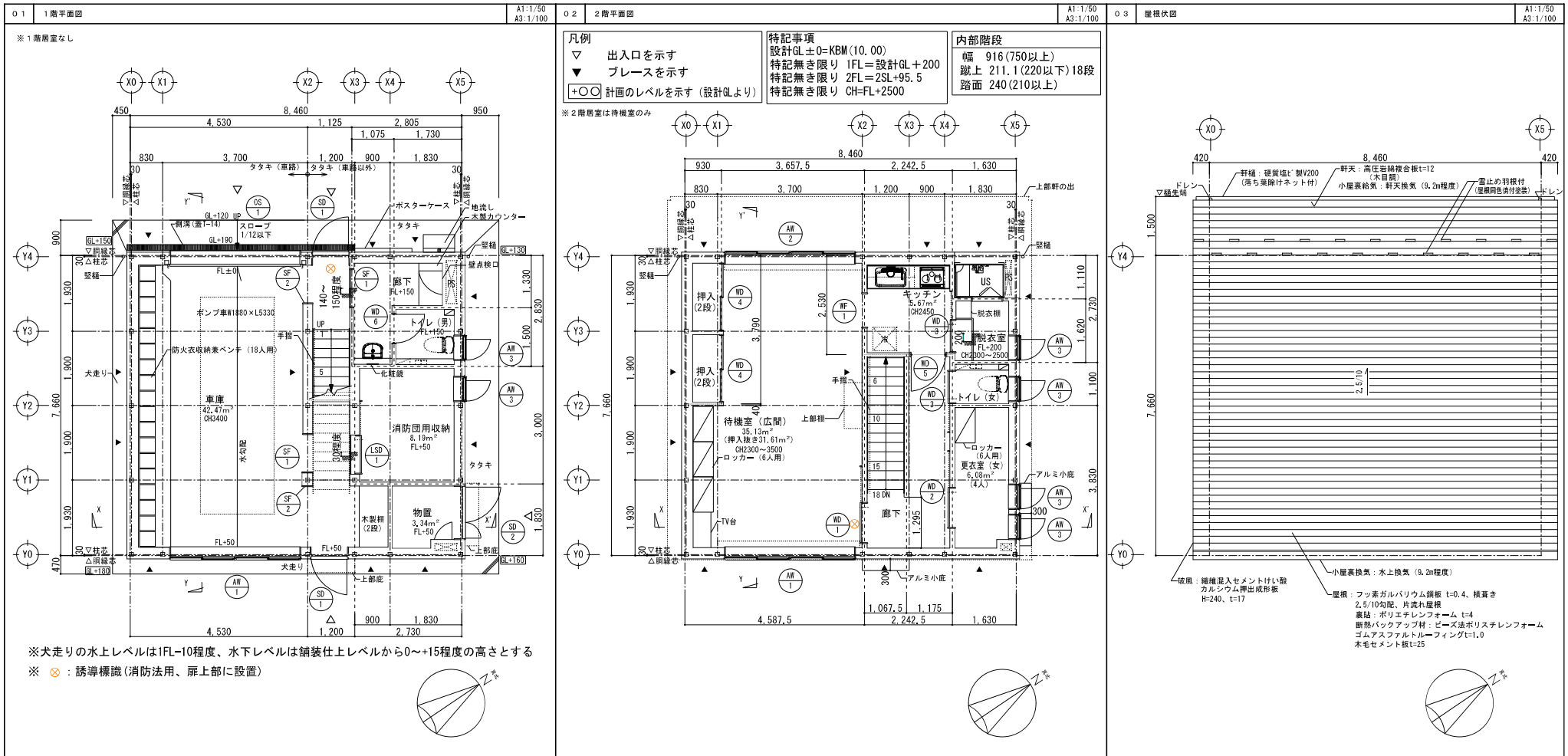
02 計画概要

■計画地	地番 埼玉県新座市野火止3丁目1番
■敷地面積	155.91㎡
■前面道路	県道さいたま東村山線(志木街道) 法42条1項1号 道路幅員 19.7m (歩道 約5.9m) 接道長さ 12.00m
■用途地域	市街化調整区域
■建築面積	8.46×7.66×0.46×(1.5-1.0)=69.039600 69.03㎡ < 許容建築面積: 93.54㎡
■建ぺい率	69.03/155.91×100=44.275544 (第三位切り上げ) 44.28% < 法定建ぺい率: 60%
■1階床面積	64.80㎡
■2階床面積	64.80㎡
■延べ面積	64.80+64.80= 129.60㎡ < 許容延べ面積: 311.82㎡
■容積率	129.60/155.91×100=83.12438 (第三位切り上げ) 83.13% < 法定容積率: 200%
■防火地域	無
■地区計画	無
■道路斜線	1.25 一建築物高さが道路幅員未満のため、適合(計算略)
■隣地斜線	20m+1.25 一建築物高さが20m未満のため、適合(計算略)
■日影規制	別表4 口(3) 高さが10mを超える建築物 一高さ10m未満のため対象外 [測定面の高さ4m、5時間3時間]
■主要用途	08330 消防分庫庫・待機室
■構造・耐火	鉄骨造 / その他建築物
■種 数	1

04 敷地求積図 A1:1/100 A3:1/200

地番	3丁目1番	符号	底辺	高さ	積地面積
①			12,000	4,300	58,200000
②			12,160	12,935	153,641600
③			15,668	6,344	99,397792
合 計					311,839592
敷地面積					155.91 ㎡

※ 延床の恐れのある範囲 (3M・5M)
 ※ 本指図の設計GLは、道路上のKBM=「10.00」とし、平均地盤高さは設計GL+100とする。
 10.00 ... 計画地盤レベル(タタキや大走りの部分には、タタキ・大走りの外側(水側)が指す部分の地盤レベルを示す)
 10.00 ... 現況地盤レベル
 +0.00 ... 現況地盤レベル
 ※敷地内の舗装は隣地舗装や道路のレベルに揃いつける。大走りの水下は地盤レベル±0~20程度高さとする(水上はFLとする)
 ※大走りは、舗装(水部分)を地盤レベル±0~20程度高さとする(水上側はFL±0とする)

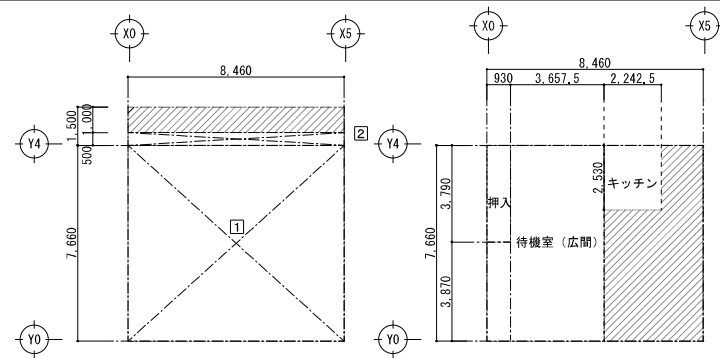


03 建物求積図・求積表

建物求積表		
番号	算定式	面積(m ²)
1	8,460 * 7,660	64,803,600
2	8,460 * 0,500	4,230,000
建築面積		
1+2		69,033,600
1F床面積		
1		64,803,600
2F床面積		
1		64,803,600
延床面積		
64,80+64,80		129,607,200

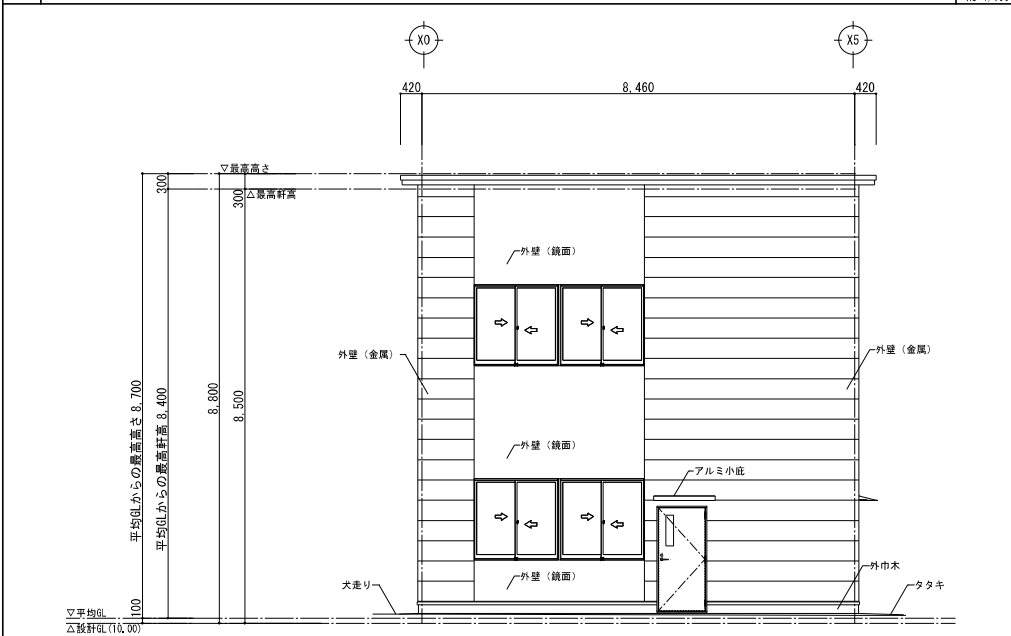
2階居室求積表		
算定式	面積	
待機室	0,930 * 3,870 = 3,599,100	31.61m ²
	3,657.5 * 7,660 = 28,016,450	
押入	0,930 * 3,780 = 3,524,700	3.52m ²
キッチン	2,242.5 * 2,530 = 5,673,525	5.67m ²
合計		40.80m ²

1階居室求積表		
算定式	面積	
※居室なし		

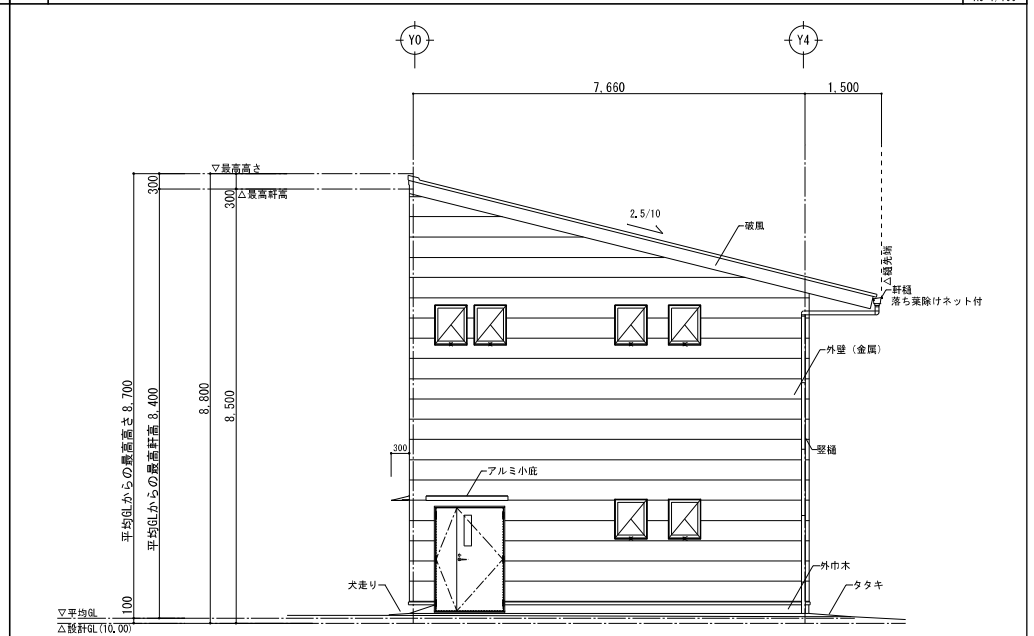


図面名称	新倉市消防団第五分団車庫建設工事		
図面内容	平面図・屋根伏図・建物求積図・求積表		
縮尺	A1:1/50 A3:1/100	※ 尺	ROG.03
図面番号	A-09		

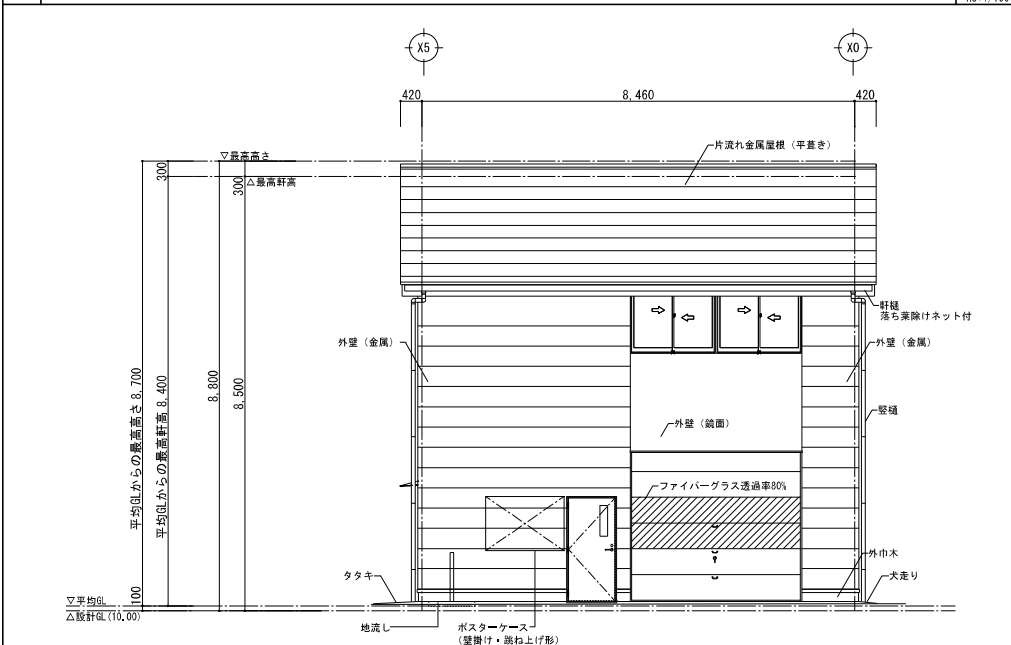
01 南側立面図 A1:1/50 A3:1/100



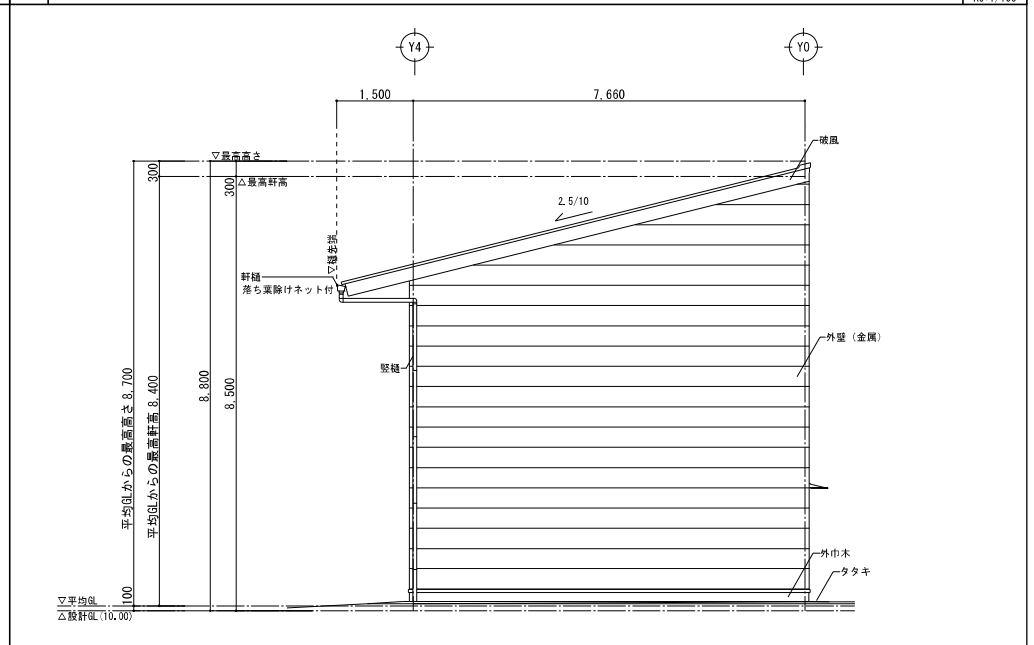
02 東側立面図 A1:1/50 A3:1/100



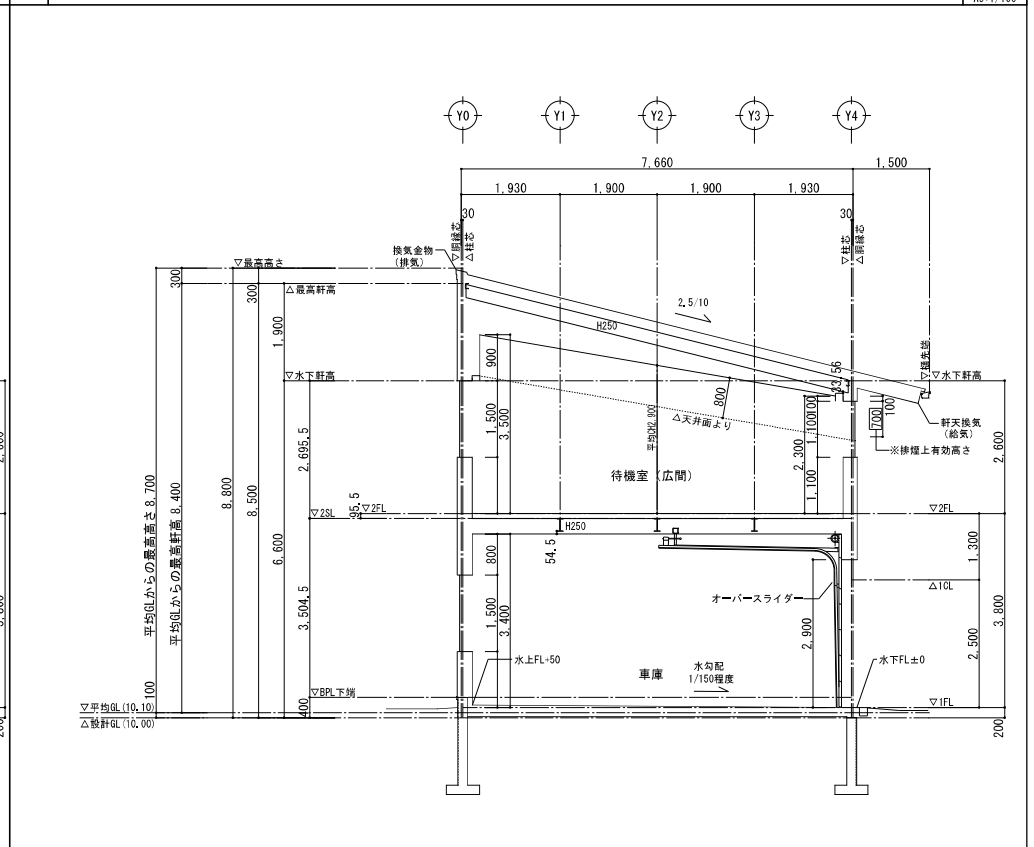
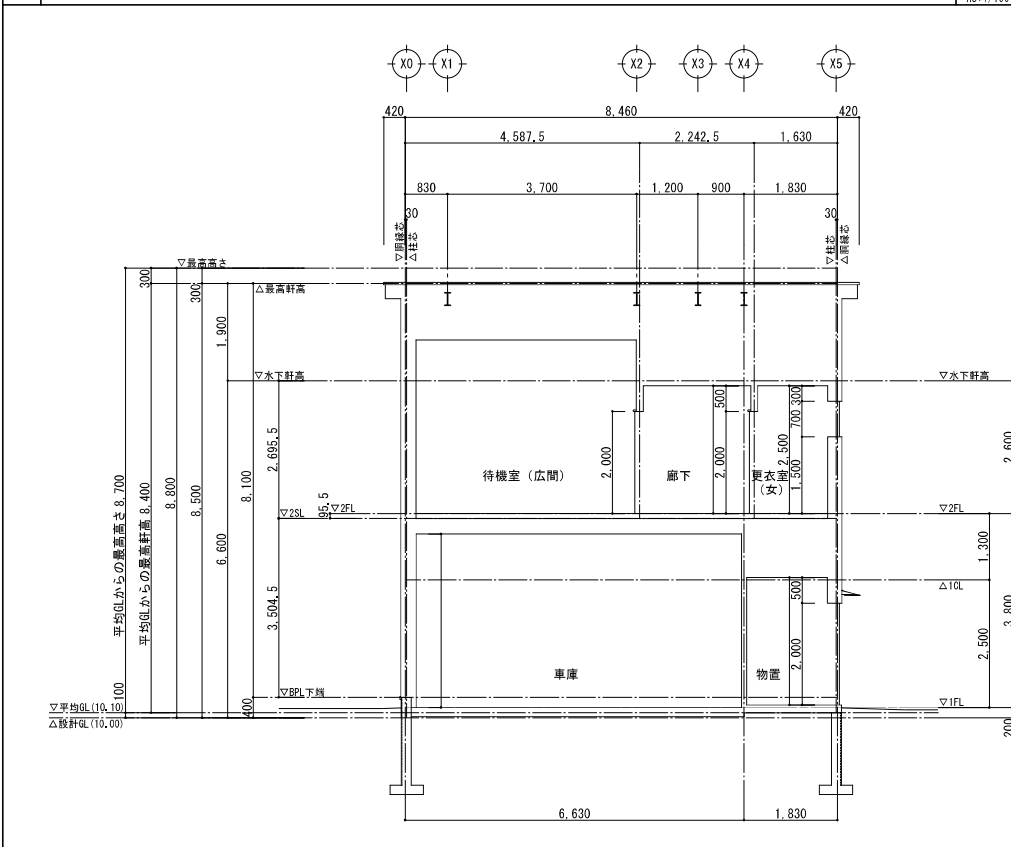
03 北側立面図 A1:1/50 A3:1/100



04 西側立面図 A1:1/50 A3:1/100



図面名称	新座市消防団第五分団車庫建設工事			
図面内容	立面図			
図 次	A1:1/50	※ 月	ROG.03	図面番号
	A3:1/100			A-10



採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数

各無窓算定 採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数 採光補正係数

各無窓算定 Y4通り側は道路に面しているため採光補正係数は3とし、検討を省略する。

令116条の2第1項一号における無窓検討(採光)

階	室名	床面積	係数	必要面積	算定式 面積(建具表より) × 数量 × 採光補正係数	有効面積	判定
2	待機室(広間)	40.80m ²	1/20	2.04m ²	3.50 (AW2) × 1 × 3 = 10.50	10.50m ²	有窓

法28条第2項における無窓検討(換気)

階	室名	床面積	係数	必要面積	算定式 面積(建具表より) × 数量	有効面積	判定
2	待機室(広間)	40.80m ²	1/20	2.04m ²	2.20 (AW1) × 1 + 1.60 (AW2) × 1 = 3.80	3.80m ²	有窓

令116条の2第1項二号における無窓検討(排煙)

階	室名	床面積	係数	必要面積	算定式 面積(建具表より) × 数量	有効面積	判定
2	待機室(広間)	40.80m ²	1/50	0.82m ²	1.000 (AW2) × 1 = 1.000	1.00m ²	有窓

消防上無窓階検討

階数	床面積	係数	必要面積	算定式 面積(建具表より) × 数量	有効面積	判定
1	64.80m ²	1/30	2.16m ²	2.20 (AW1) × 1 = 2.20	2.20m ²	有窓
	開口部(750×1200以上) 2箇所 (AW1(引違い×2)) ≥ 2箇所					
2	64.80m ²	1/30	2.16m ²	2.20 (AW1) × 1 = 2.20	2.20m ²	有窓
	開口部(750×1200以上) 2箇所 (AW1(引違い×2)) ≥ 2箇所					

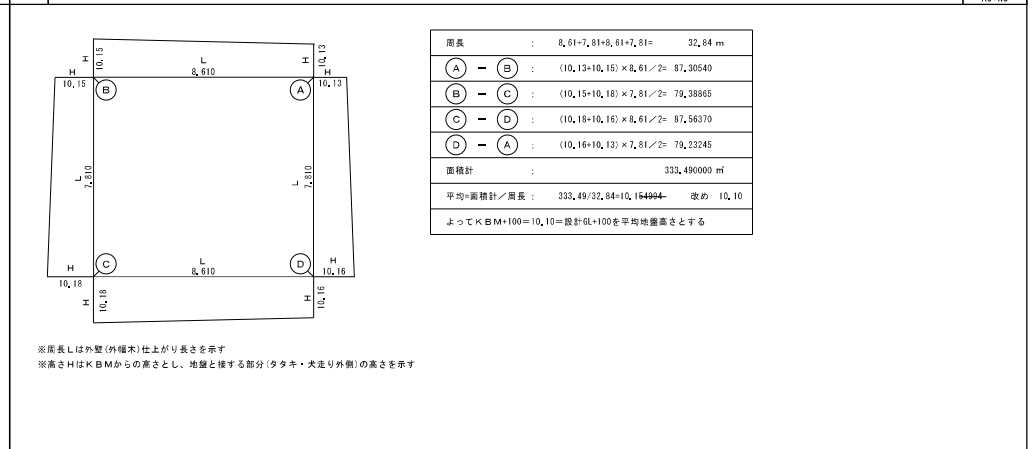
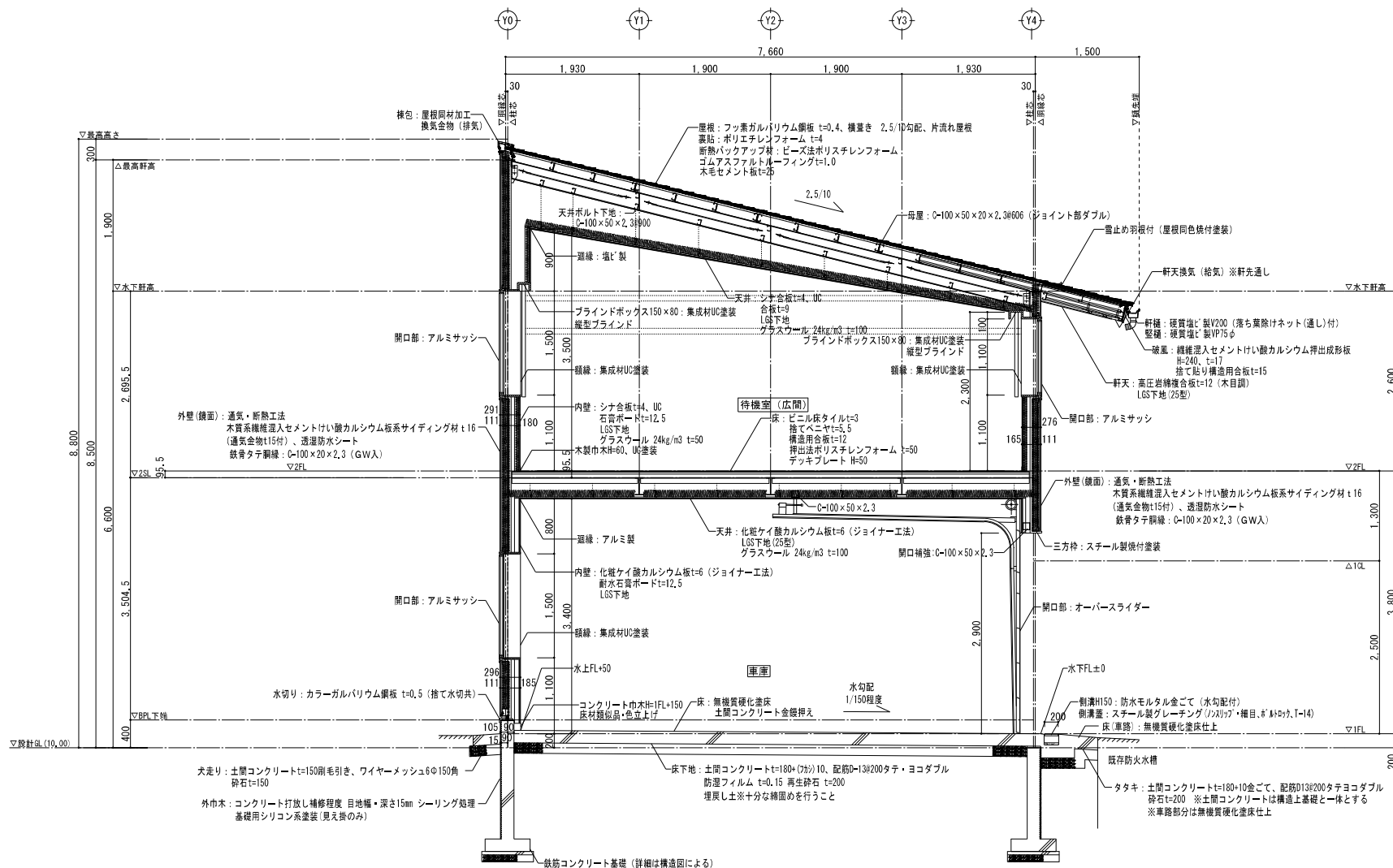


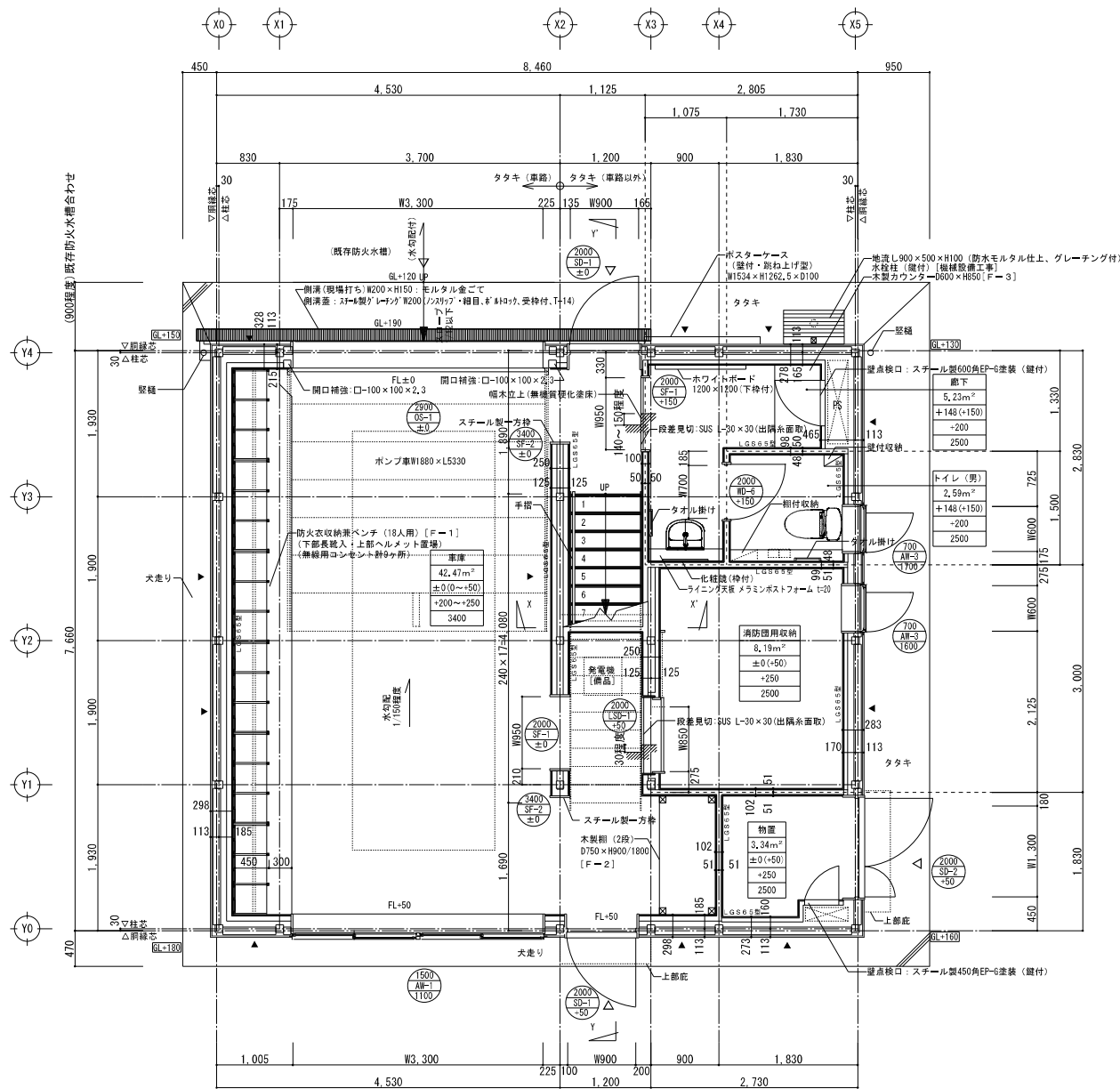
Table with 2 columns: 1. 建築表1 (Building Table 1) containing detailed specifications for fire doors, windows, and other components. 2. 建築表2 (Building Table 2) containing specifications for fire-rated glass and other fire safety materials.

Table with 2 columns: 1. 建築表3 (Building Table 3) containing specifications for fire-rated glass and other fire safety materials. 2. 建築表4 (Building Table 4) containing specifications for fire-rated glass and other fire safety materials.

※換気・排煙・消防(無燃焼・普通燃)の計算による数値は引き返しを除く、有効寸法を示す
※換気・排煙・消防(無燃焼・普通燃)の計算による数値は引き返しを除く、有効寸法を示す
※換気・排煙・消防(無燃焼・普通燃)の計算による数値は引き返しを除く、有効寸法を示す



図面名称	新倉市消防団第五分団車庫建設工事		
図面種類	矩計図		
図大	A1:1/30	図小	A3:1/60
図名	ROG.03	図番	A-13

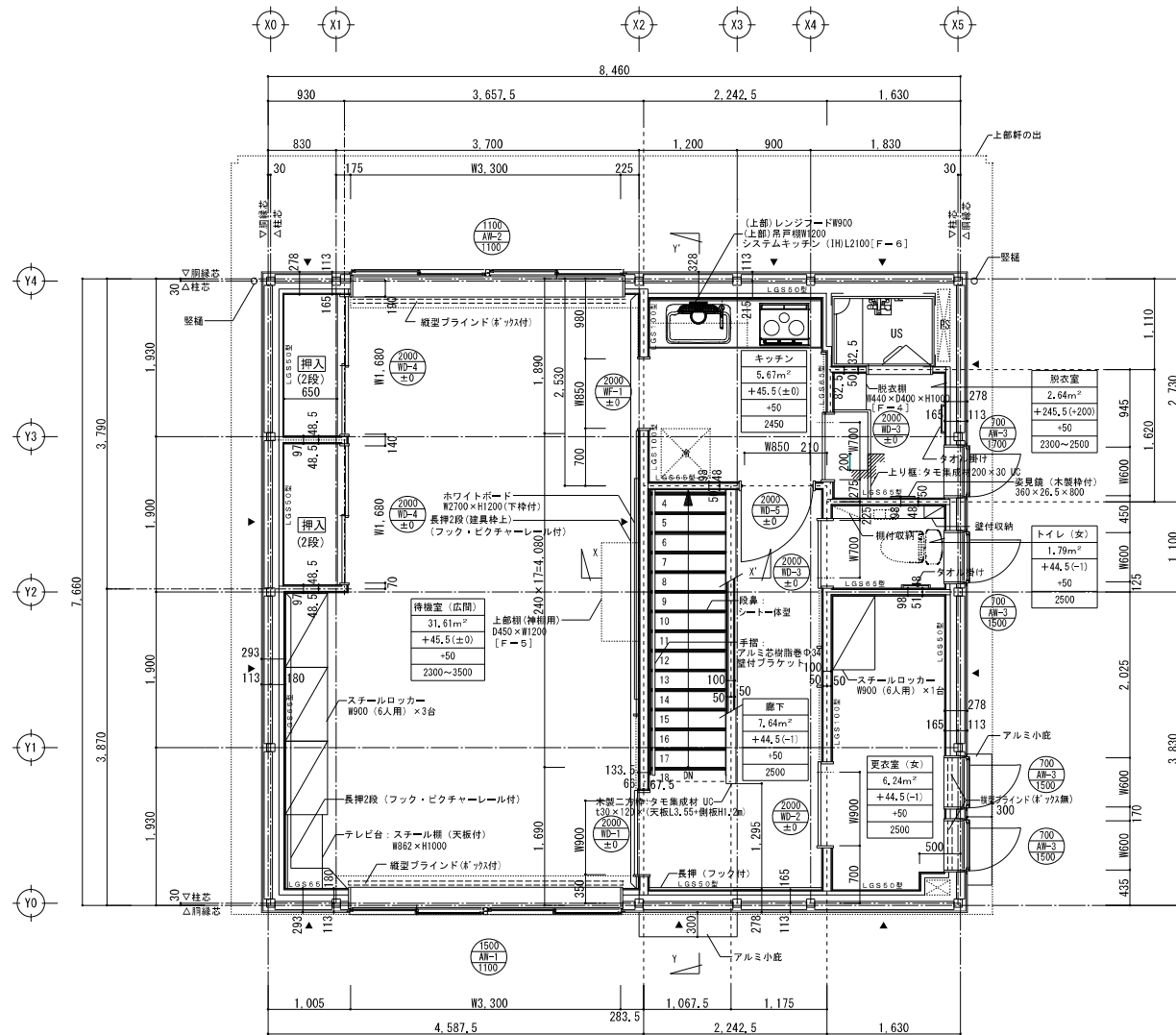


特記事項
 設計GL=BW±0 (10.00)
 1FL=設計GL+200
 2FL=2SL+95.5

凡例

車庫	室名
100m ²	床面積
+50(±0)	デッキプレート天端からのFLレベル(2階)
+130	土間コンクリートからのFLレベル(1階)
2500	()はFLからのレベル
2000	2SLからのデッキプレート天端レベル(2階)
AW-1	設計GLからの土間コンクリート天端レベル(1階)
±0	FLからの天井高さ
△	建具H寸法
▲	建具記号
	FLからの腰高
	出入口を示す
	ブレースを示す

図名	新座市消防団第五分団車庫建設工事		
図面名称	1階平面詳細図		
図尺	A1:1/30	年月	ROG.03
図番	A3:1/60	設計者	設計番号 A-14

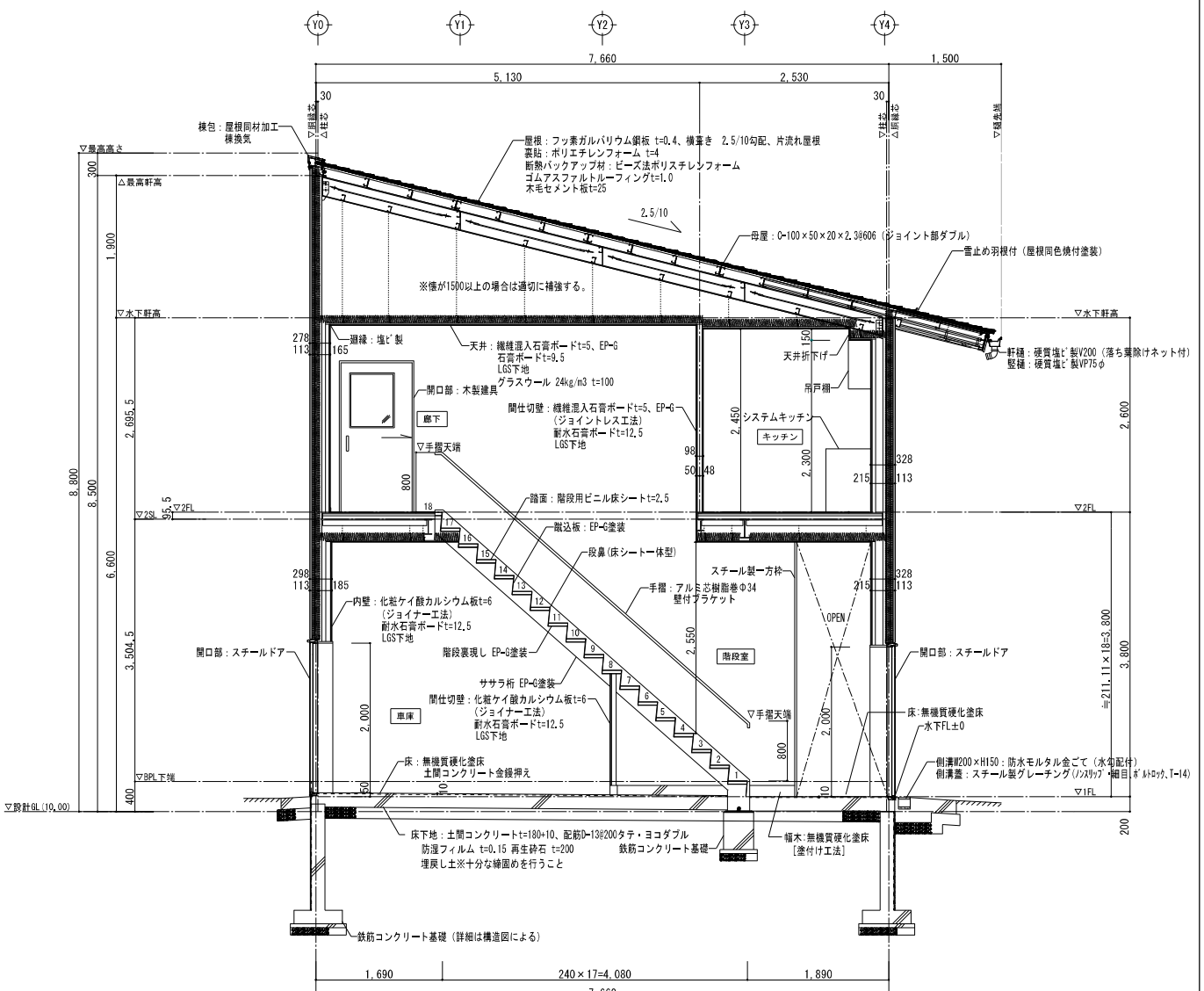
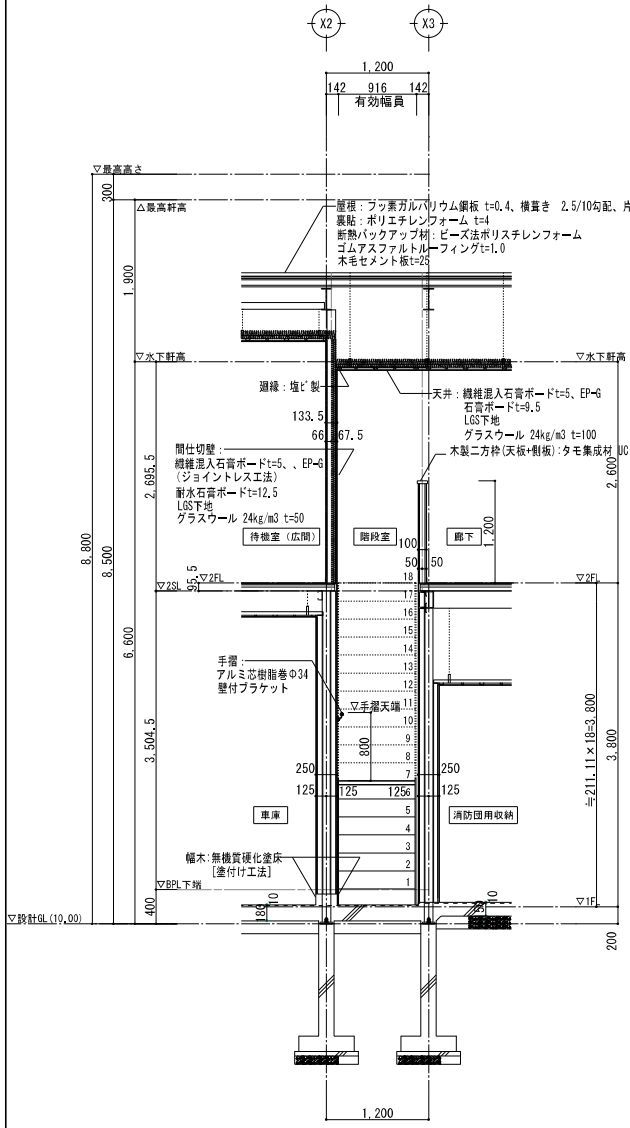


特記事項
 設計GL=±0(10.00)
 1FL=設計GL+200
 2FL=2SL+95.5

凡例

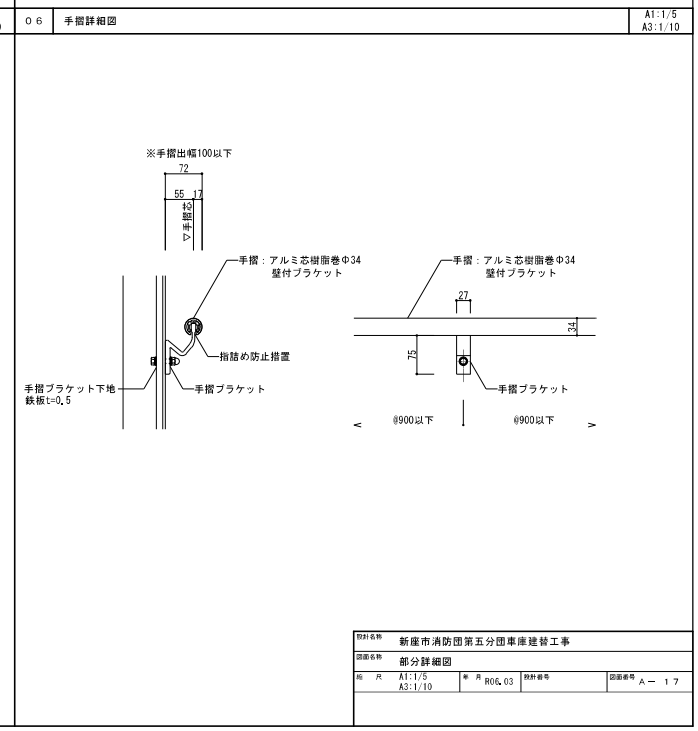
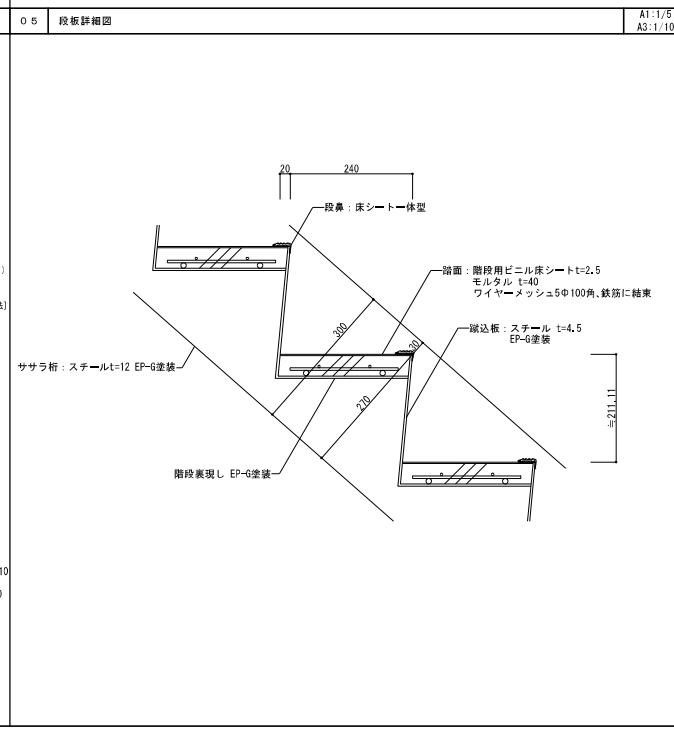
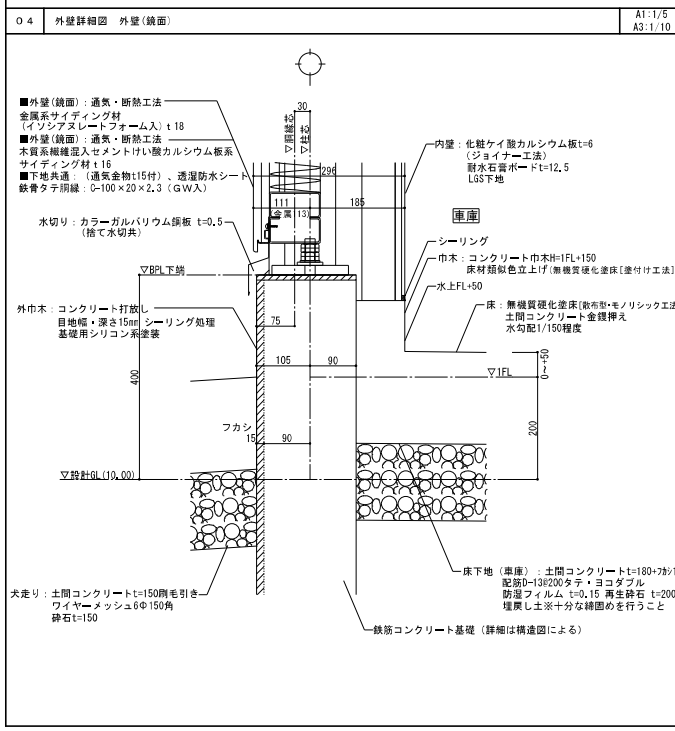
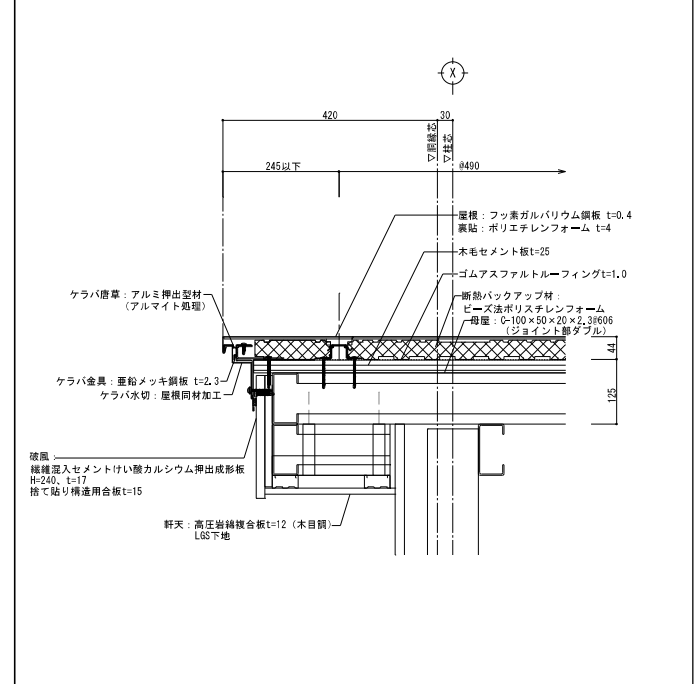
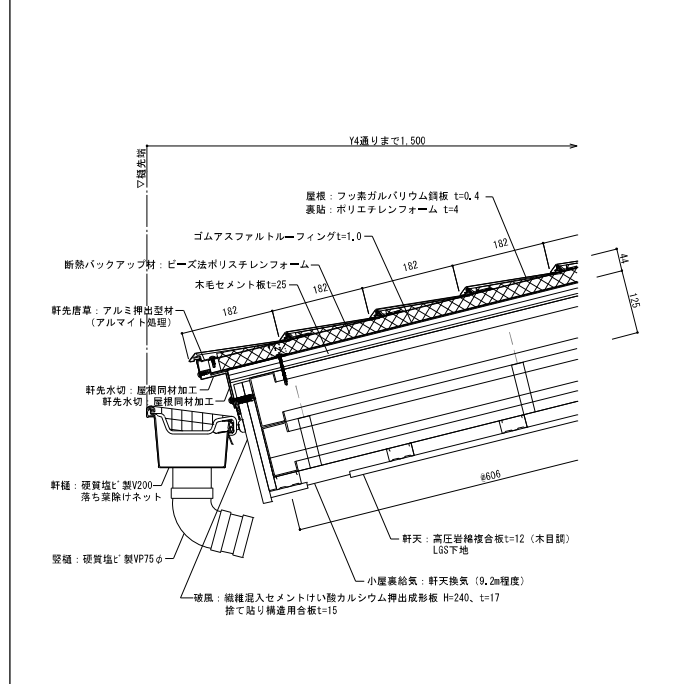
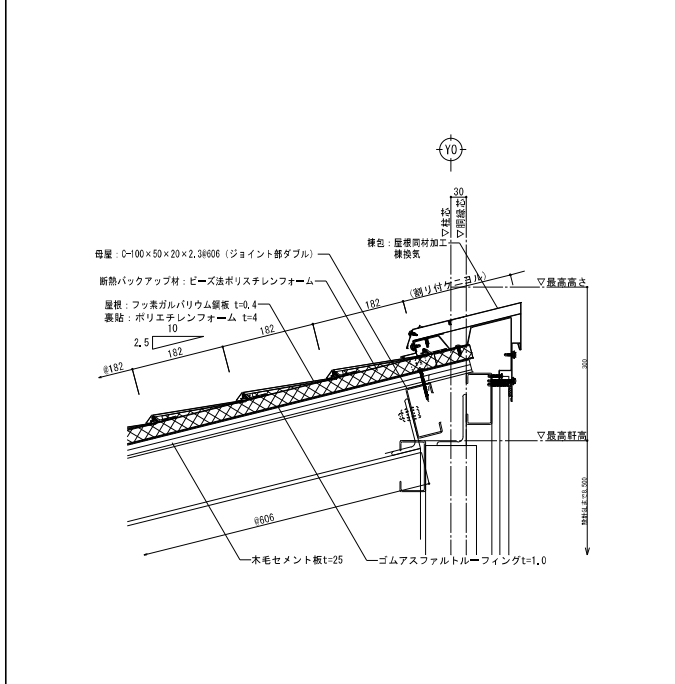
100m ²	≡ 室名
+50(±0)	≡ 床面積
+130	≡ テッキプレート天端からのFLレベル(2階)
2500	≡ 土間コンクリートからのFLレベル(1階)
	()はFLからのレベル
	≡ 2SLからのデッキプレート天端レベル(2階)
	≡ 設計GLからの土間コンクリート天端レベル(1階)
	≡ FLからの天井高さ
2000 AW-1 ±0	≡ 建具H寸法
	≡ 建具記号
	≡ FLからの腰高
△	≡ 出入口を示す
▲	≡ プレースを示す

図名	新座市消防団第五分団車庫建設工事		
図面名	2階平面詳細図		
図 尺	A1:1/30	図 尺	A3:1/60
日 付	06.03	設計者	15



図面名称	新座市消防団第五分団車庫建設工事		
図面種類	階段断面詳細図		
図面尺寸	A1:1/30	図面番号	設計番号 A-16
縮尺	A3:1/60	設計者	ROG.02

01	水上屋根納り図	A1:1/5 A3:1/10	02	軒先納り図	A1:1/5 A3:1/10	03	ケラバ納り図	A1:1/5 A3:1/10
----	---------	-------------------	----	-------	-------------------	----	--------	-------------------



図名	新倉市消防団第五分団車庫建設工事		
図面名	部分詳細図		
図尺	A1:1/5 A3:1/10	※ 尺	ROG.03
図番	A-17	図番	A-17

01 家具図 A1:1/30 A3:1/60 F-1 防火衣収納兼一部ベンチ F-2 木製箱 (2段) F-3 木製カウンター A1:1/20 A3:1/40 A1:1/30 A3:1/60 A1:1/30 A3:1/60 A1:1/20 A3:1/40

F-1 防火衣収納兼一部ベンチ

■仕様一覽表
 本体：両面圧延メラミンパーティクルボード
 ハンガーパイプ：ステンレス製φ32
 木口：ナラ修正材 t30 (塗装品)
 天板：ナラ集成材 t30 (塗装品)
 台輪：SUSプレート

F-2 木製箱 (2段)

■仕様一覽表
 天板：メラミン化粧板 t30
 木口：A B S 製樹脂
 ハンガーパイプ：ステンレス製φ32
 本体：両面圧延メラミンパーティクルボード
 木口：ナラ修正材 t30 (塗装品)
 天板：ナラ集成材 t30 (塗装品)
 台輪：SUSプレート

F-3 木製カウンター

■仕様一覽表
 カウンター：ナラ集成材 t30 (塗装品)
 ステンレスブラケット

F-4 男衣箱

■仕様一覽表
 本体：両面圧延メラミンパーティクルボード
 ステンレスブラケット

F-5 上部棚

■仕様一覽表
 棚：ナラ集成材 t25 (塗装品)

F-6 システムキッチン

■仕様一覽表
 厨房機器：LIXIL シェリ 型2100型以上
 燃焼ガスコンロ (ガス)
 スライドドア (吹切アルミ-T-2)
 無水両扉引きグリル
 シングルレバ
 レンジフード：LIXIL SER732 (W750×H650・幕板加工)
 吊戸棚 W50 (7-1) 側：側面・底面不熱処理 + W750
 縦型レンジタイプ
 水切棚 W600 (2段)
 キッチン 林：LIXIL ホワイト 1
 ※耐震ラッチ付
 3口IH (レンジフード) 連動型

■スチール家具 仕様表

スチール製ロッカー：サイズ/φ900×D515×H1790、6人用
 : 鍵 / オートダイヤル式
 : 付属品/ 網棚、ハンガーパイプ、コートフック、タオル掛け
 ※コクヨ LKローAD6ASWN 同等品

スチール製テレビ台：サイズ/φ862×D448×H1000
 : 棚板/ 2段 (可動式)
 : 天板/ 専用天板付き
 ※コクヨ BWU-K59 同等品 (天板 BWU-T-W9 同等品)

02 手洗いライニング

■仕様一覽表
 メラミン不硬化化粧板 t3 柱上範囲
 タオル掛け
 鏡
 前扉：メラミン不硬化化粧板 t3 (下地は柱上表による)
 ライニング甲板：メラミンポストフォーム
 前面板：メラミン不硬化化粧板 t3
 金取具水栓 t12 x 12
 L.G.S.6.S 開口補強材にて補強

03 ホワイトボード詳細図

■仕様一覽表
 コーナーキャップ (樹脂)
 フック付 アルミ枠
 アルミ枠 ホワイト平面白板
 粉受け
 粉受けキャップ (樹脂)
 1階廊下 ホワイトボード
 2階待機室 ホワイトボード

04 外部地流し

■仕様一覽表
 スチールグレーティング (受枠高) (1=2,4) 鋼板/スチール/鋼板 (樹脂)
 スチールグレーティング 受枠
 防水モルタル仕上
 空洞裏側、タタキ等
 砕石 t60
 排水管 (機械設備工事)

05 長押 (フック付・既製品)

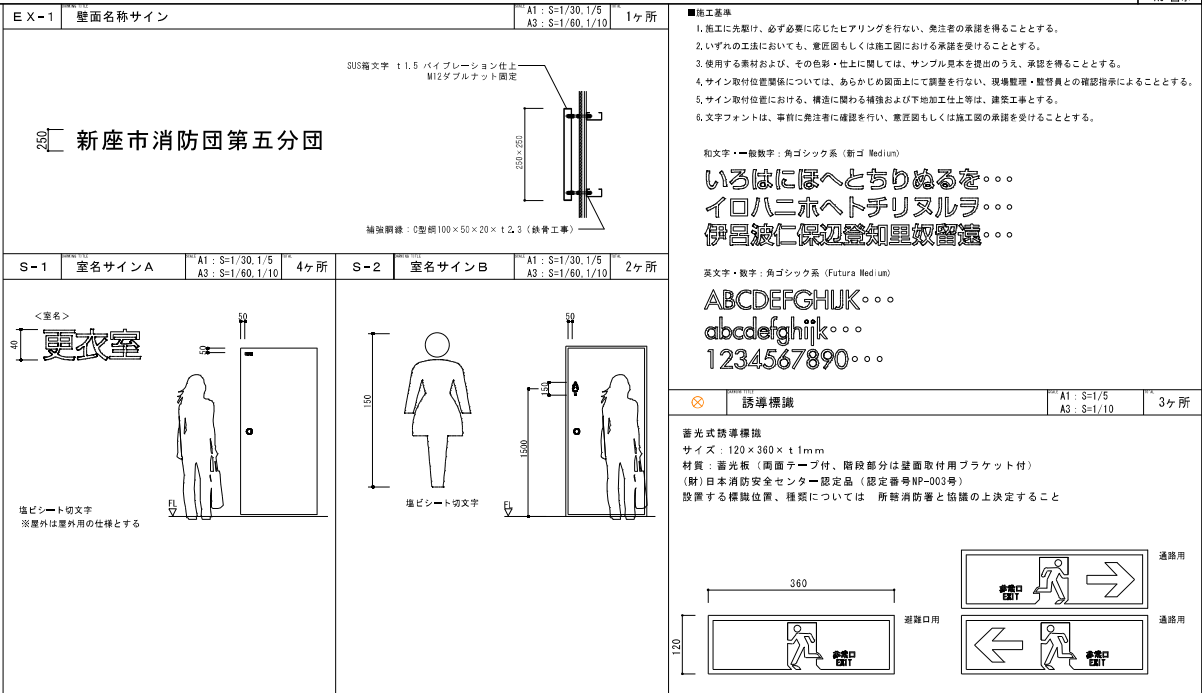
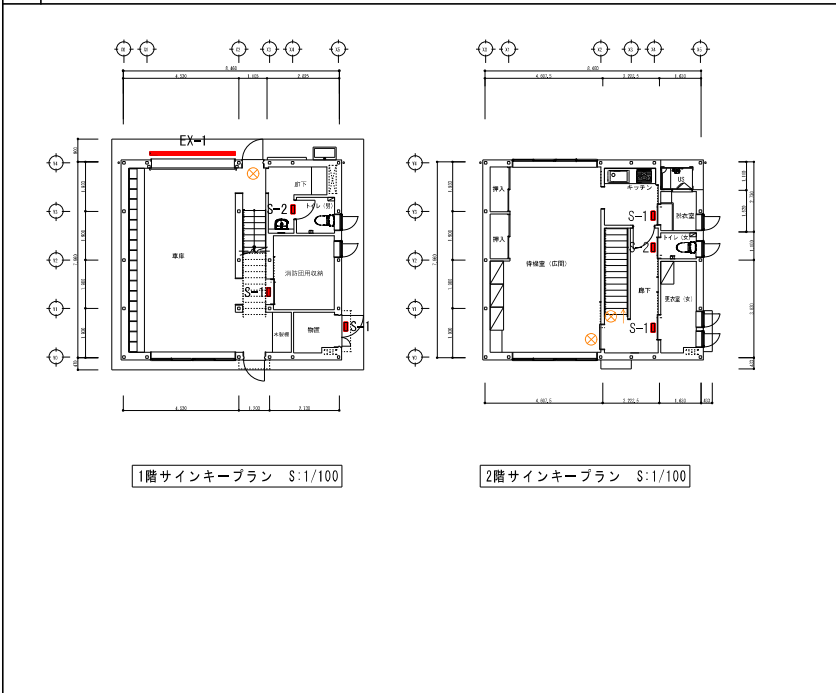
■仕様一覽表
 ※(特) ベルク「長押ラック 050 木地タイプ」同等品以上
 ※フック等の平部品は取付けず、納品する

■2階 廊下
 ・長押ラック L1.6m (下) 7,26m 上下2段
 ・長押ラック L1.4m 上下2段
 ・可動椅子フック 1.8ヶ所
 ・可動SUSフック 3ヶ所

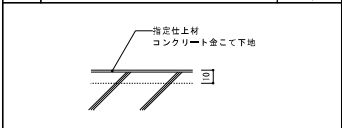
■2階 廊下
 ・長押ラック L1.2m 1枚
 ・可動椅子フック (安全重量3kg) 4ヶ所
 ・可動椅子フック (現場塗装) (安全重量3kg) 4ヶ所
 ・可動SUSフック 幅15×高さ55×奥行27mm取付数量：各2個/900mm×予備

06 アルミ庇

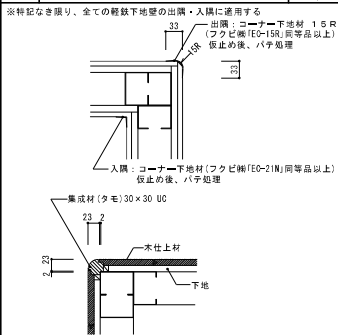
■仕様一覽表
 外壁
 庇受材 (C-100×50×3.2)
 開口補強材
 M12φ1000、両端部100



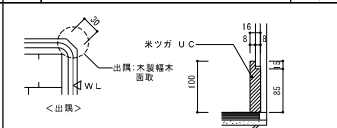
02 床：コンクリート金コテ A1: 1/5 A3: 1/10



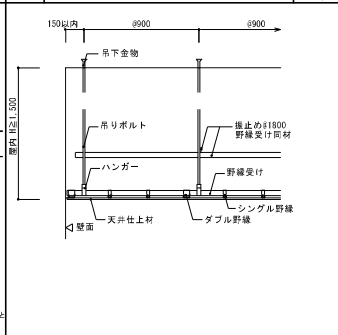
03 壁：軽鉄下地壁出隅・入隅 A1: 1/5 A3: 1/10



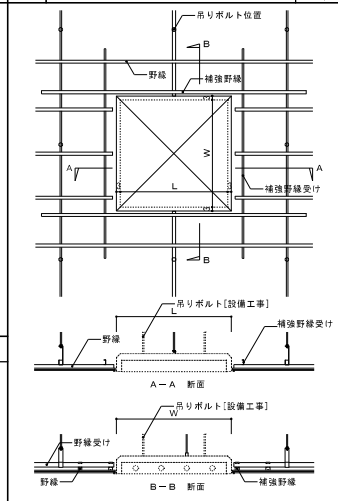
05 端木：木製端木 A1: 1/5 A3: 1/10



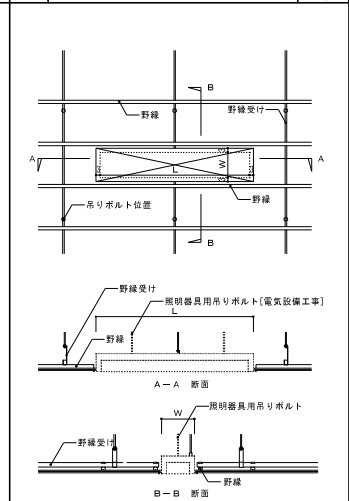
07 天井（横）補強 A1: 1/20 A3: 1/40



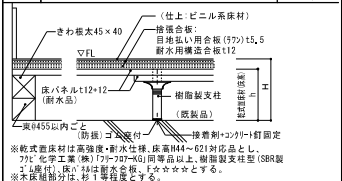
09 天井開口補強（野縁を切断する場合） A1: 1/20 A3: 1/40



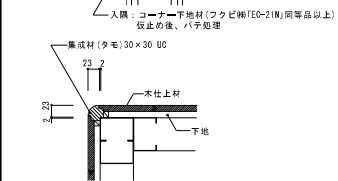
10 天井開口補強（野縁を切断しない場合） A1: 1/20 A3: 1/40



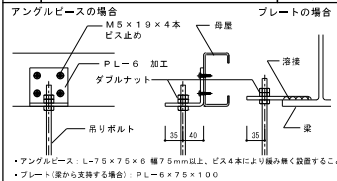
03 床：乾式置床（1階廊下・更衣室） A1: 1/5 A3: 1/10



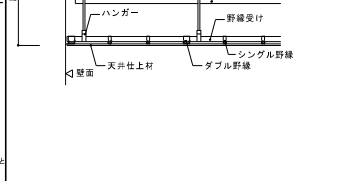
04 壁：LGS A1: 1/5 A3: 1/10



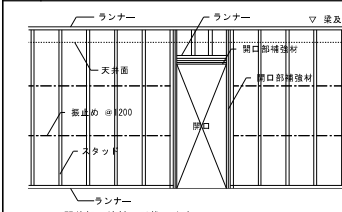
06 天井：吊元 A1: 1/5 A3: 1/10



08 天井：廻り縁 A1: 1/3 A3: 1/6



04 壁：LGS



※同一面の間仕切の中でスタッドの高さの高低がある場合は、高い方を適用すること。

※開口部補強材及び補強材取付用金物は、防錆処理を行うこと。又溶接及び溶断箇所は、さび止の塗料を施すこと。

※LGSの種類は、標準仕様による

※無電着系シールで取付粘着

※下張りボードは縦張り、上張りボードは縦張りとし、ジョイント位置が重ならないようにする（各仕様は2重張り共通）

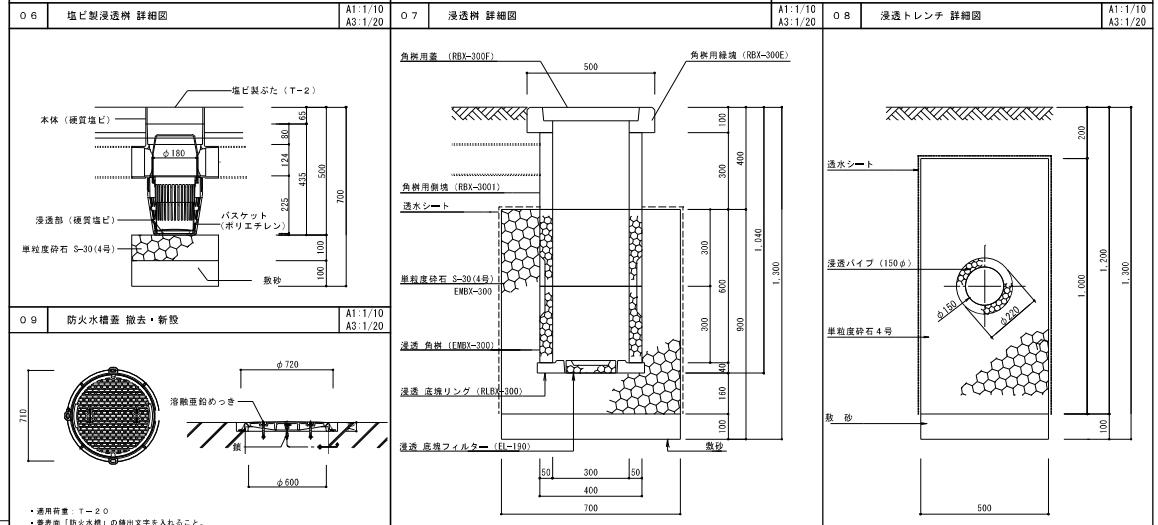
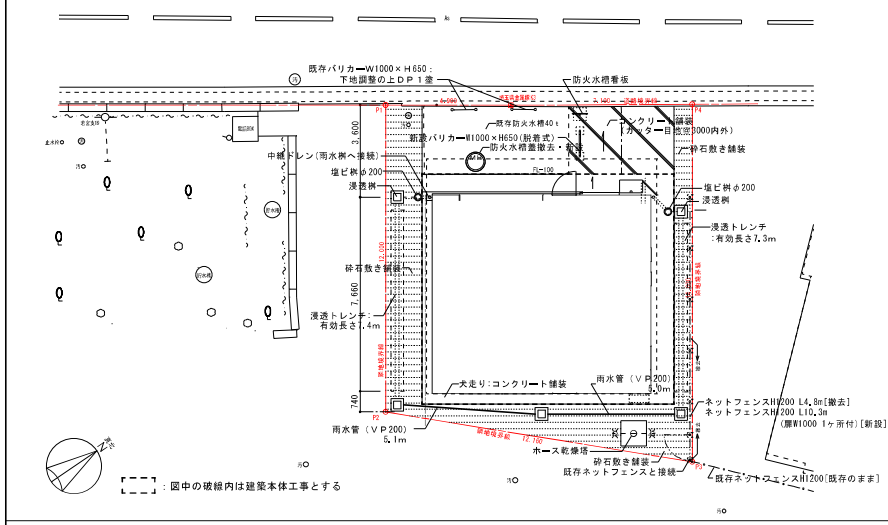
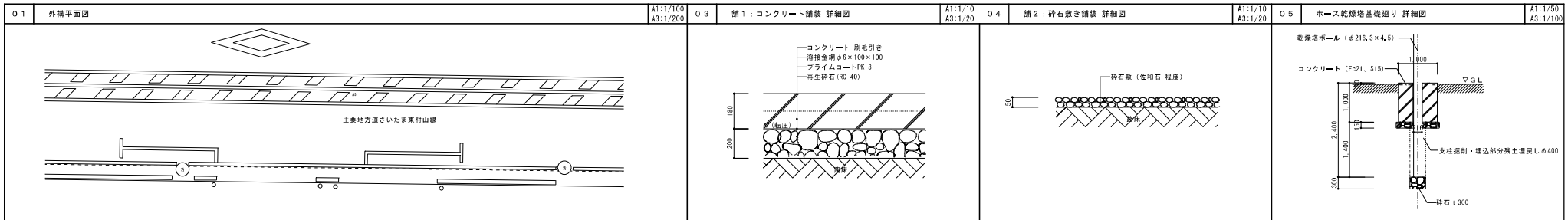
■ LGS 間仕切下地材の形状・寸法

種類	スタッド	ランナー	振れ止め	出入り口およびこれに連する開口部の補強材	補強材	スタッドの区分
50形	50×45×0.8	52×40×0.8	19×10×1.2	□-53×40×0.8	L-50×30×3	H≧2.7
65形	65×45×0.8	67×40×0.8		□-50×30×0.8	L-50×30×3	2.7<H≦4.0
76形	76×46×0.8	77×40×0.8	25×10×1.2	□-76×46×15×0.2	L-40×40×3	2.7<H≦4.0
90形	90×45×0.8	92×40×0.8		□-75×45×15×0.2	L-50×50×4	4.0<H≦4.5
100形	100×45×0.8	102×40×0.8		□-100×100×2.3	L-50×50×4	4.5<H≦5.0

11 天井開口補強リスト

階	■電気設備		■機械設備	
	サイズ	数量	サイズ	数量
1	200×1300	10	200×200	1
	200×650	1	400×400	3
			400×600	1
2	200×1300	13	350×350	1
			400×400	3
			500×500	1

※新座市消防団第五分団車庫建設工事
 図面番号 サイン図・詳細図
 図面尺 1/10(1/20) 図面尺 1/20(1/40)
 図面番号 A-19



凡例

名称	面積	名称
舗装		電動ホース乾燥塔(電動用コード付)
舗1	20.0㎡	(※日本ネットワークサポート N.A.ホースポール14.4m=300x4用 電線用品)
舗2	55.0㎡	バリカー W1000×H650 脱着式
※工事ヤードとして利用した部分の砕石敷復旧を含む		ネットフエンス
雨水排水設備		防火水櫃構造
浸透樹	5ヶ所	既存バリカー(2ヶ所)下地調整+DP1塗替
浸透トレンチ	14.7m	
塩ビ製浸透樹	2ヶ所	
雨水管(VP200φ)	10.1m	

02 雨水流出抑制計算

■新座市雨水流出抑制対策技術基準(公共施設用)
雨水流出抑制対策量 600m³/ha 以上

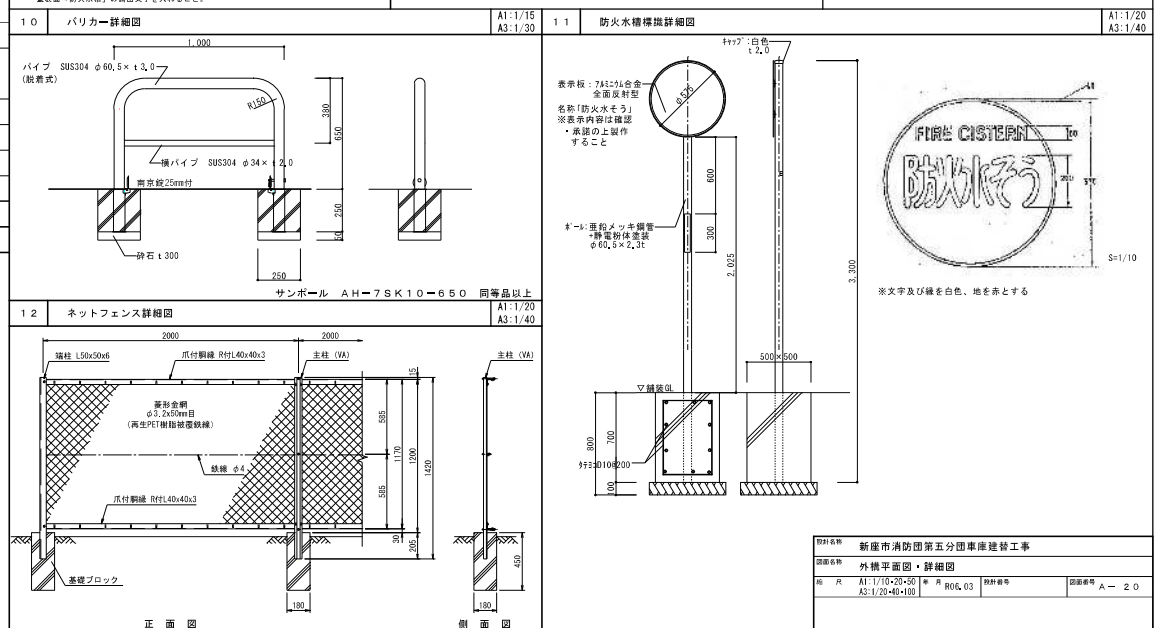
○敷地面積
155.91㎡ = 0.015591 ha

○浸透樹の底面積
0.3 × 0.3 × 5ヶ所 = 0.45㎡

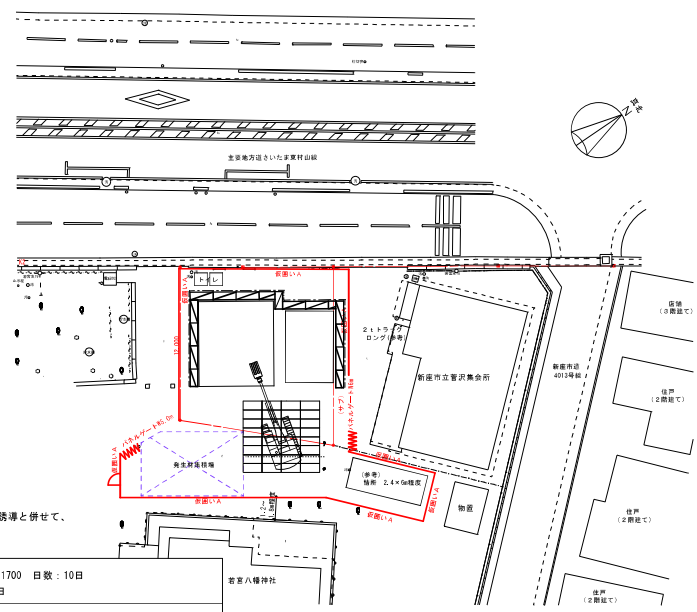
○必要な浸透面積
A = 334 × 処理対象面積(ha)
A = 334 × 0.015591 = 5.207㎡

○必要なトレンチ長さの算定式
L = (必要な浸透面積A - 浸透樹の底面積) ÷ 浸透トレンチ幅 × 1.2
L = (5.207 - 0.45) ÷ 0.5 × 1.2 = 11.41

○計画トレンチ長さの算定式
南西 7.4m + 北東 7.3m = 14.7 > 11.41 ○K



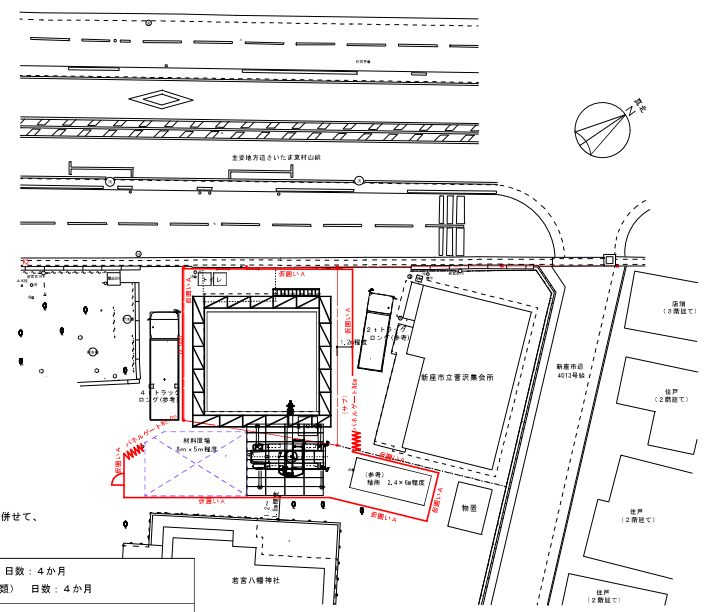
解体工事 仮設計画図



※交通誘導員は、工事中の搬出入車両の誘導と併せて、神社境内に訪れる方の誘導も含む。
延べ人数、120人想定

- 枠組本足場 建枠 600×1700 日数：10日
- 防音シート 日数：10日
- 敷き鉄板敷 日数：(解体+新築) 8か月 面積：35㎡
- 仮設エリア：万能鋼板(白、コーナー部透明) H3.0m 日数(解体+新築)：8か月

新築工事 仮設計画図



※交通誘導員は、工事中の搬出入車両の誘導と併せて、神社境内に訪れる方の誘導も含む。
延べ人数、120人想定

- 枠組本足場 建枠 900×1700 日数：4か月
- ネット伏養生シート(防災I型) 日数：4か月
- 敷き鉄板敷 日数：(解体+新築) 8か月 面積：35㎡
- 仮設エリア：万能鋼板(白、コーナー部透明) H3.0m 日数(解体+新築)：8か月

■参考工事工程表(約10ヶ月)

予定工程	2024												2025											
	令和6年度						令和7年度						令和7年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
準備・仮設	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■													
新築工事												■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
解体工事							■	■	■	■	■													

01	【解体】車庫 外部仕上表
※特記無き限り、全て撤去	
屋根	折板t0.6 新熱材4基貼り 山高H65巻隠し：ガルバリウム鋼板
軒裏	屋根材表し
外壁	窯業系パネルt15 庇：既製品
基礎立上り	コンクリート打放し仕上
建具	アルミ製窓 片開きドア スチール製軽量鉄骨シャッター
吊橋	軒裏：塩化P120 壁種：VP75φ
外構舗装	アスファルト、砕石砕き

02	【解体】車庫 内部仕上表
※特記無き限り、全て撤去	
※(床)デッキプレート下地：DP±1.2 H50×スタロフォームt20+コンパネt2+ベニヤt4	
※★はアスベスト含有建材（レベル3）	

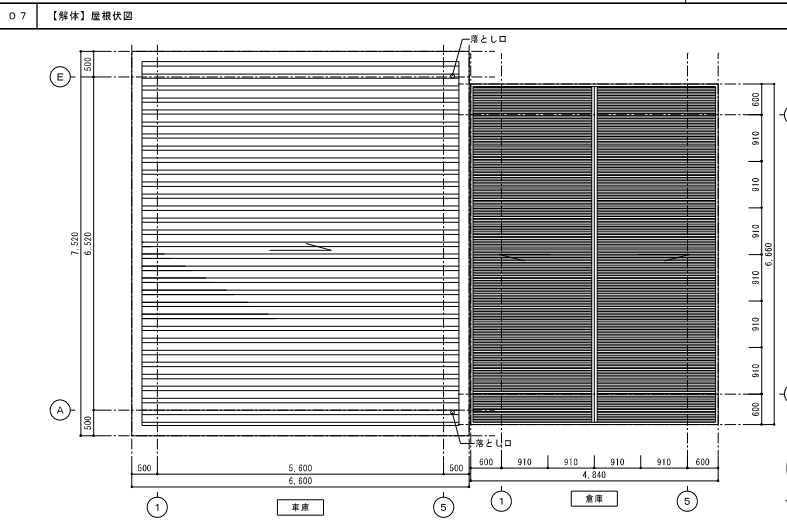
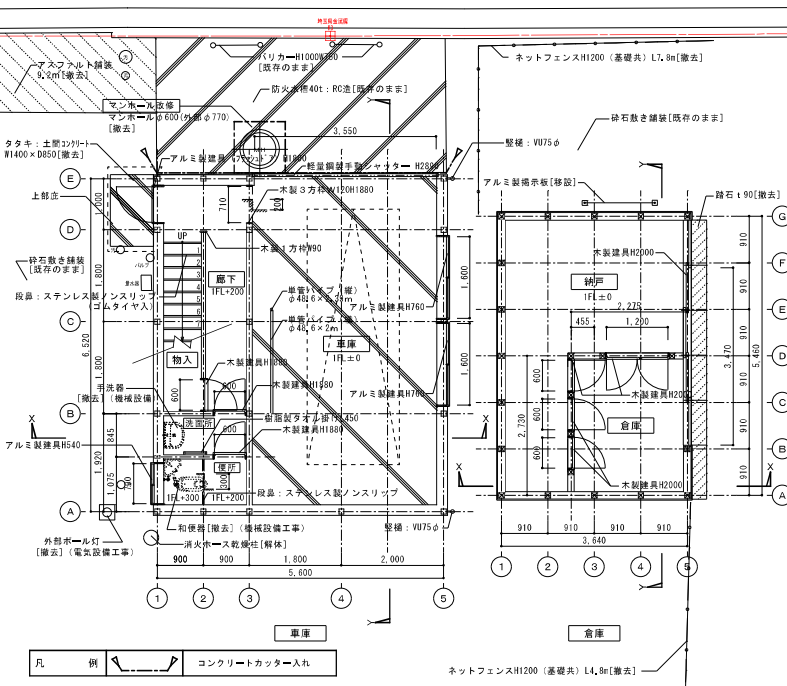
階	1階	階	2階
室名	車庫	室名	待機室
床下地	土間コンクリート	床下地	デッキプレート下地
床仕上	(打放し仕上)	床仕上	ビニル床シートt2.0
幅木仕上 高さ	ビニル種木 60	幅木仕上 高さ	木製種木 60
壁下地	ケイカル板t9.5★	壁下地	木下地
壁仕上	SOP	壁仕上	ケイカル板t9.5★
天井下地	木下地	天井下地	木下地
天井仕上	デッキプレート表し	天井仕上	化粧石膏ボードt9.5
天井高さ	2.590	天井高さ	2.390
備考	導管パイプ、スチール網	備考	床t1000×コンクリート600(コンクリート)

階	1階	階	共通
室名	洗面所	室名	共通
床下地	土間コンクリート	床下地	土間コンクリート
床仕上	ビニル床シートt2.0	床仕上	ビニル床シートt2.0
幅木仕上 高さ	ビニル種木 60	幅木仕上 高さ	ビニル種木 60
壁下地	ケイカル板t9.5★	壁下地	ケイカル板t9.5★
壁仕上	ビニルクロス	壁仕上	ビニルクロス
天井下地	木下地	天井下地	木下地
天井仕上	化粧石膏ボードt9.5	天井仕上	化粧石膏ボードt9.5
天井高さ	2.390	天井高さ	2.390
備考	タイル掛け	備考	

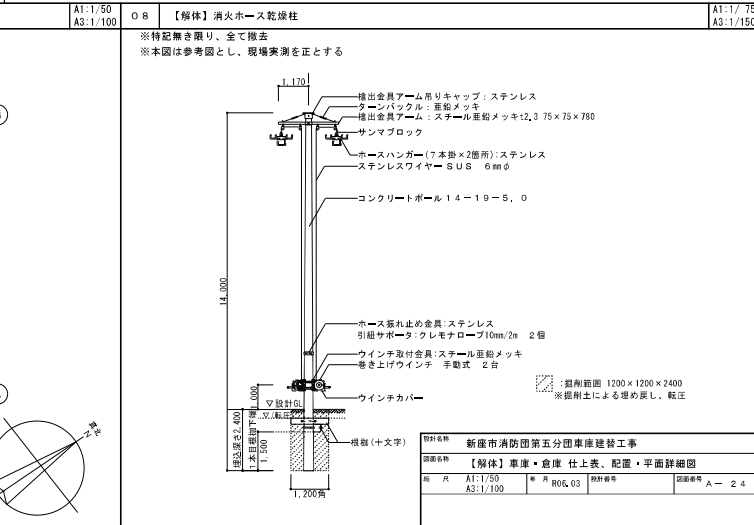
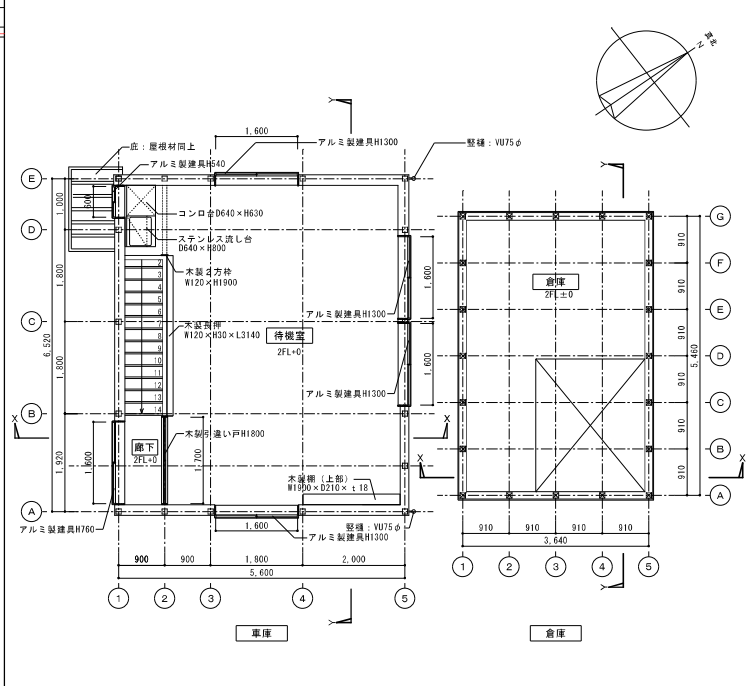
03	【解体】倉庫 外部仕上表
※特記無き限り、全て撤去	
屋根	重総メッキ鋼板(波板)
軒裏	重総メッキ鋼板(波板)
外壁	重総メッキ鋼板(波板)
基礎立上り	モルタル
建具	重総メッキ鋼板

04	【解体】倉庫 内部仕上表、廃棄物リスト	
※特記無き限り、全て撤去		
階	共通	■廃棄物リスト
室名	共通	木箱 W900×L2000×H450 2箱
床下地	土間コンクリート	木製看板 W5000×H800 1台
床仕上	モルタル含ゴテ	パイプ椅子 1台
幅木仕上 高さ	-	木箱 W330×L800×H450 5箱
壁下地	木副縁	※中身：台紙、胸巻紙
壁仕上	合板t12	折りたたみ机 W1800×D450×H700 6台
天井下地	-	高級 3m
天井仕上	あらかし	畳 2m
天井高さ	-	敷布 2m
備考	-	スチール製塗油 W430×L450×H600 9巻
		合板類 W900×L1500×厚さ 30本
		木箱 φ600×L4000 20本
		段ボール 25箱(生活ゴミ)

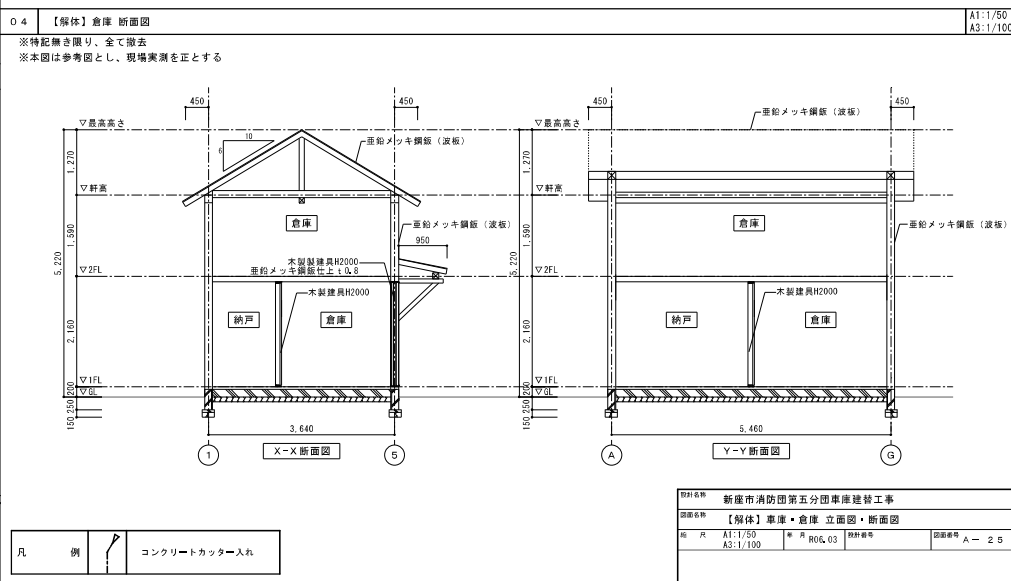
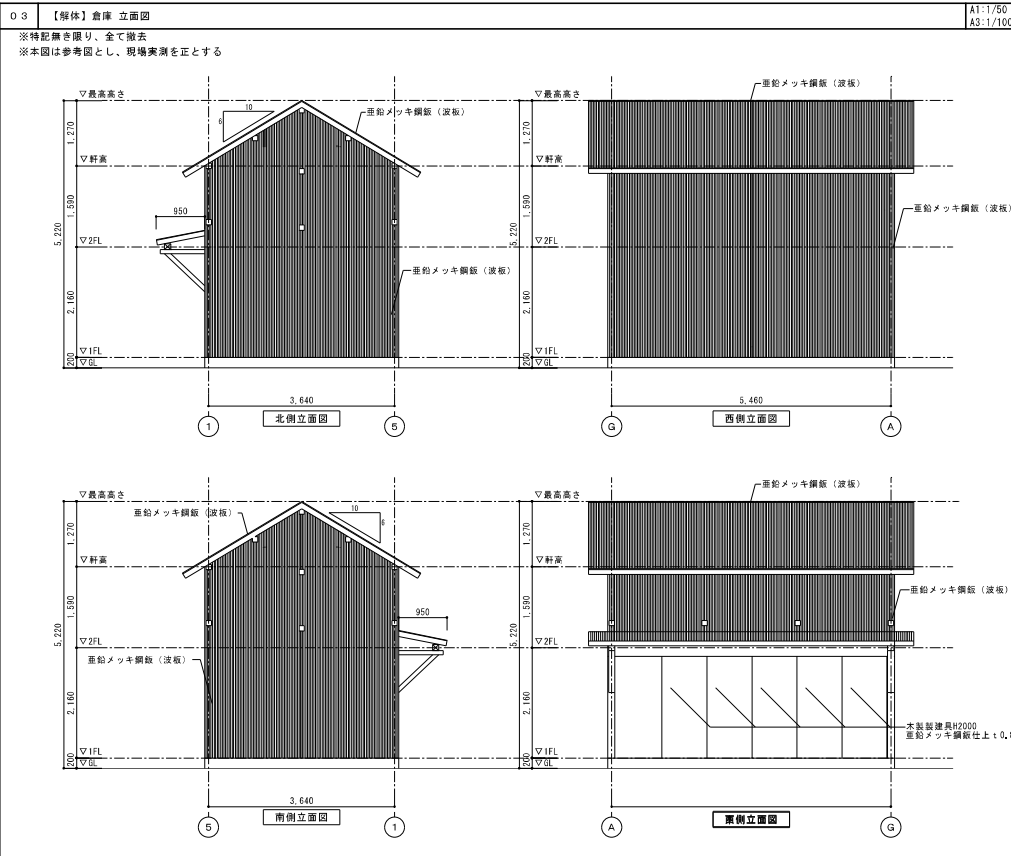
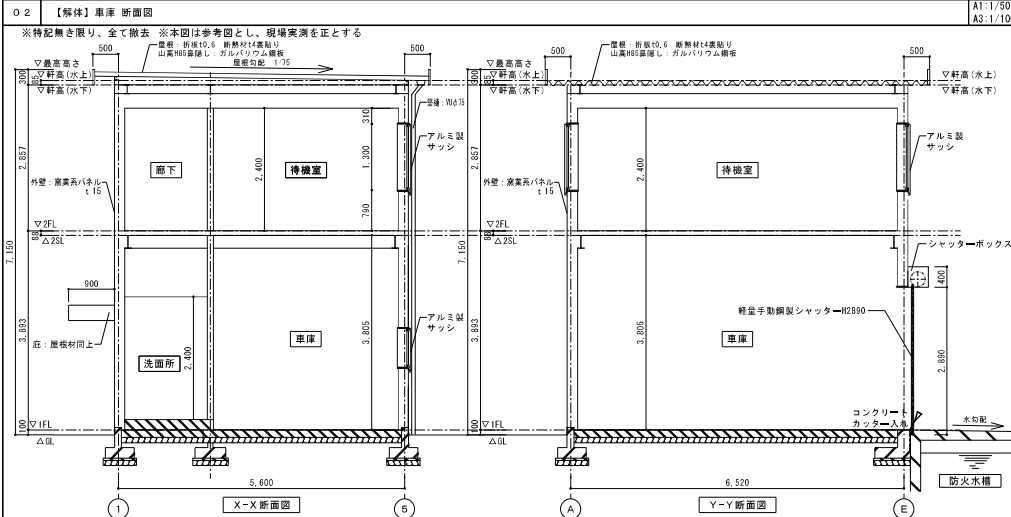
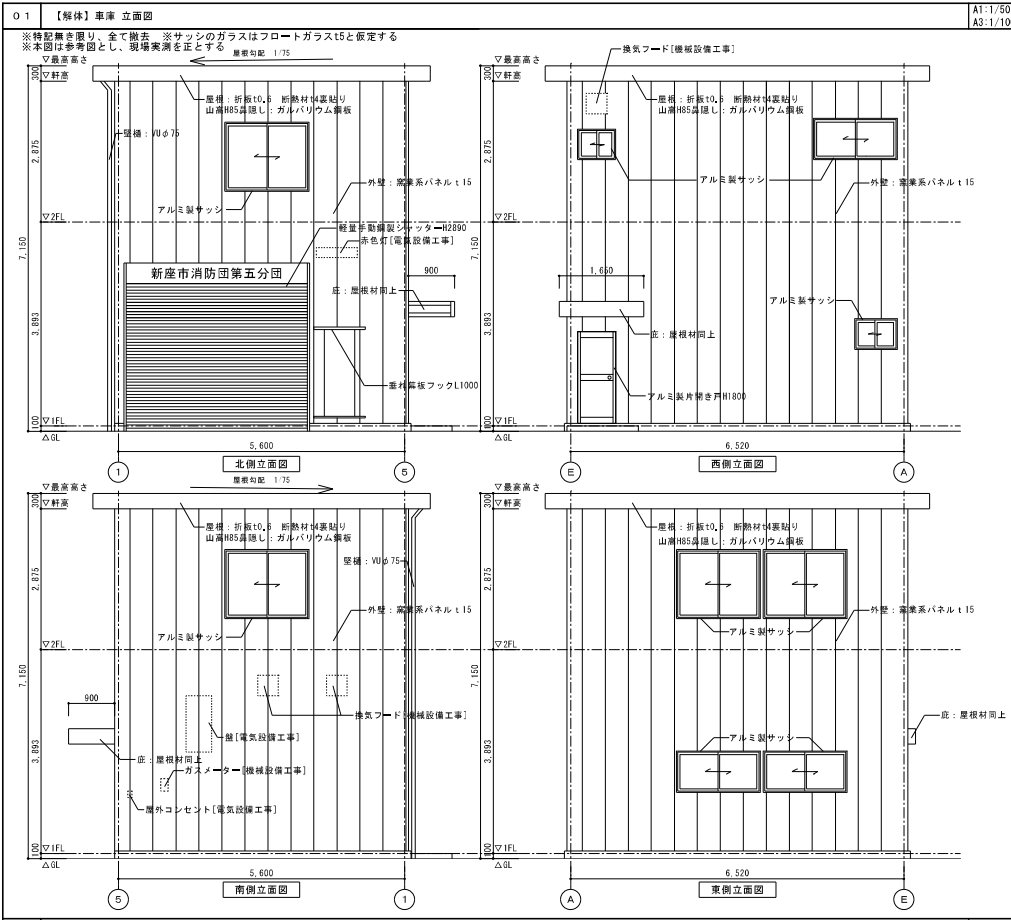
05	【解体】配置図兼1階平面詳細図	A1:1/50 A3:1/100
※特記無き限り、全て撤去		
※本図は参考図とし、現場実測を正とする		



06	【解体】2階平面詳細図	A1:1/50 A3:1/100
※特記無き限り、全て撤去		
※本図は参考図とし、現場実測を正とする		



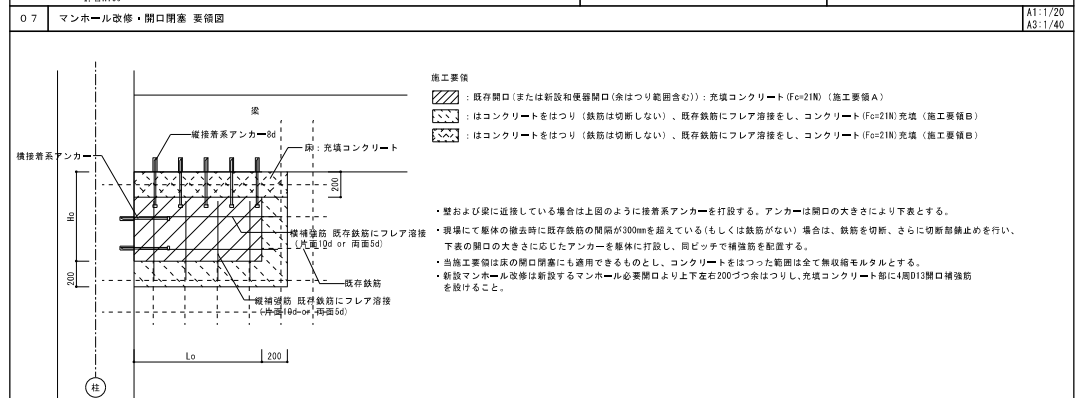
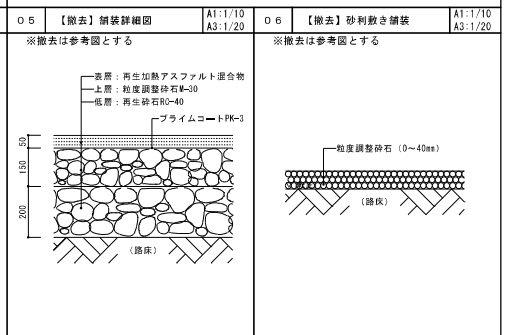
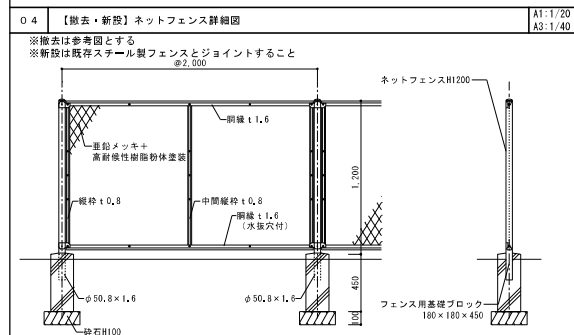
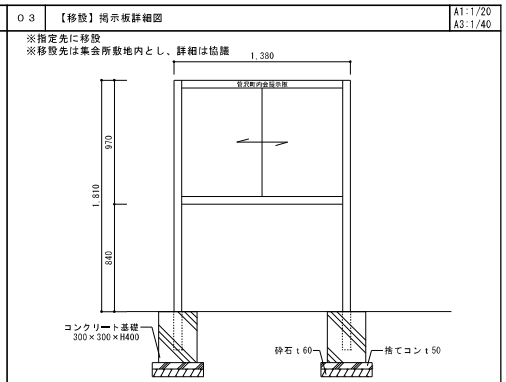
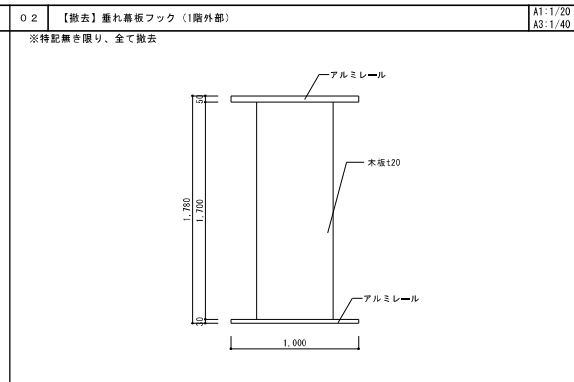
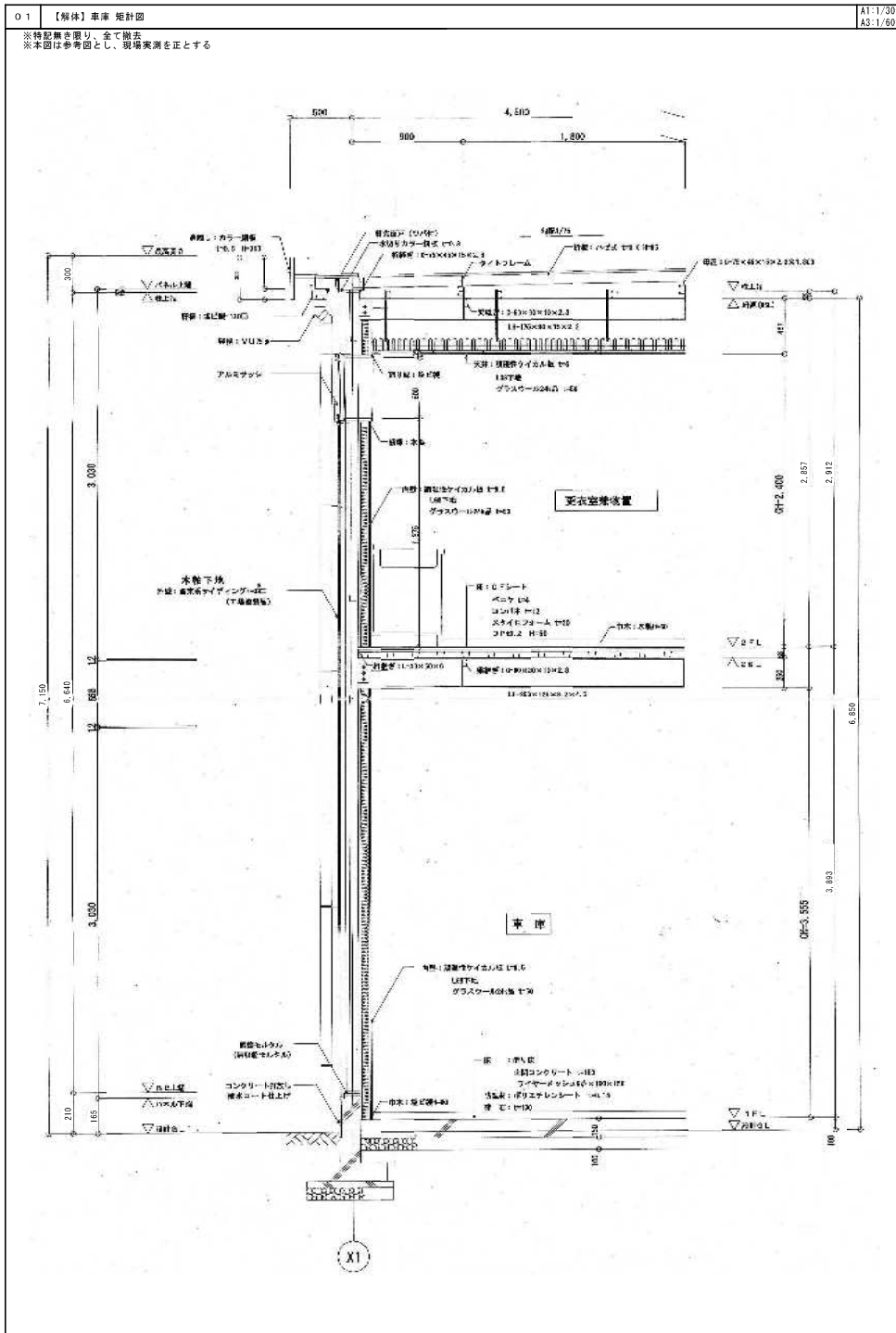
新倉庫消防団第五分団車庫建替工事			
図面名	【解体】車庫・倉庫 仕上表、配置・平面詳細図	図面番号	A-24
縮尺	A1:1/50 A3:1/100	製図者	ROG.03



図名 新座市消防団第五分団車庫建設工事			
図面名 【解体】車庫・倉庫 立面図・断面図			
縮尺 A1:1/50	※ 7 ROG.03	図番	図番 A-25
A3:1/100			

凡例

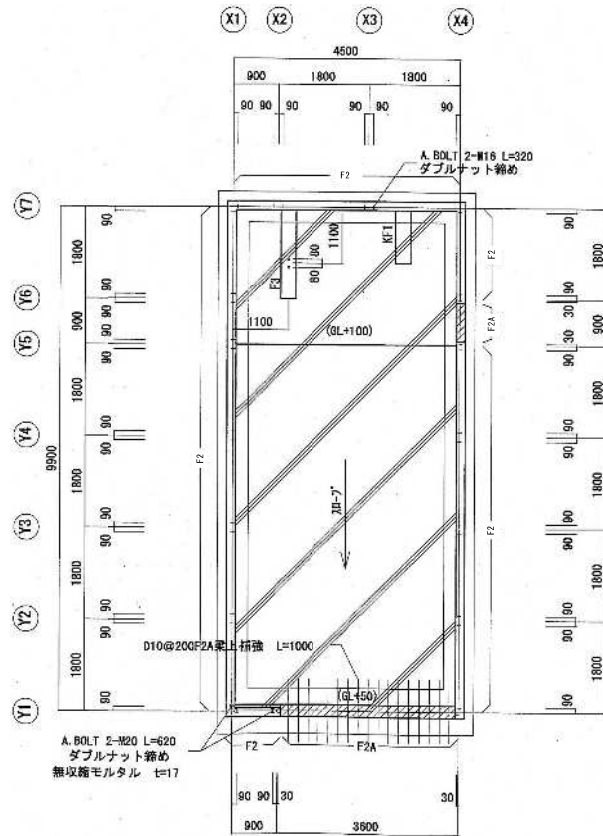
コンクリートカッター入れ



開口高さ	H ₀ ≤ 200			200 < L ₀ ≤ 1000			1000 < H ₀			備考
	開口長さ	必要なし	必要なし	必要なし	必要なし	必要なし	必要なし	必要なし	必要なし	
t < 150	縦補強筋	必要なし	必要なし	必要なし	D10φ200(S)	D10φ250(S)	I-010	D10φ200(S)	D10φ200(S)	アンカー埋め込み長は8dとする。アンカー定着長は20dとする。
	横アンカー	必要なし	必要なし	必要なし	I-010	D10φ200(S)	D10φ250(S)	I-010	D10φ200(S)	アンカー埋め込み長は8dとする。アンカー定着長は20dとする。
	縦アンカー	必要なし	I-010	I-010	必要なし	D10φ200(S)	D10φ250(S)	必要なし	D10φ200(S)	アンカー埋め込み長は8dとする。アンカー定着長は20dとする。
150 ≤ t < 180	縦補強筋	必要なし	必要なし	必要なし	D10φ200(S)	D10φ250(S)	I-010	D10φ200(S)	D10φ200(S)	アンカー埋め込み長は8dとする。アンカー定着長は20dとする。
	横アンカー	必要なし	必要なし	必要なし	I-010	D13φ200(S)	D13φ200(S)	I-010	D13φ200(S)	アンカー埋め込み長は8dとする。アンカー定着長は20dとする。
	縦アンカー	必要なし	I-010	I-010	必要なし	D10φ200(S)	D10φ250(S)	必要なし	D13φ200(S)	アンカー埋め込み長は8dとする。アンカー定着長は20dとする。

※特記無き限り、全て撤去
 ※本図は「参考構造体図」とし、部材数量は面積率にて算出すること。(既存面積36.51㎡×2フロア、参考床面積44.55㎡×2フロアのため、参考構造体数量×73.02/89.1)とする

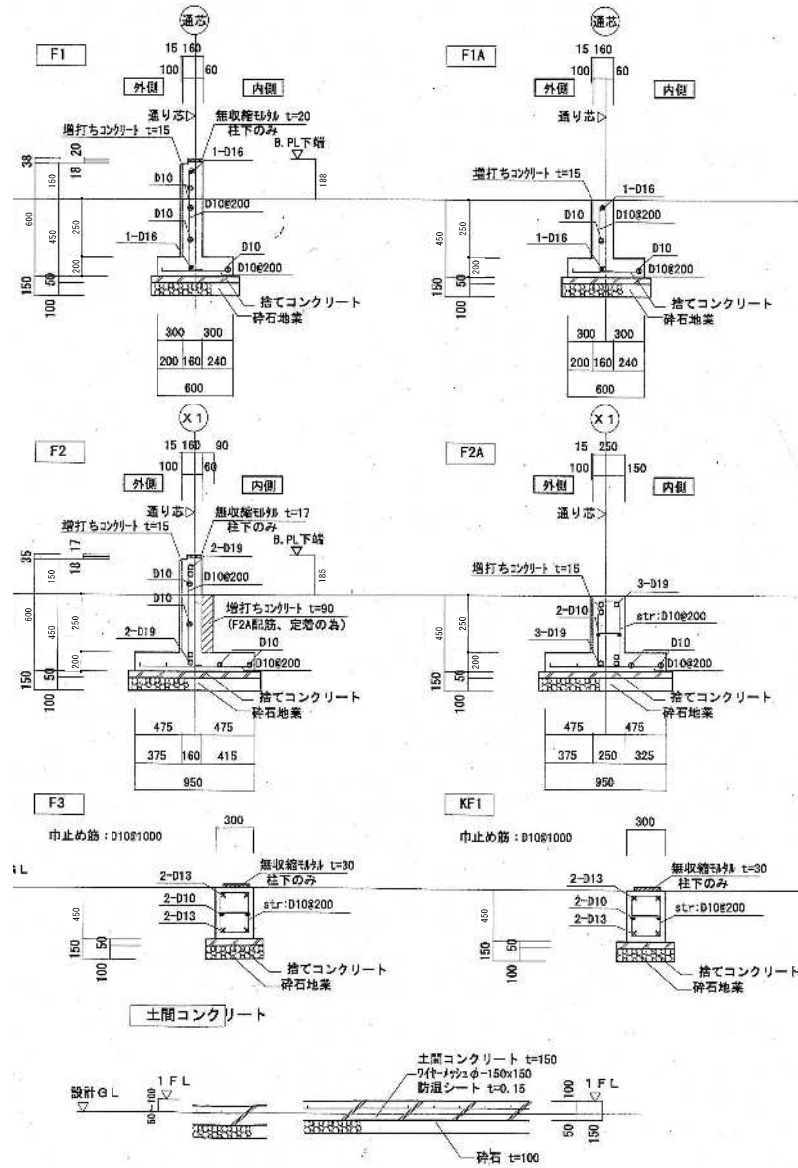
※特記無き限り、全て撤去
 ※本図は「参考構造体図」とし、部材数量は面積率にて算出すること



A. BOLT 2-M20 L=620
 ダブルナット締め
 無収縮モルタル t=17

は、二層コンクリートを示す。

- 十 A. BOLT 2-M16 L=320 ダブルナット締め
 - ① A. BOLT 2-M20 L=620 ダブルナット締め (30, 41, 42, 47)
 - A. BOLT 2-M12 L=240 ダブルナット締め (新設部分)
- 開口部縁のA, B, Cの寸法は、開口部基礎天板からとする。
 ①+②, ②+③のDは、柱下芯の半径(モルタルは、t=1)とする。
 その他の開口部(C)は、t=20とする。



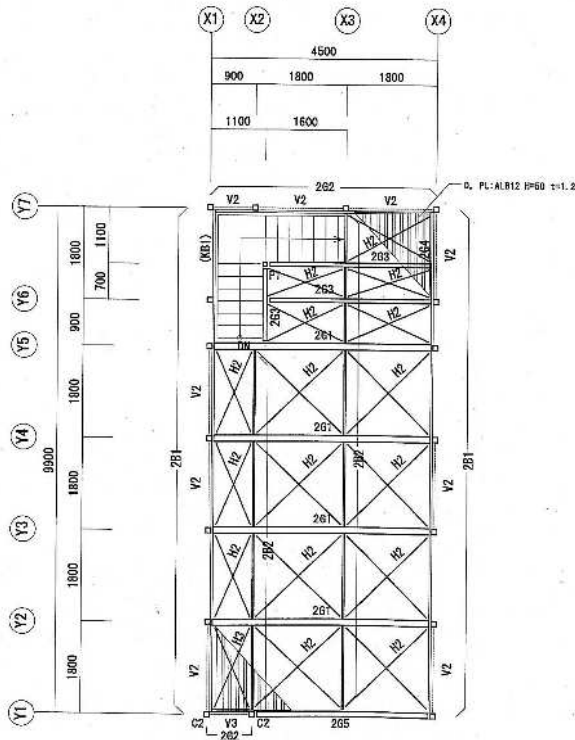
土間コンクリート

土間コンクリート t=150
 リバーナゲ2φ150x150
 防湿シート t=0.15
 砕石 t=100

図名	新都市消防団第五分団車庫建設工事		
図種	【解体】車庫 基礎伏図・基礎リスト		
図尺	A1:1/20 A3:1/40・100	図番	06G.03
図号	A-27		

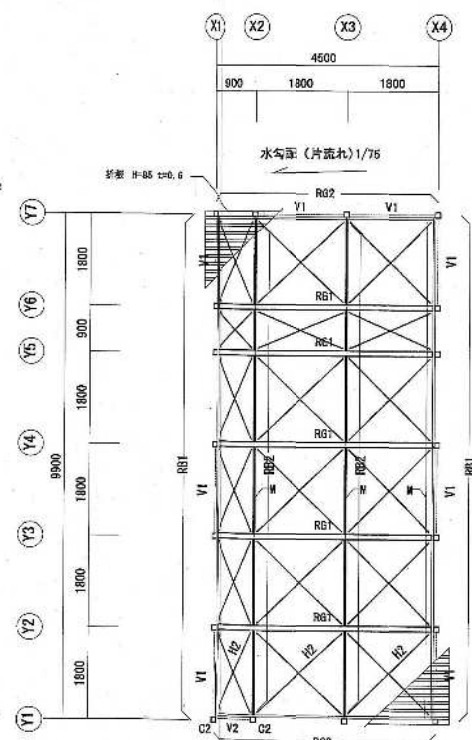
※特記無き限り、全て鋼去
※本図は「参考構造体図」とし、部材数量は面積分にて算出すること

※特記無き限り、全て鋼去
※本図は「参考構造体図」とし、部材数量は面積分にて算出すること



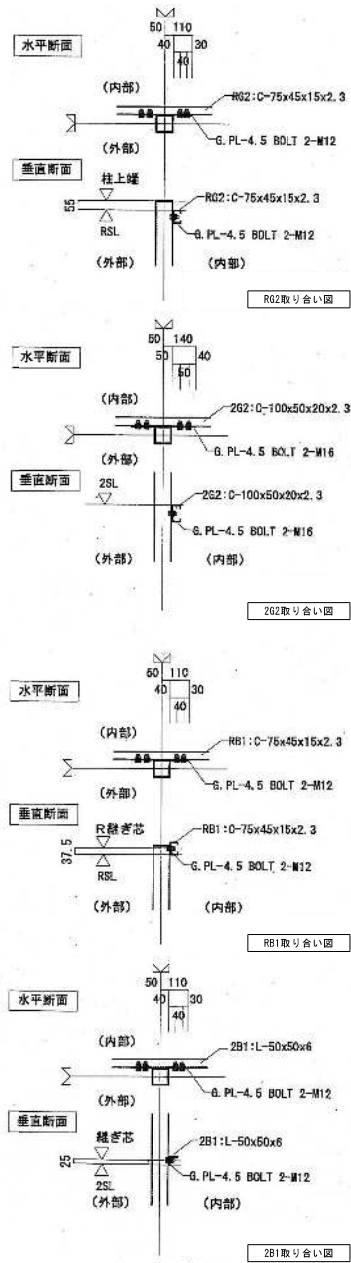
2階梁伏図

(注) 特記なき場合は下記を示す。
特記なき柱は、C1 とする。
は、壁ブレース を示す。V2:M16, V3:M22
2階水平ブレースは、H2:M14 とする。
H3:M18 とする。

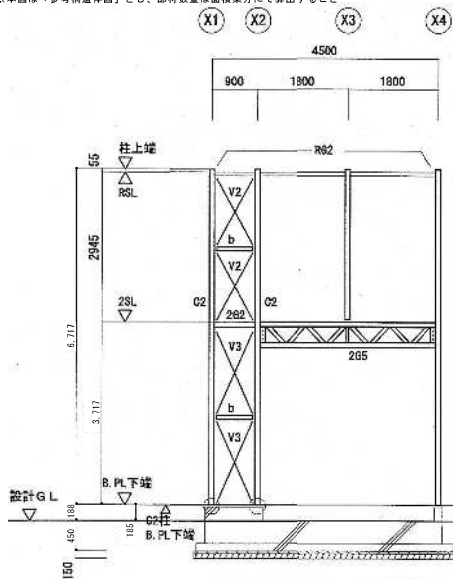


R階梁伏図

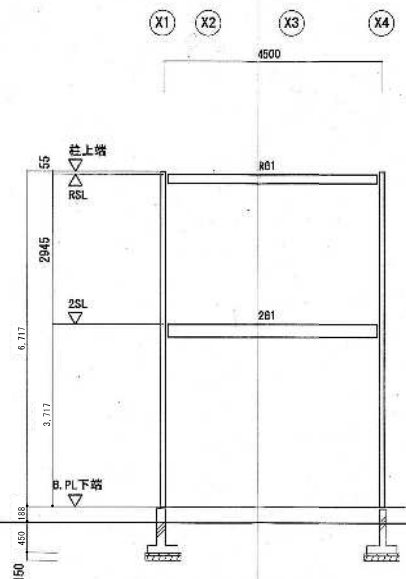
(注) 特記なき場合は下記を示す。
特記なき柱は、C1 とする。
は、壁ブレース を示す。V1:M12, V2:M16
特記なき水平ブレースは、H1:M10 とする。
水平ブレース H2 は M14 とする。
は、M:モヤ を示す。M:C-75x45x15x2.3



※特記無き限り、全て鋼造
※本図は「参考構造体図」とし、部材数量は面積百分にて算出すること

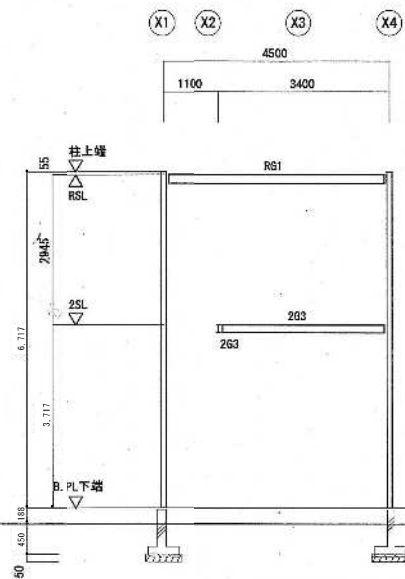


Y1通り軸組図



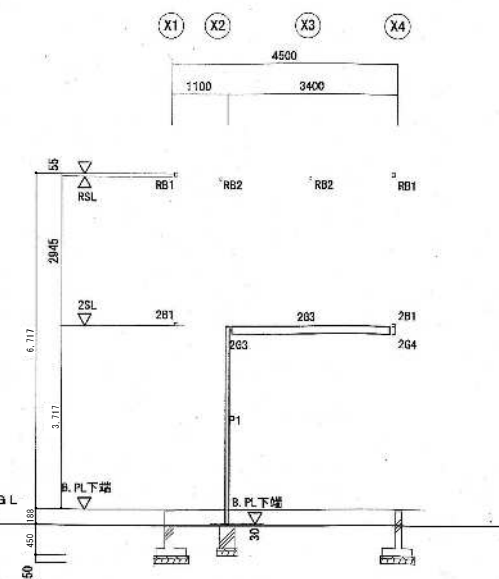
Y2~5通り軸組図

(註) 特記なき柱は、C1 とする。

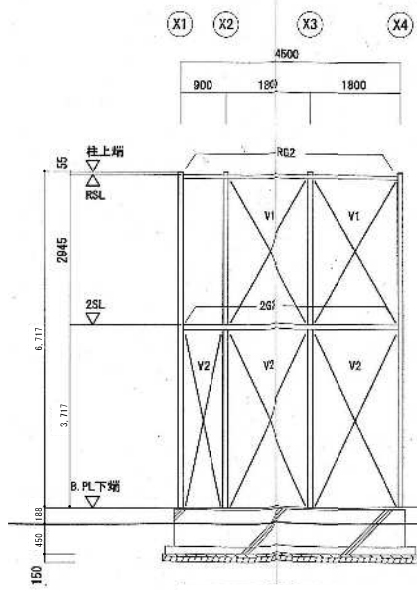


Y6通り軸組図

(註) 特記なき柱は、C1 とする。

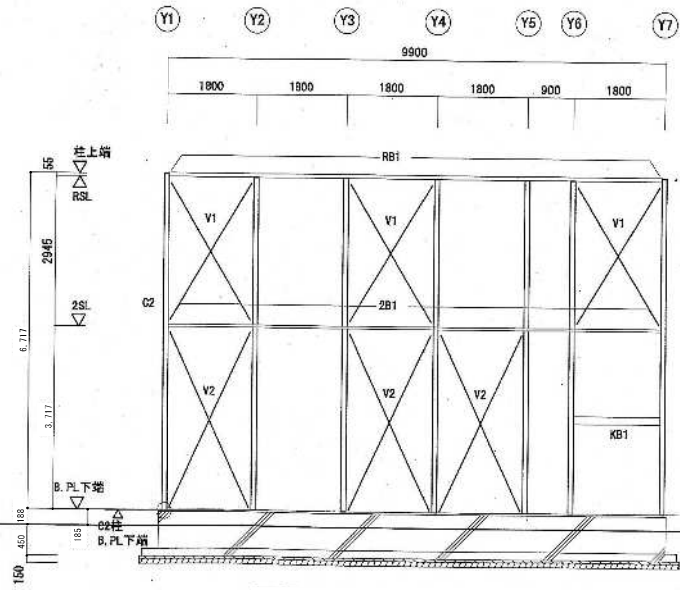


Y6'通り軸組図



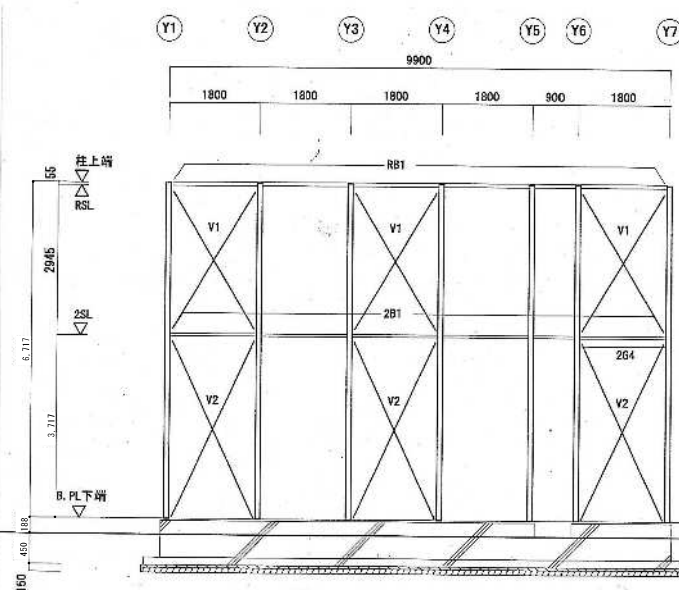
Y7通り軸組図

(註) 特記なき柱は、C1 とする。



X1通り軸組図

(註) 特記なき柱は、C1 とする。



X4通り軸組図

(註) 特記なき柱は、C1 とする。

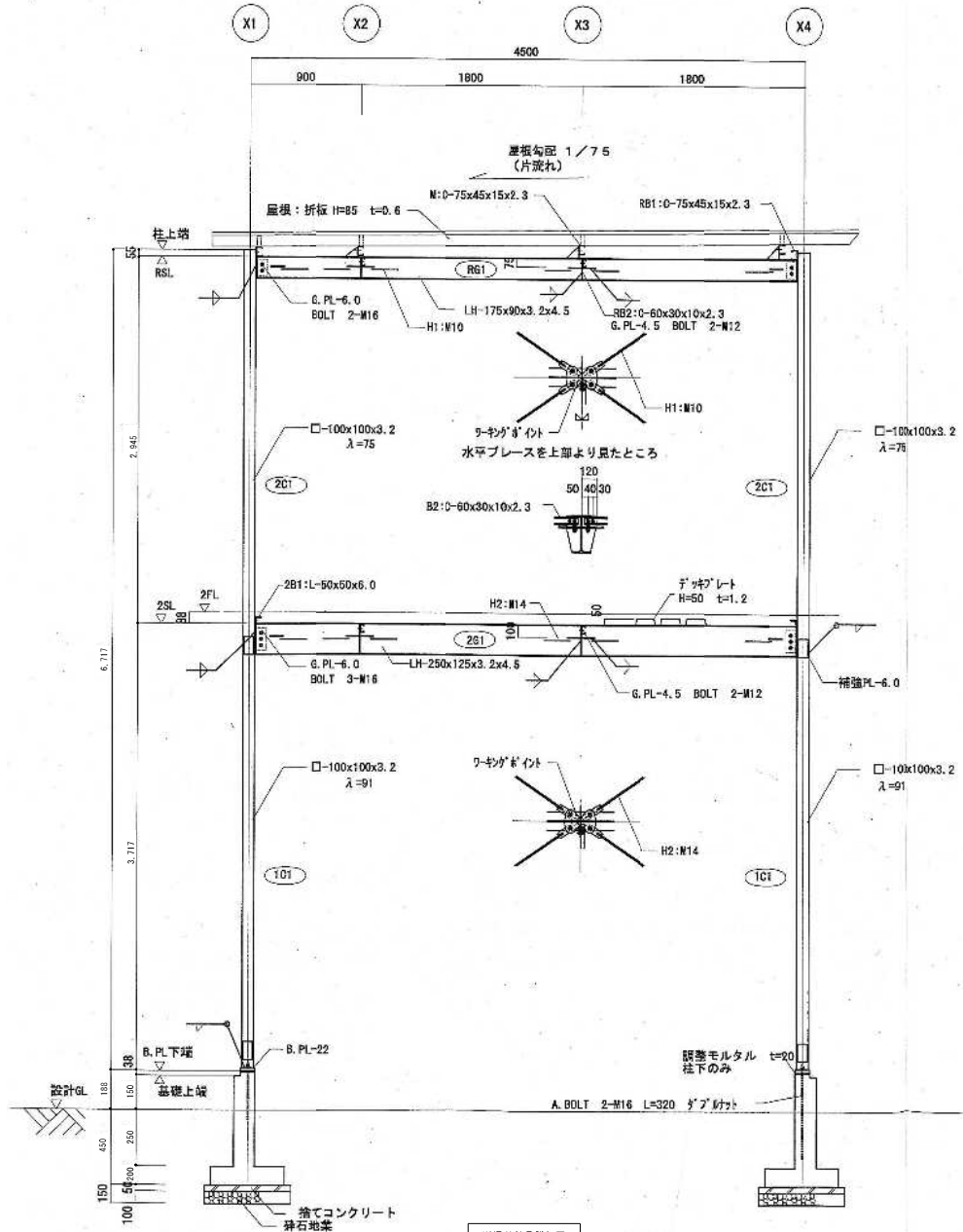
新座市消防団第五分団車庫建設工事			
【解体】車庫 軸組図			
図大	A11753	図尺	1/50
図名	A3:1/100	図番	03
設計	監修	図番	A-29

※特記無き限り、全て鋼製
※本図は「参考構造体図」とし、部材数量は面積率にて算出すること

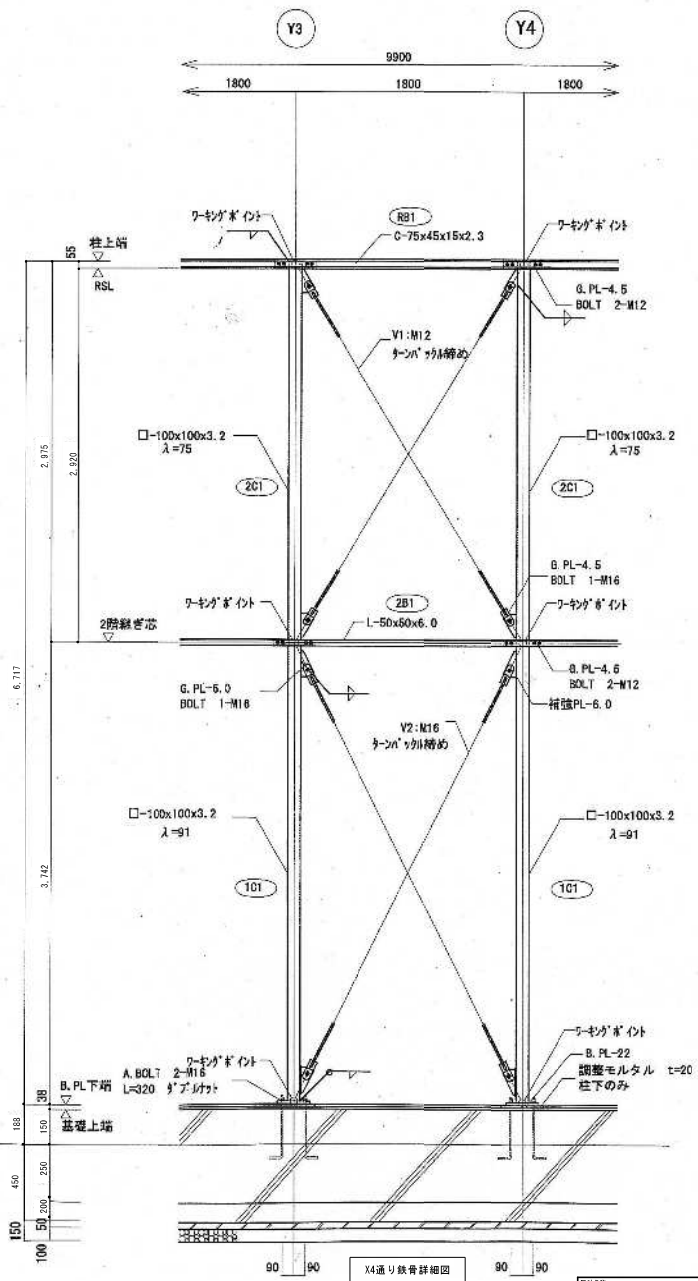
特記書き場合は 1. 仕口ボルト:スプリングワッシャー付きとする
2. アンカーボルト:ダブルナット締め

符号	R61	R62/R61	261	262	553	264	205		
断面									
部材	LH-175x90x3.2x4.5 SM400	D-75x45x15x2.3 λ=87 SS400	LH-250x125x3.2x4.5 SM400	D-100x50x20x2.5 λ=94 SS400	LH-150x76x4.2x4.5 SM400	L-150x50x4.5 λ=122 SS400	a: H-100x100x6x8 b: □-75x75x3.2 c: □-100x100x3.2 d: SS400 e: STK400		
仕口	G.PL-6.C BOLT 2-M16 (強度区分:4.8)	G.PL-4.5 BOLT 2-M12 (強度区分:4.8)	G.PL-6.0 BOLT 3-M16 (強度区分:4.8)	G.PL-4.5 BOLT 2-M16 (強度区分:4.8)	G.PL-6.0 BOLT 2-M15 (強度区分:4.8)	G.PL-4.5 BOLT 2-M16 (強度区分:4.8)	G.PL-4.5 BOLT 3-M16 (強度区分:4.8)		
符号	D1			C2			P1		
断面									
部材	□-100x100x3.2 STK400			□-100x100x4.5 STK400			□-75x75x2.3 STK400		
仕口	3.PL-21(SS400) A.EGLT 2-M16 (L=200) SS400			B.PL-25(SS400B) A.BOLT 2-M20 (L=620) SS400B			B.PL-12(SS400) A.BOLT 2-M12 (L=240) SS400		
符号	H'	H2	H3	Y1	Y2	Y3	b	262/202	261
断面									
部材	H10 (3-50'分組締め) 羽子板 PL-4.5 SS400	H14 (3-50'分組締め) 羽子板 PL-6 SS400B	H18 (3-50'分組締め) 羽子板 PL-5 SS400B	H12 (3-50'分組締め) 羽子板 PL-6 SS400B	H18 (3-50'分組締め) 羽子板 PL-5 SS400B	H22 (3-50'分組締め) 羽子板 PL-6 SS400B	C-75x45x15x2.3 λ=64 SS400	D-90x30x10x2.3 λ=92 SS400	L-G0x50x6 λ=120 SS400
仕口	G.PL-4.5 BOLT 1-M16 (強度区分:4.8)	G.PL-6.0 BOLT 1-M16 (強度区分:10.9)	G.PL-6.0 BOLT 1-M20 (強度区分:10.9)	G.PL-6.0 BOLT 1-M16 (強度区分:4.8)	G.PL-6.0 BOLT 1-M16 (強度区分:10.9)	G.PL-6.0 BOLT 1-M22 (強度区分:10.9)	G.PL-4.0 BOLT 2-M12 (強度区分:4.8)	G.PL-4.0 BOLT 2-M12 (強度区分:4.8)	G.PL-4.5 BOLT 2-M12 (強度区分:4.8)
符号	N (折板)	折板	D.PL				KB1 (継手埋込片)		
断面									
部材	C-75x45x15x2.3 SS400	H75或折板 H=85 t=0.6	ALB12 H=50 t=1.2				[-150x75x6.5x10 SS400		
仕口	G.PL-4.5 BOLT 2-M12 (強度区分:4.8)						G.PL-4.5 BOLT 2-M12 (強度区分:4.8)		
							A.BOLT 1-M12 (L=240) SS400 B.PL-12 x 120 x 300 SS400		

※特記無き限り、全て鋼表
※本図は「参考構造体図」とし、部材数量は面積百分にて算出すること



Y3通り鉄骨詳細図



X4通り鉄骨詳細図

新座市消防団第五分団車庫建設工事				
【解体】車庫 鉄骨詳細図				
図面番号	A1:1/20	図面名称	01	図面枚数
設計者	A3:1/40	製図者	ROG.03	図面番号
				図面番号
				A-31

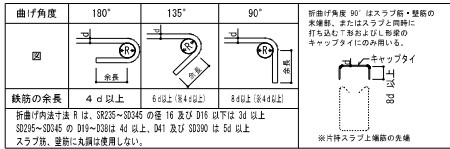
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
 - d・・・異形種類の呼び名に用いた数値 丸頭では径 D・・・部材の成 R・・・直径
 - σ・・・間隔 r・・・半径 e・・・中心線 L・・・部材間の内法距離 Ho・・・部材間の内法高さ
 - STP・・・あばら筋 HOOP・・・帯筋 S,HOOP・・・補強帯筋 φ・・・直径又は丸頭

2. 鉄筋加工のかぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状



(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼び	鉄筋の種類	鉄筋の接による長さ	鉄筋の折曲げ内法寸法(L _R)
帯筋	あばら筋	SR235・SR295	16φ以下	3d以上
		SD295 SD345	19φ以上	4d以上
スライフル筋	上記以外の鉄筋	SD295 SD345 SD390	D16以上	4d以上
		D19～D25	6d以上	
		D29～D41	8d以上	

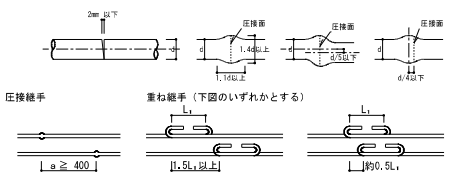
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通・軽重コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm ²)		定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ(L _s)
	一般(L _s)	下地筋(L _s)	小梁	スラブ	
SR235	21～24	35d フック付	25d フック付	150m フック付	35d フック付
	18以下	45d フック付	45d フック付		45d フック付
SD295	27～36	30d または 20d フック付	25d または 10d かつ		35d または 25d フック付
	18以下	40d または 30d フック付	40d または 35d フック付		40d または 35d フック付
SD345	21～24	35d または 25d フック付 (SD345は40d)	25d または 150m かつ		40d または 30d フック付
	18以下	40d または 30d フック付	40d または 35d フック付		40d または 35d フック付
SD390	27～36	35d または 25d フック付	25d または 10d かつ		40d または 30d フック付
	21～24	40d または 30d フック付	15d フック付	150m かつ	45d または 35d フック付

注：計算の力設計、原有水平力計算、その他構造計算を要しない小規模構造物の場合は、業主筋の定着は、40dとする。

継手
1. 実線のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

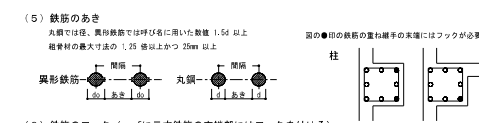
ガス圧接形状



(4) かぶり厚さ

部位	設計かぶり厚さ (mm)	最小かぶり厚さ (mm)	
土に接しない	屋根スラブ 筋力配	30	20
	内側	40	30 (30)
土に接する部分	柱 筋力配	50	40 (30)
	梁 筋力配	50	40
	壁・基礎 筋力配	70	60

- (注) (1) 耐久性上無効な仕上げのある場合、工事監督者の承認を受けて30mmとすることができる。
- (2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監督者の承認を受けて40mmとすることができる。
- (3) 軽重コンクリートの場合は、10mmの値とする。
- (4) () 内は仕上げがある場合。
- (5) 土に接する部分のからり保証する厚さを打ち出しとする。

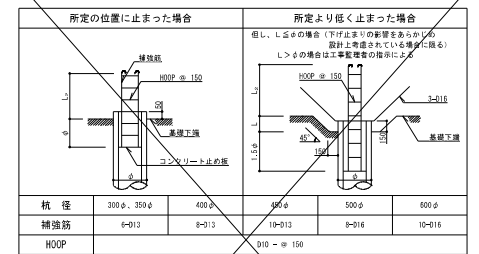


(6) 鉄筋のフック (a～f)に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける

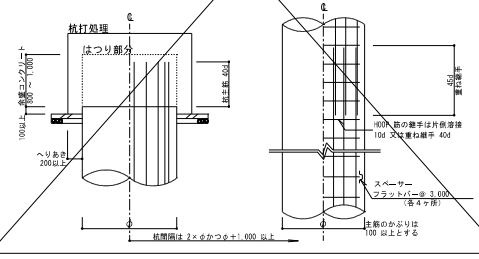
- a. 丸頭 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の筋筋
- d. 柱、梁 (基礎筋は除く)の出筋部分の鉄筋 (非貫通筋)
- e. 基礎筋の下地筋
- f. その他、必要取捨表に記載する箇所

3. 杭 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途設計すること。)

(1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

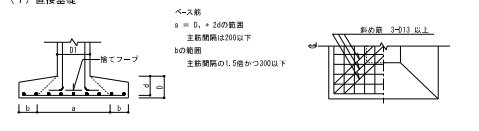


(2) 現場打ちコンクリート杭

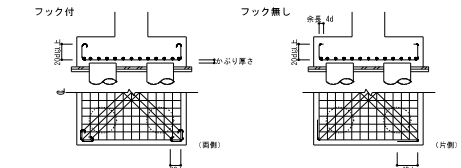


4. 基礎

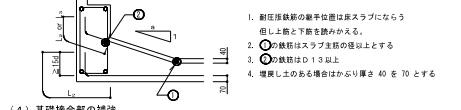
(1) 直接基礎



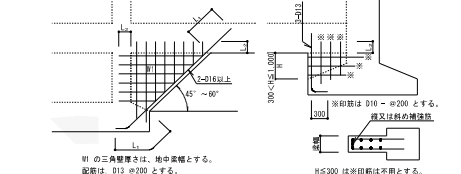
(2) 杭基礎



(3) ベタ基礎

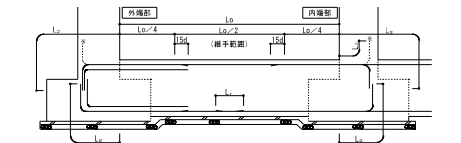


(4) 基礎接合部の補強

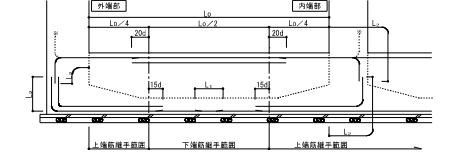


5. 地中梁

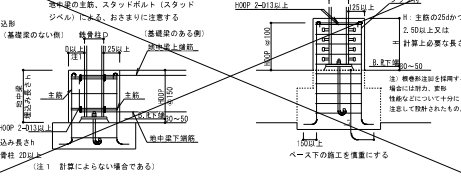
(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)



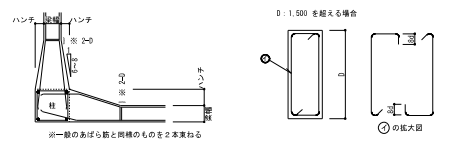
(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)



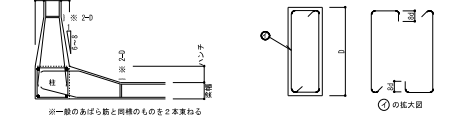
(3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋



(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

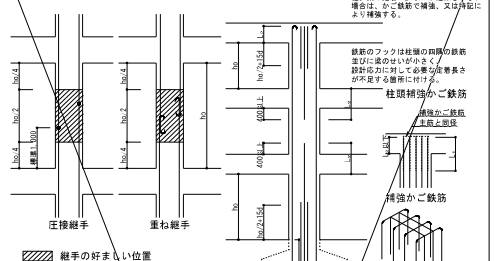


(5) せいの高い梁のあばら筋加工要領

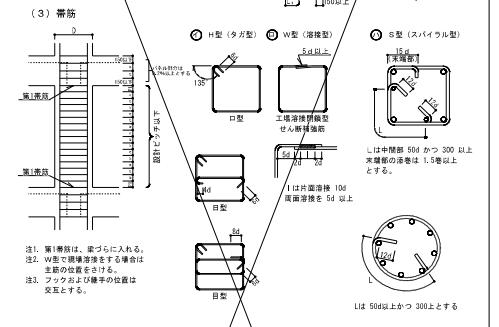


6. 柱

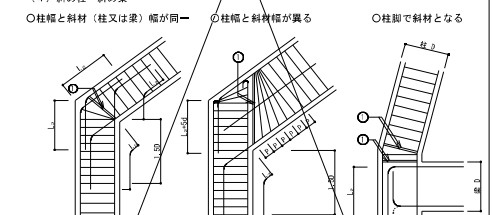
(1) 柱主筋の継手 (2) 柱主筋の定着



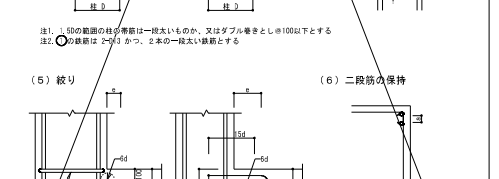
(3) 帯筋



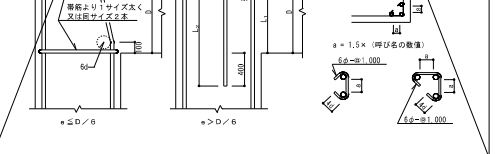
(4) 斜め柱・斜め梁



(5) 絞リ



(6) 二段筋の保持



鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

寸法は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

7. 大梁、小梁、片持梁

(1) 定着

① 大梁の定着

② 小梁の定着

③ 片持梁の定着

(2) 大梁主筋の継手

(3) あばら筋・腰筋・巾止筋の配置

(4) あばら筋の型

(5) 腰筋・巾止筋の本数・加工

径	腰筋	巾止筋
D < 600	本筋	
600 ≦ D < 900	2~D10(9本) 一段	
900 ≦ D < 1,200	4~D10(9本) 二段	
1,200 ≦ D	D10(9本)R300 二段	

巾止筋 D10(9本)R300 以内で割り付ける。

8. 床版

(1) 定着および継手

① 一般床スラブ

② 床版開口部の補強

(2) 床版段差

(3) 土間コンクリート

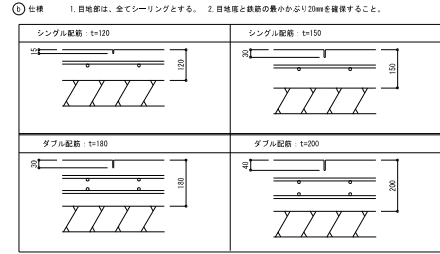
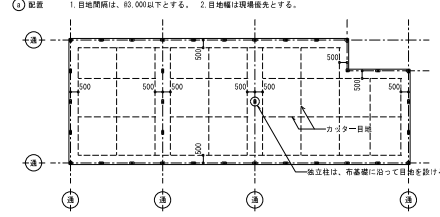
(4) 差場

(5) 打継ぎ補強

(6) 打継ぎ補強

床版厚さ	前田	斜め
D ≦ 150	各 2~D13	各 1~D12
150 < D ≦ 200	各 2~D13	各 2~D15
200 < D ≦ 300	各 2~D19	各 2~D15

(7) 土間コンクリートカッター目地



9. 壁

(1) 定着

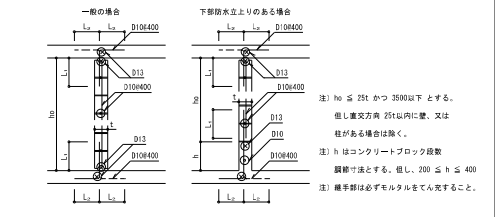
① 梁に

② 柱に

(2) 壁スリット部 (設計図に記入のあるとき)

(3) 手摺、パラベット

(4) コンクリートブロック構壁



10. 柱・梁増打コンクリート補強

増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと。

(1) 柱

ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
● 印は補強筋
※ 印補強筋は柱と隣接部とピンとする。

補強筋 (タテ筋)

ハッチ部分の面積 A (㎡)	補強筋径
A < 500	3~D16
500 ≦ A < 1,000	4~D16
1,000 ≦ A < 1,500	6~D16

(2) 梁

ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
● 補強筋は、梁上部の1段厚さ (D以上) とする。
● あばら補強筋は、梁と間隔、間ピッチとする。
● 腰筋 D10 ピッチは、梁の断面と合せる。
● φ ≧ 400 の場合は補強筋を3本とする。
● φ は 100~200 程度。
● 梁下増打コンクリートの場合は梁上部増打コンクリートと同様とする。

11. 梁貫通孔補強

配筋は計算により、設計者又は、工事監理者と打合せのこと。

(1) 設置可能範囲

コンクリートコンクリート埋設部

定着長

配管が現しとなる範囲

貫通孔が連続して隣接部が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

(2) 鉄筋標準配筋

径	折筋	腰筋	巾止筋
85 < φ ≦ 100	折筋: 2~(N-1)D13	腰筋: Str. N=①R100	巾止筋: 2~(N-1)D13
100 < φ ≦ 150	折筋: 2~(N-1)D13	腰筋: Str. N=①R100	巾止筋: 2~(N-1)D13
150 < φ ≦ 250	折筋: 4~(N-1)D13	腰筋: Str. N=①R100	巾止筋: 2~(N-1)D13

250 < φ

配筋は計算により、設計者又は、工事監理者と打合せのこと。

孔補強の有効範囲と定着長さのとり方

(3) 既製品

● リング型 ● バイブ型 ● 金網型 ● プレート型

鉄骨構造標準図（1）

1. 一般事項

- (1) 材料及び仕様
 - (a) 構造設計仕様による。
 - (b) 適用規格は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする。
※ 但し、ベースプレートの厚さは除く。
 - (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する。
- (2) 工作一般
 - (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監督者の承認を得る。
 - (b) 鋼骨部材の分岐継手部の粗貫切断は、削管自動切断機による。
 - (c) 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする。
- (3) 高力ボルト接合
 - (a) 本図に使用するボルトと、仮締のボルトの併用はしてはならない。
- (4) 溶接接合
 - (a) 溶接工
 - (i) 溶接工は施工する溶接に適合する JIS Z 3801（手溶接）又は JIS Z 3841（半自動溶接）の溶接技術検定試験に合格し引継ぎ、半年以上溶接に従事している者とする。
 - (b) 溶接機器

(i) 交流アーク溶接機 300A~500A	(ii) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(b) アークエアガウジング機（直流）600A	(c) 溶接電流を測定する電流計
(c) 溶接乾燥器	(d) サブマージドアーク溶接機1式
 - (c) 溶接方法

アーク手溶接（MC）	ガスシールドアーク溶接（GC）
ノンガスシールドアーク溶接（NGC）	アークエアガウジング（AGA）
 - (d) 溶接姿勢

下向（F）	立向（V）	横向（H）	上向（O）
- (5) 仮付溶接工は、原則として本工事に従事する者が行う。
 - (i) 仮付位置
 - (a) 仮付溶接は溶接の始・終、縁、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。
 - (ii) 突合せ溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。

仮付不良	良	仮付不良	良
- (6) 溶接施工
 - (i) エンドタブ
 - I 突合せ溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で開先形状のエンドタブを取り付ける。
 - II エンドタブの材質は、母材と同質とする。
 - III エンドタブの長さは、MC: 35mm以上 NGC, GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする。
 - IV フレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監督者の承認を得る。
 - (ii) 裏あて金の材質は母材と同質材料とする。
 - (iii) スカラップ半径は $r1=30\sim35mm$ と $r2=10mm$ のダブルアルとする。但し梁成が $D=150mm$ 未満の場合のスカラップは $r1=20mm$ とする。
- (7) 裏はつり
 - (a) 標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監督者の検閲を履行し、部材に確認マークをつける。
 - (b) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先面をいためない様に、養生を要する。
- (8) 塗装
 - (a) コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

2. 溶接標準図

(注) t: 肉厚, S: 脚長, G: ルート開角, R: フェース (単位: mm)

(1) スミ肉溶接

寸法 (mm)	2mm < t ≤ 6mm			6mm < t ≤ 16mm		
	t	S	φ	t	S	φ
1	2.3	3.2	4.5	6	7	9
2	2.3	3.2	4.5	5	7	9

(2) フレーズ溶接

寸法 (mm)	寸法 (mm)		
	φ	S	φ
1	9	7	4.0
2	13	8	4.5
3	16	9	5.0
4	19	10	5.0
5	22	11	7.0
6	25	12	8.0

(3) 部分溶け込み溶接 (使用箇所注意)

寸法 (mm)	寸法 (mm)	
	φ	S
1	9	7
2	13	8
3	16	9
4	19	10
5	22	11
6	25	12

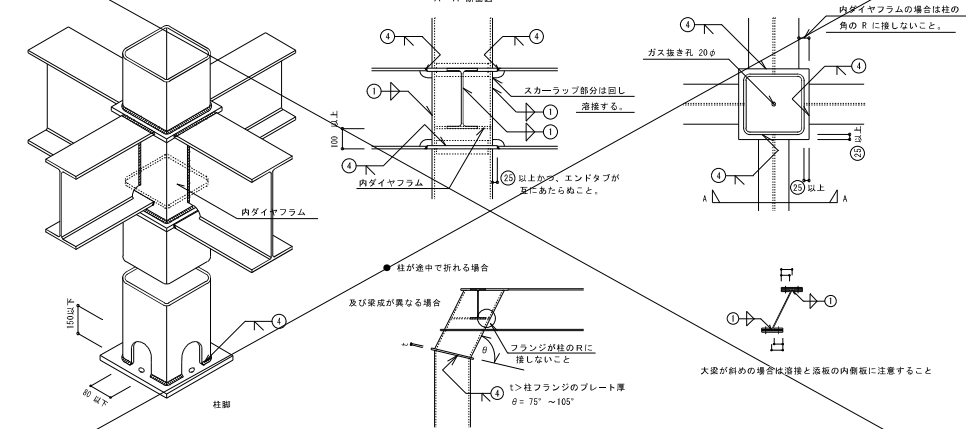
(4) 突合せ溶接 (平継手・T形継手)

寸法 (mm)	寸法 (mm)	
	φ	S
1	9	7
2	13	8
3	16	9
4	19	10
5	22	11
6	25	12

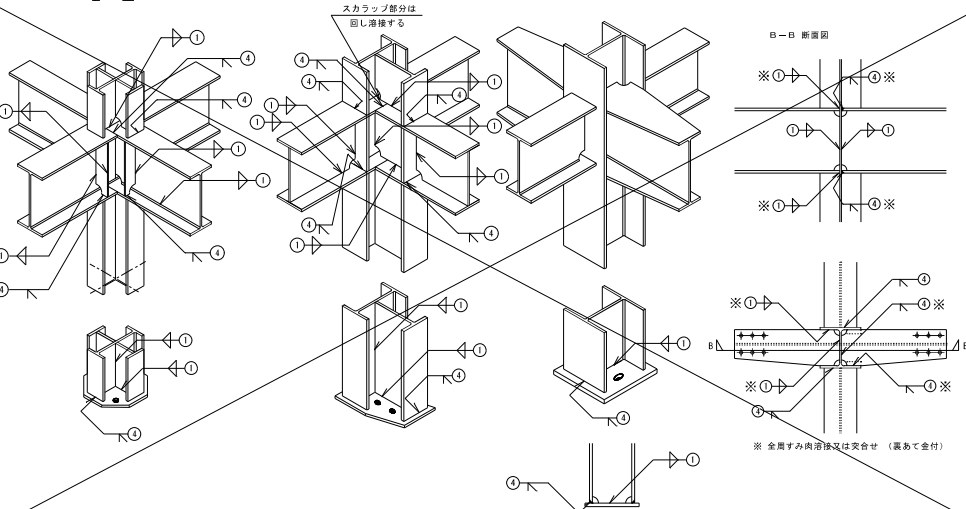
(5) 裏はつり

寸法 (mm)	寸法 (mm)	
	φ	S
1	9	7
2	13	8
3	16	9
4	19	10
5	22	11
6	25	12

○ BOX型 (通しダイヤフラムの場合)

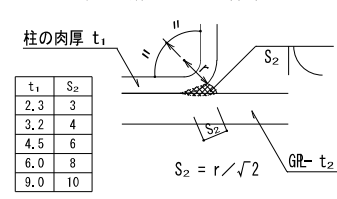


○ H型



○ H、B、H型

○ 軽形鋼フィレット部詳細図



○ 鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接位置	大径 (t/φ)	入火温度 (℃)		鋼材の種類	規格	溶接材料	入火 (t/φ)	入火温度 (℃)
				350 以下	350 以上					
400級標準鋼 (STR, BFR, BOPを除く)	JIS Z 3312	YG11, YG15	30	350	450	400級標準鋼 (STR, BFR, BOP)	JIS Z 3312	YG11, YG15	30	350
	JIS Z 3313	1490(t)→G-U	40	350	450		JIS Z 3313	1550(t)→G-U	40	350
	JIS Z 3311	1550(t)→G-U	30	450	450		JIS Z 3312	YG11, YG15	30	350
	JIS Z 3311	543xx-E49xx	40	350	450		JIS Z 3313	1550(t)→G-U	30	250
400級標準鋼 (STR, BOPを除く)	JIS Z 3312	YG11, YG15	30	350	450	400級標準鋼 (STR, BOPを除く)	JIS Z 3313	1490(t)→G-U	40	350
	JIS Z 3313	1550(t)→G-U	40	350	450		JIS Z 3311	1550(t)→G-U	30	350
	JIS Z 3311	543xx-E49xx	40	350	450		JIS Z 3313	1550(t)→G-U	40	350
	JIS Z 3311	543xx	40	350	450		JIS Z 3311	543xx	40	350

注) ①: ボルト締結の場合 (一部) 日本ボルト工業会による鋼製ボルトの型式図を参照すること。
②: 400mm²を超える鋼材は適合する溶接金属を使用すること。

鉄骨構造標準図（2）

※修正箇所は下線を引くこと。

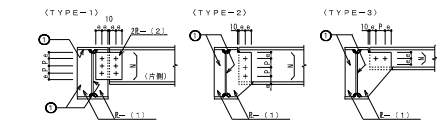
3. 継手標準図、その他

(1) 高力ボルト・ボルト・アンカーボルトピッチ (P)

呼び径 d	ボルト 穴径	ボルト穴径・最小標準距離 (mm)					
		最小縁端距離 (e)			ピッチ (P)		
		(1)	(2)	(3)	(3) ①部	最小	標準
M12	14.0	30	22	18	30	30	50
M16	18.0	40	28	22	40	40	60
M20	22.0	50	34	26	40	50	60
M24	24.0	55	38	28	40	55	60
M24	25.0	60	44	32	45	60	70
M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
M27	32.0		49	36			
M30	35.0		54	40			
M34	呼び径+5		9d/5	4d/3			
以上							

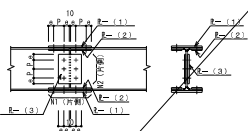
- [注] (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが5本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
 (2) セン断線・手動ガス切断線の場合の縁端距離
 (3) 圧延線・自動ガス切断線・のこ引き線・機械仕上線の場合の縁端距離

(2) ビッチ合線継手



符号	タイプ	部材	R- (1)	R- (2)	N-径
部材リスト参照					

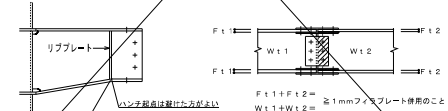
(3) 剛接合継手リスト (SCSS-H97による)



符号	部材	フランジ		ウェブ	
		R- (1)	R- (2)	M1-径	N2-径

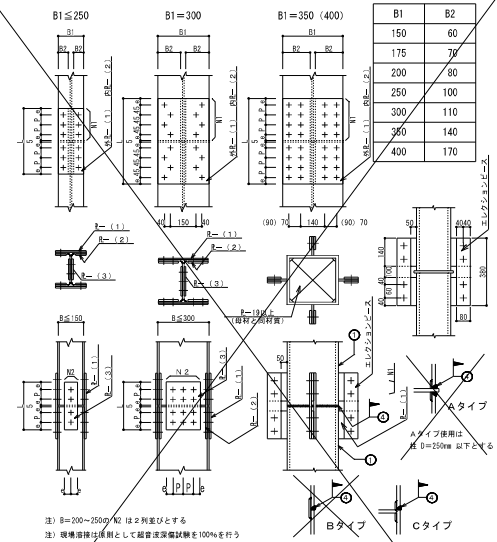
(4) ハンチ部の継手

フランジ及ウェブ厚のある場合



ハンチ勾配は普通 1 : 4 程度であるが構造図による
 半径 t : 板厚

(5) 柱継手リスト (SCSS-H97による)



符号	部材	フランジ		ウェブ		
		R- (1)	R- (2)	N1-径	R- (3)	N2-径

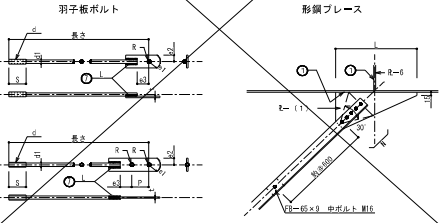
(6) プレース (a) 羽子板ボルト (JIS規格品とする・JIS A 5540・2008/5541・2008)

採用	ねじの呼び (d)	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
		最大	10,81	12,65	14,65	16,33	18,33	20,33
最小	10,64	12,46	14,46	16,11	18,11	20,11	21,77	
取付ボルト穴径	S	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径	R	13,0	17,0	17,0	21,5	21,5	23,5	21,5
はしあき (最小) (2)	t	35	40	45	50	50	55	50
へりあき (最大) (1) e2	t	22	28	28	34	34	38	38
へりあき (最小) (1) e2	t	4,5	6,0	6,0	9,0	9,0	9,0	9,0
平頭製 (最大) (1) e2	t	19	25	25	32,5	32,5	37,5	37,5
平頭製 (最小) (1) e2	t	4,5	6,0	6,0	9,0	9,0	9,0	9,0
ボルト頭から取付ボルト穴迄の長さ (最大)	e3	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ (最小)	L	40	50	55	60	75	85	85

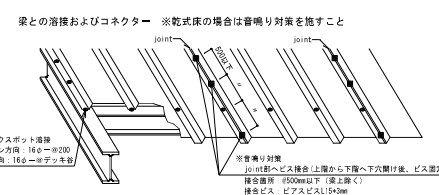
注 (1) e1, e2 が確保されない場合は取付自由
 (2) 羽子板とセットプレートの接合部には取付ボルトを使用し、一面せん断 (変位) 接合とする

(b) 形鋼ブレース

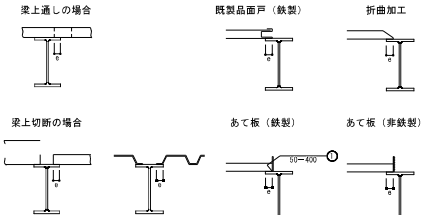
符号	部材	R- (1)	N-径



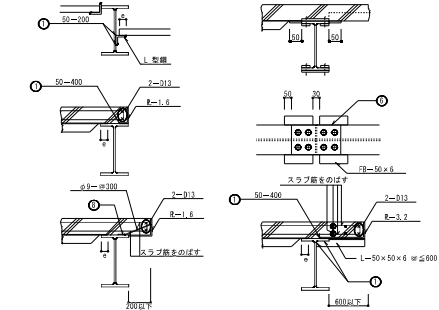
(7) デッキプレート (床剛性を考慮する合成床、合成床のときは構造図参照)



受梁へのかり寸法および溶部処理

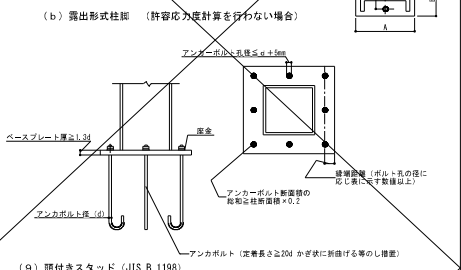


スラブ端部の補足材



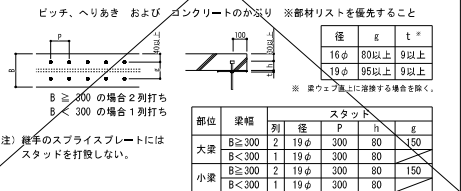
(8) 露出柱脚

符号	部材	アンカーボルト					ベースプレート			備考	
		径	長さ	厚	A	B	C	D	E		

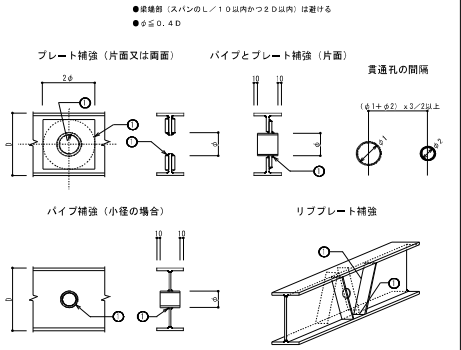


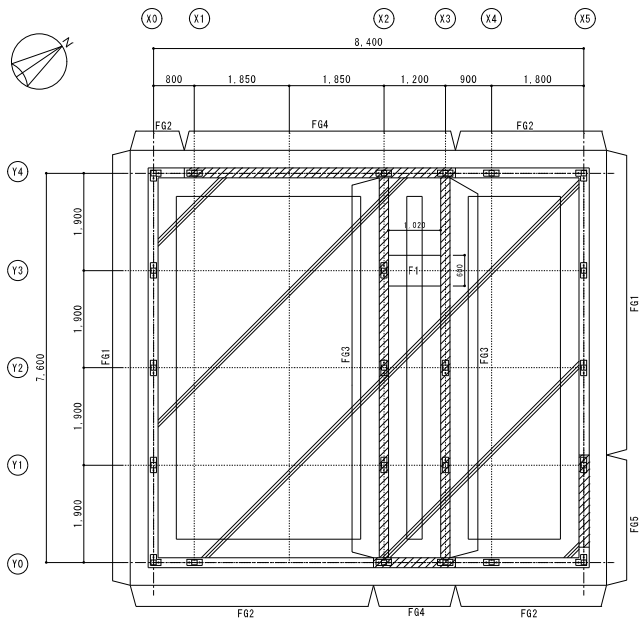
(9) 頭付スタッド (JIS B 1198)

形状	スタッド材				
	呼び名	軸径 d (mm)	閉径 D (mm)	頭高さ T (mm)	溶接後の長さ L (mm)
φ13 mm	13.0	22.0	10.0	50, 80, 100, 130	
	12.7	25.4	7.9		
φ16 mm	16.0	29.0	10.0	80, 100, 130	
	15.8	31.7	7.9		
φ19 mm	19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150	
	18.0	31.7	9.5		
φ22 mm	22.0	35.0	10.0	100, 130, 150	
	22.2	34.9	9.5		



(10) 梁貫通補強



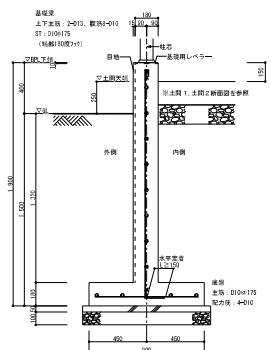
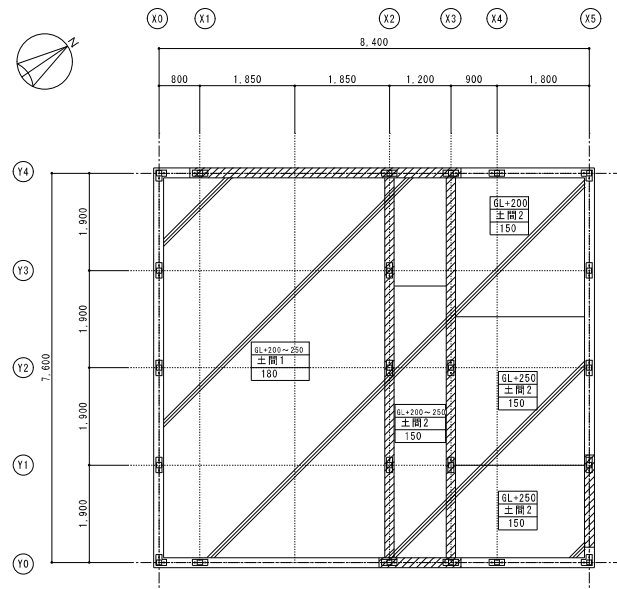


特記事項

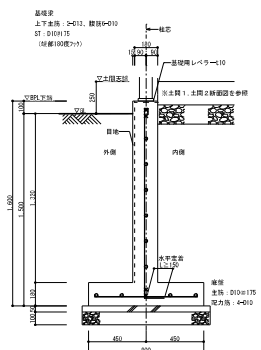
- 斜線は基礎天端切下げ
- 土間コンクリート下は十分な転圧を行うこと

GL+200	GLからの高さ
土間1	床記号
180	床厚さ

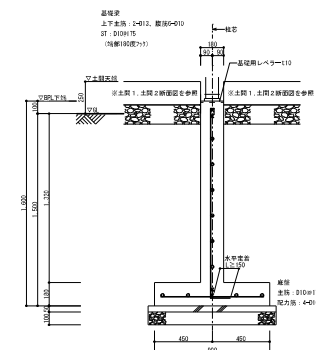
- 設計GL+KGM=10.00
- 工事着工前に平板載荷試験を行い、地耐力62kN/m²以上を確保する等、試験結果により基礎の深さ、形状を変更する場合もある。



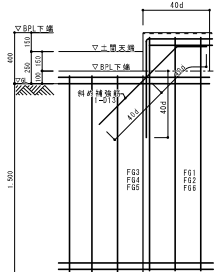
F01 (内側投基礎)



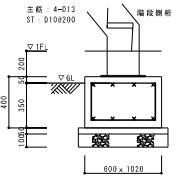
F04 (内側投基礎)



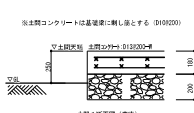
F05 (内側投基礎)



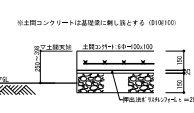
基礎投差部 配筋構築



F1 (内側投基礎)



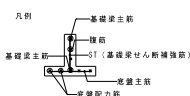
土間と基礎間 (側面)



土間と基礎間 (断面)



隅部 1.35°×135°形状

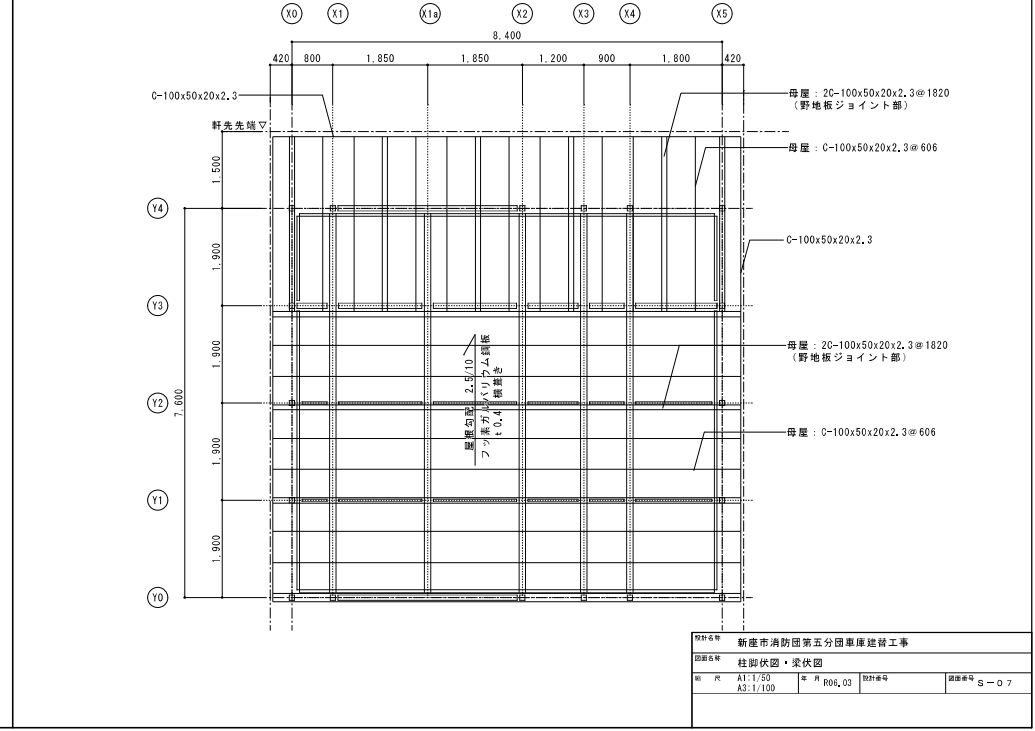
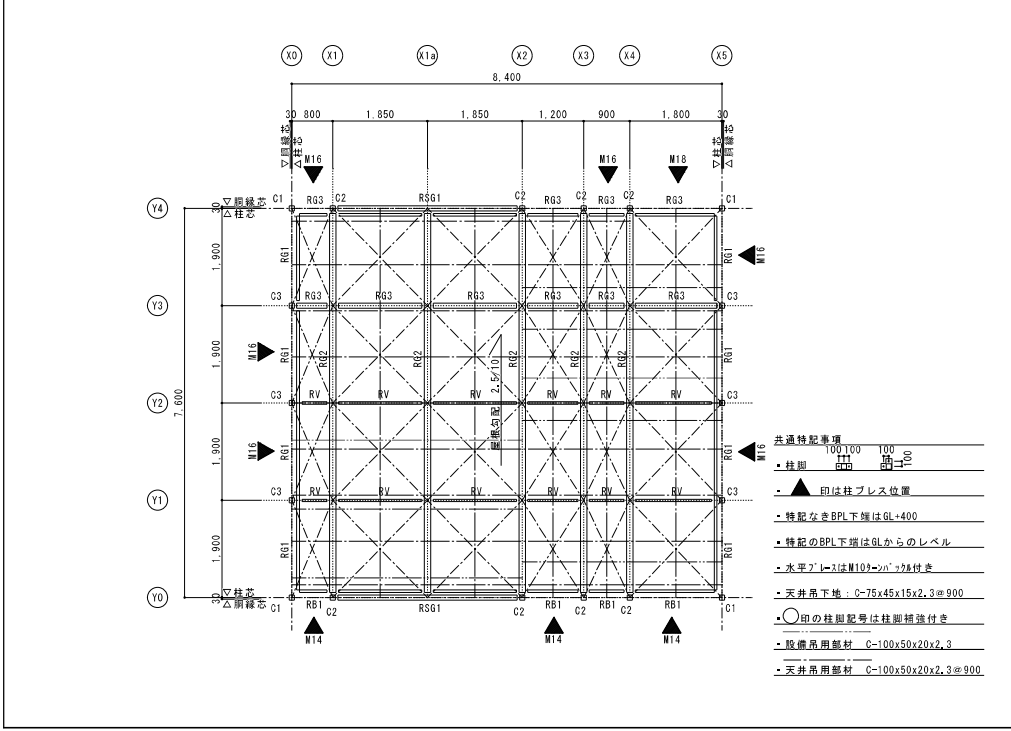
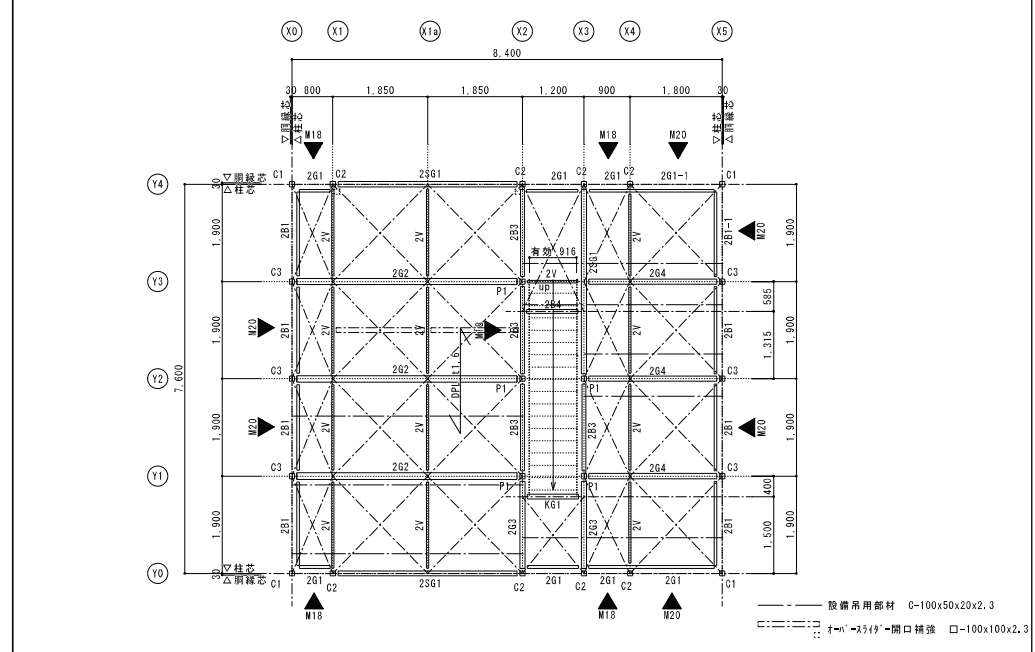
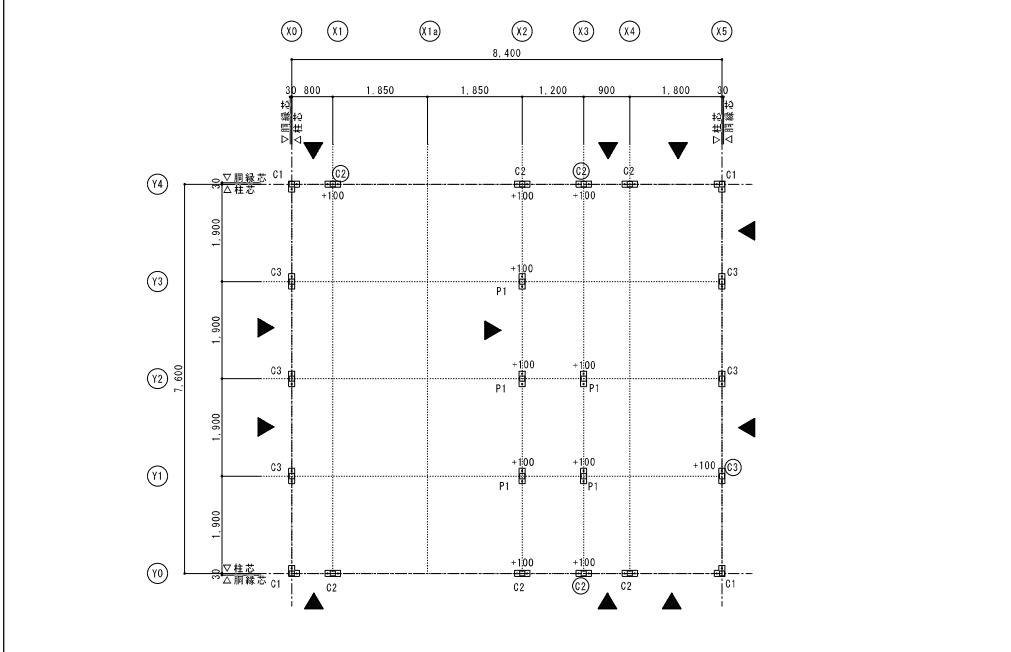


隅部 1.35°×135°形状

断面力 (表面)	8228 mm
2-D13@100並列基礎埋深	210 mm
縦筋	D10, 13 : 8228

※基礎投差部の定着長さ40d以上
※基礎投差部より厚さ 10mm以上
※基礎投差部135°の隅部埋深は 50mm以上

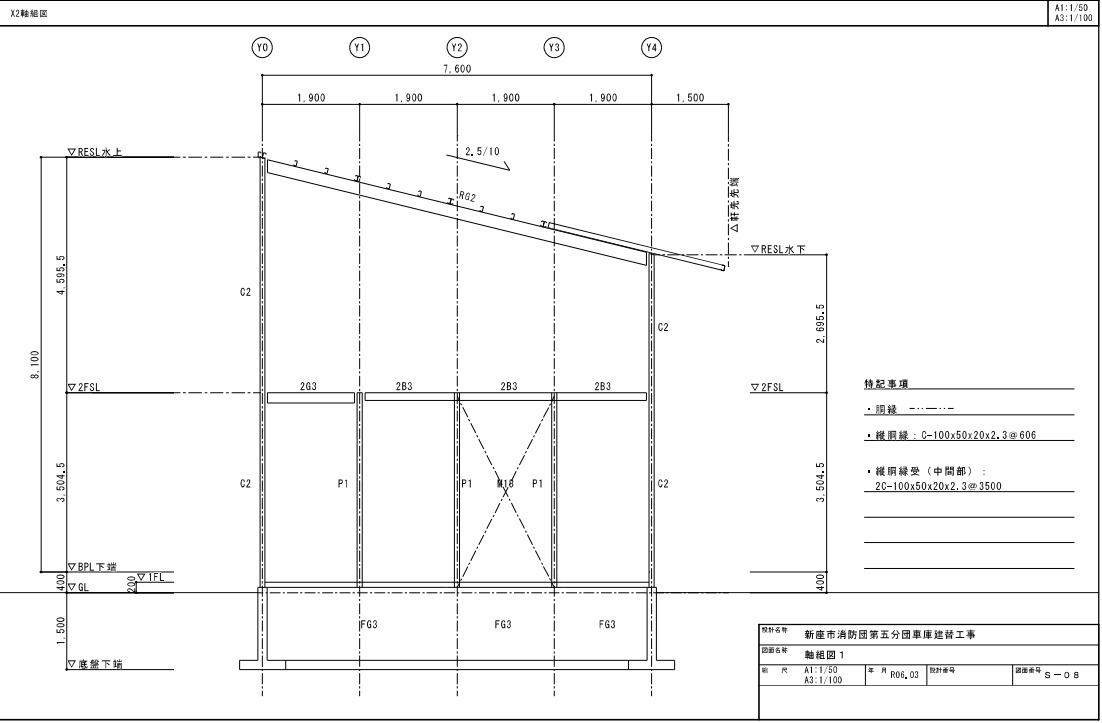
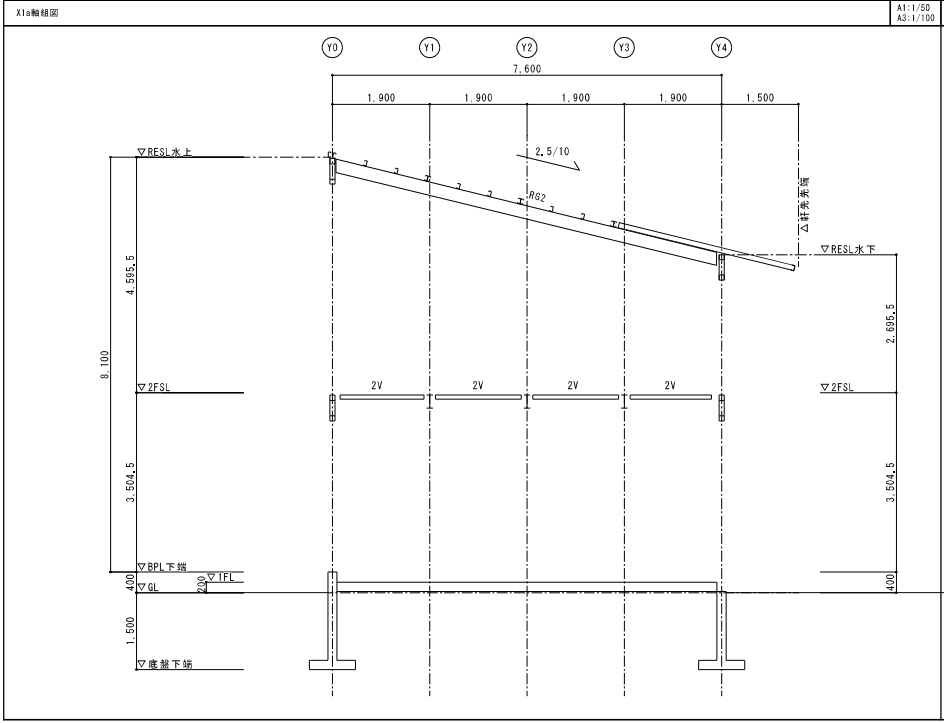
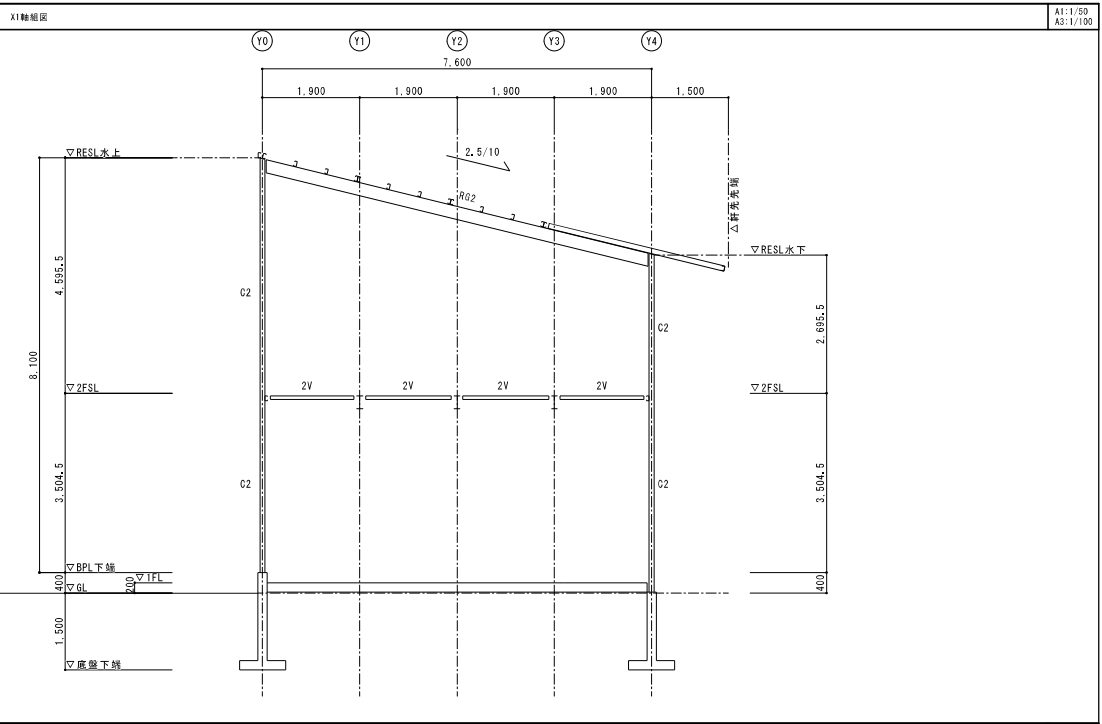
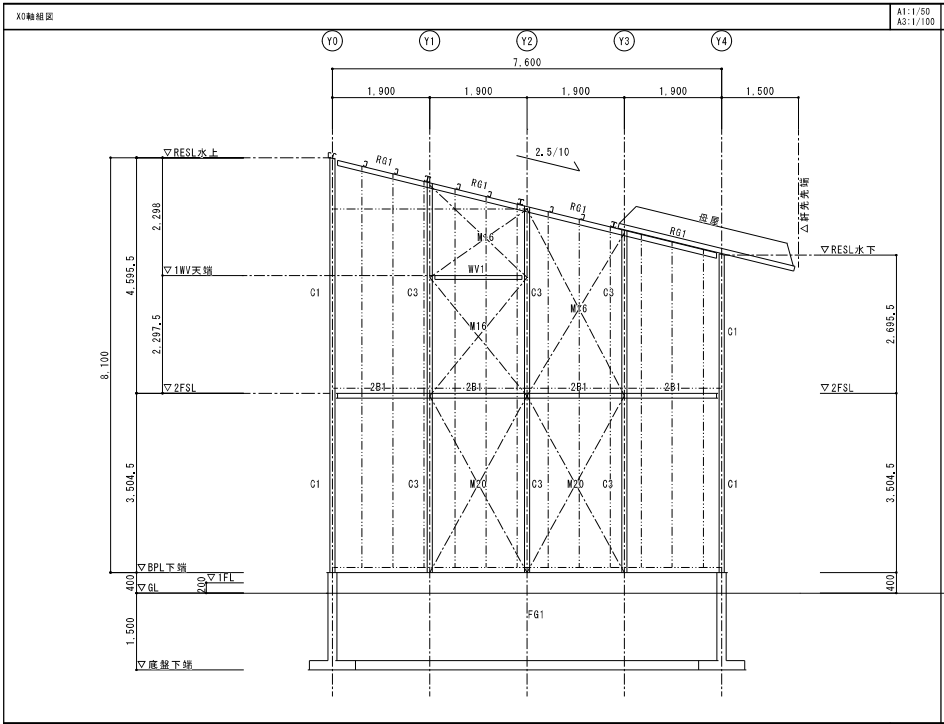
図号	新都市海防団第五分団車庫建替工事		
図名	基礎状況・基礎リスト		
図尺	図中明示	年月	R06_03
図中明示	年月	R06_03	図中明示
図中明示	年月	R06_03	図中明示



- 共通特記事項
- 柱脚 100 100 100 100
 - 印は柱ブレス位置
 - 特記なきBPL下端はGL+400
 - 特記のBPL下端はGLからのレベル
 - 水平アンカーはM105mm間隔付き
 - 天井吊下地: C-75x45x15x2.3@900
 - 印の柱脚記号は柱脚精進付き
 - 梁脚吊用部材 C-100x50x20x2.3
 - 天井吊用部材 C-100x50x20x2.3@900

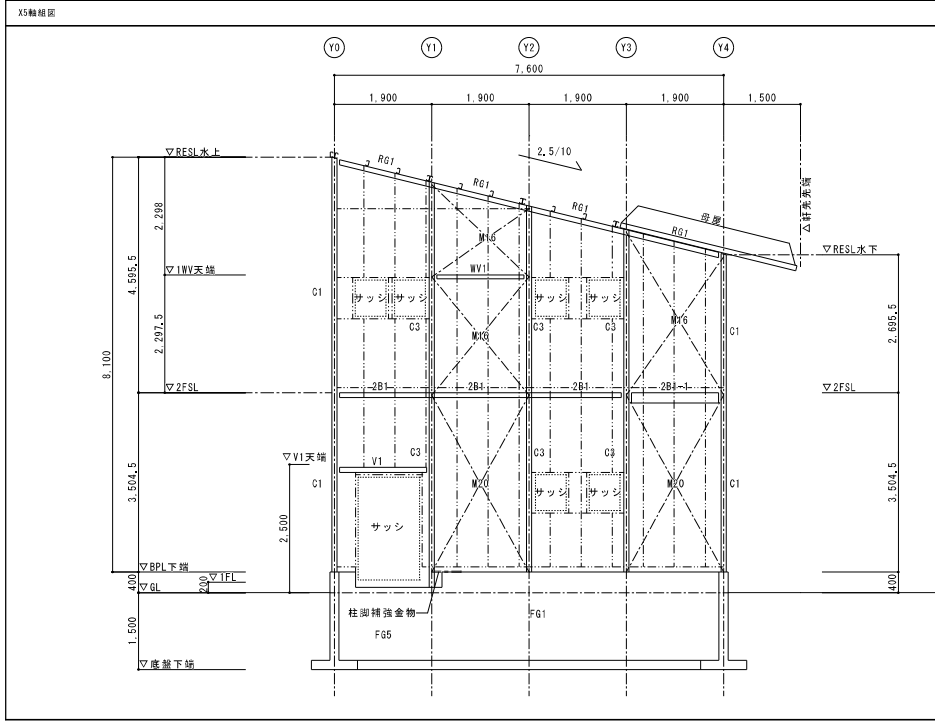
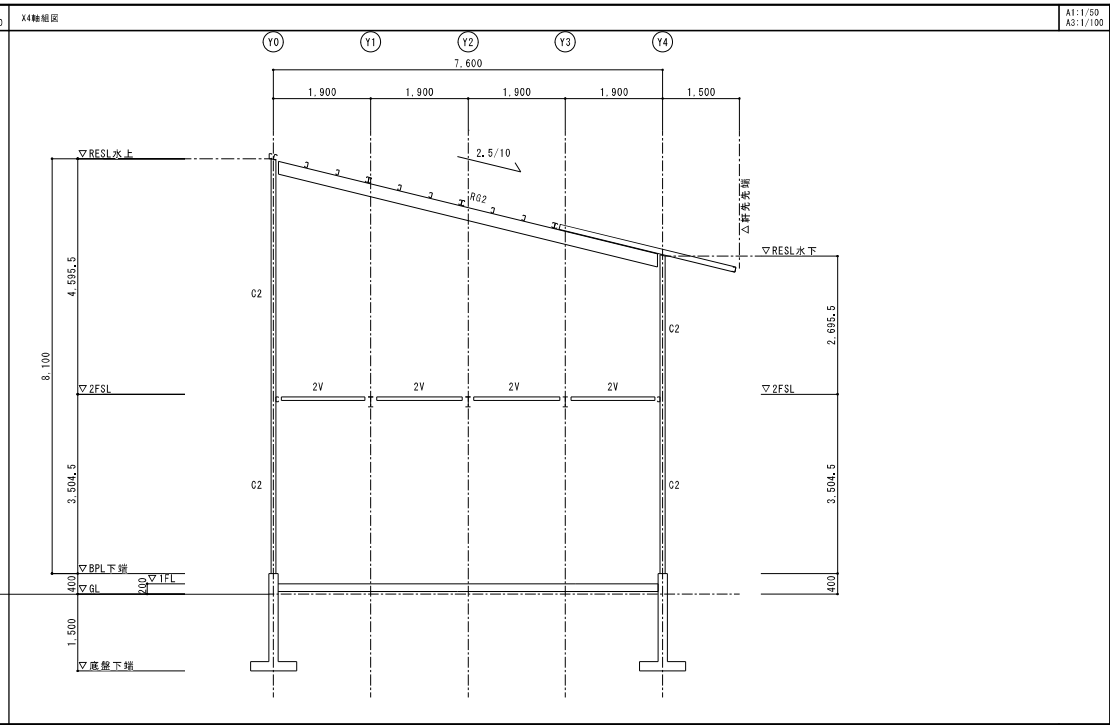
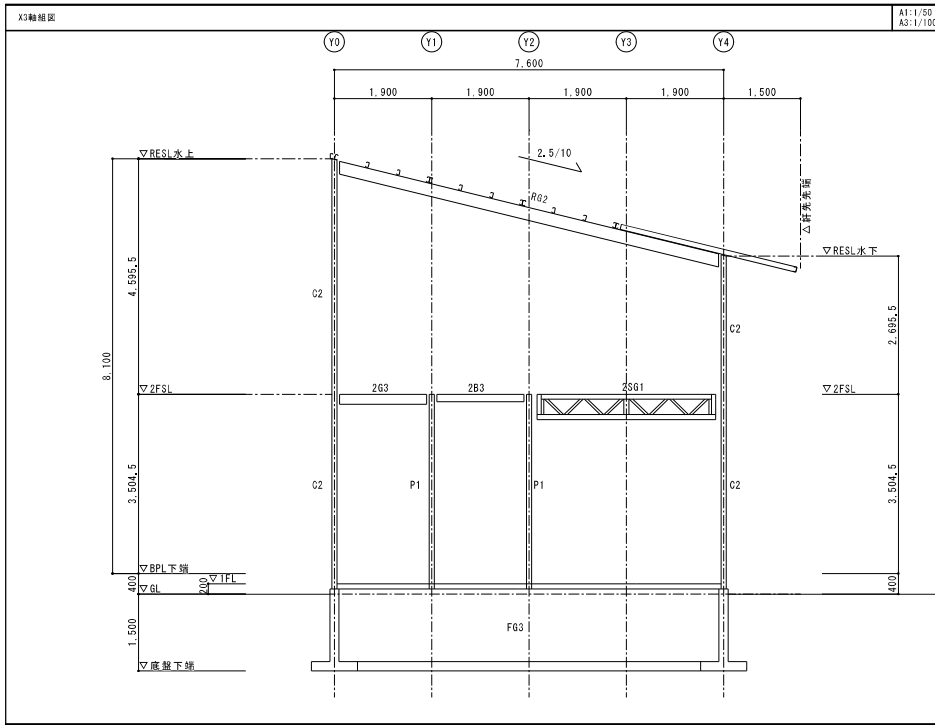
--- 梁脚吊用部材 C-100x50x20x2.3
 □ 開口補強 □-100x100x2.3

図号	新産市消防団第五分団車庫建替工事		
図名	柱脚状況・梁状況		
図尺	A1:1/50 A3:1/100	年月	R06_03
図番		図番	S-07



- 特記事項
- ・ 固線
 - ・ 縦筋線 C-100x50x20x2.3@606
 - ・ 縦筋線受(中間部) : 2C-100x50x20x2.3@3500

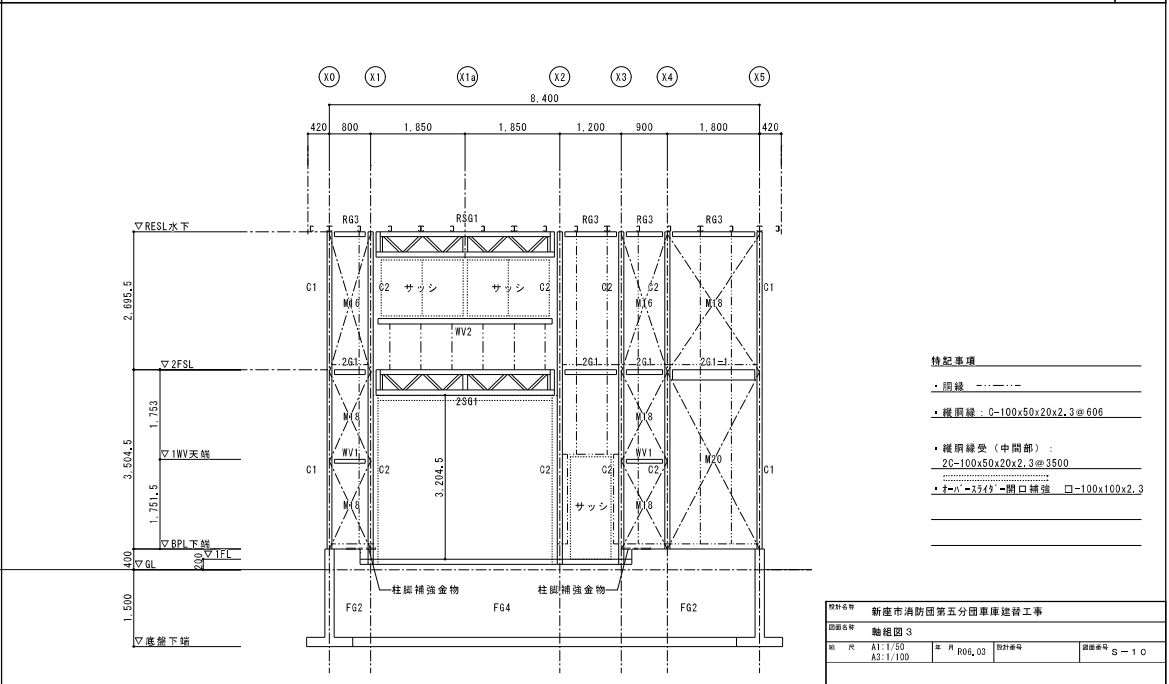
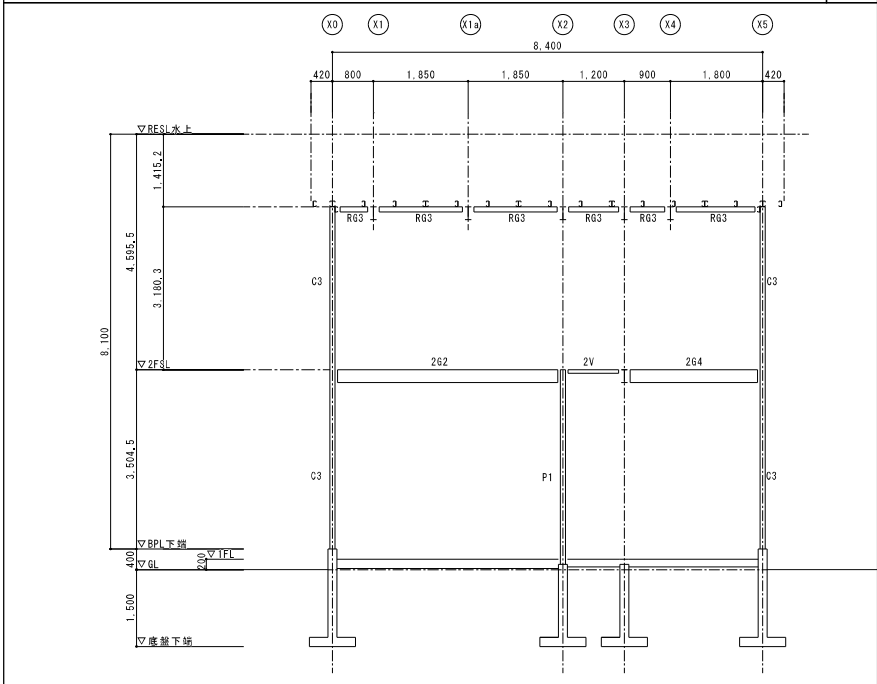
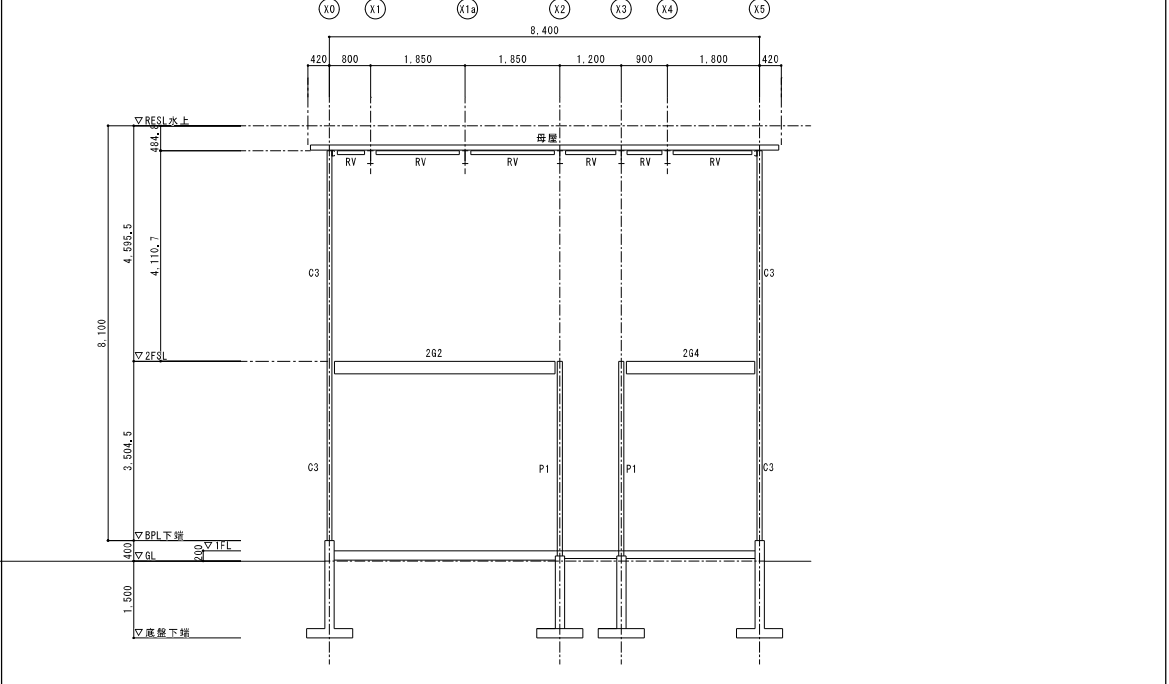
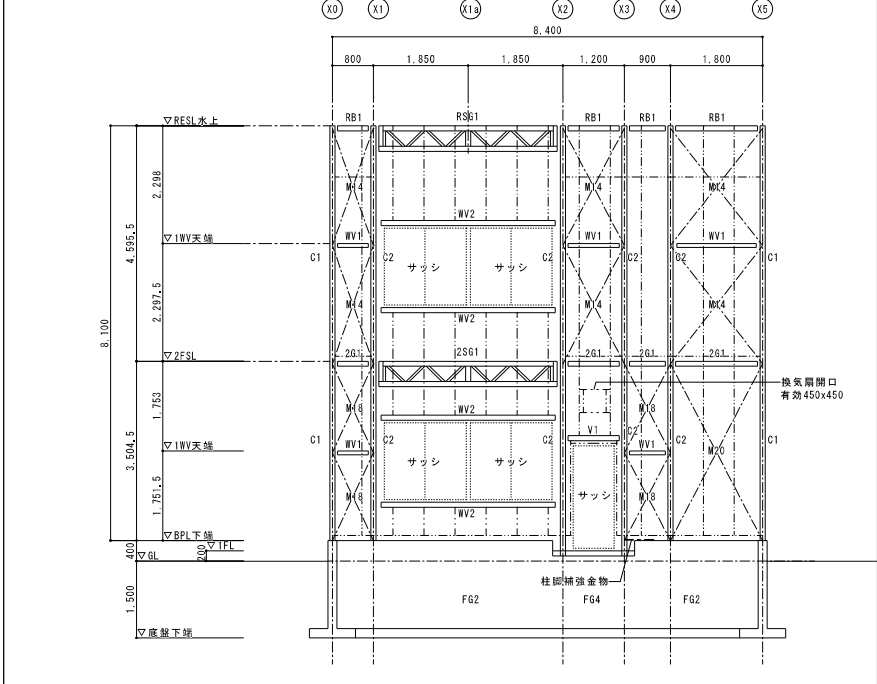
設計番号	新座市消防団第五分団車庫建替工事
図面番号	軸組図 1
縮尺	A1:1/50 A3:1/100
年月	R06_03
図面番号	
製図者	S-O-B



特記事項

- ・ 固線
- ・ 縦筋線 C-100x50x20x2.3@606
- ・ 縦筋線受 (中間部) :
2C-100x50x20x2.3@3500

図面番号	新座市消防団第五分団車庫建替工事		
図面名	軸組図 2		
図尺	A1:1/50 A3:1/100	年月	R06_03
図面番号		図面番号	S-09



- 特記事項
- ・ 固線
 - ・ 縦筋線 C-100x50x20x2.3@606
 - ・ 縦筋線 (中間部) : C-100x50x20x2.3@3500
 - ・ 7-A-35分-開口補強 口-100x100x2.3

鋼骨部材リスト

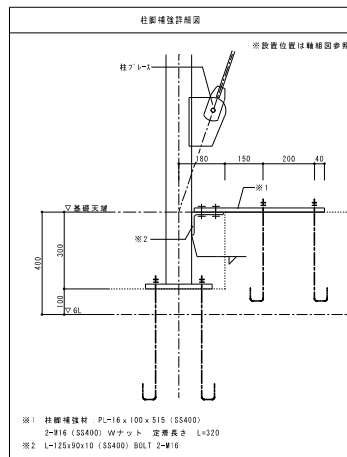
符号	R01	R02	R03	R01	RV, 2V	RS01, Z01
形状						
主材	C-100x50x20x3.2 SS400	H-250x125x6x9 SS400	H-100x100x6x8 SS400	C-100x50x20x3.2 SS400	C-75x45x15x2.3 SS400	上下主材: □=100x100x4.5 STR400 ラテス: □=75x45x3.2 STR400
接合部	GPL-4.5 2-M12	GPL-6 3-M16	GPL-6 2-M16	GPL-4.5 2-M12	GPL-4.5 2-M12	GPL-4.5 2-M16

符号	Z01	Z02	Z01-1, Z01-1	Z01	Z03, Z04, K01	RV1
形状						
主材	C-100x50x20x3.2 SS400	H-250x125x6x9 SS400	□=200x50x5x4.5 SS400	C-100x50x20x3.2 SS400	H=200x100x5.5x8 SS400	C=75x45x15x2.3 SS400
接合部	GPL-4.5 2-M16	GPL-6 3-M16	GPL-6 2-M16	GPL-4.5 2-M16	GPL-6 2-M16	GPL-4.5 2-M12

符号	Z03, Z04	RV2	V1	柱脚
形状				
主材	H=150x75x7 SS400	□=100x100x6.0 STR400	□=100x50x5x7.5 SS400	C=100x50x20x2.3 SS400
接合部	GPL-6 2-M16	GPL-4.5 2-M16	GPL-6 2-M16	GPL-4.5 2-M12 (ラテス付脚1-M12)

符号	縦筋継	縦筋継受
形状		
主材	C=100x50x20x2.3 SS400	2C=100x50x20x2.3 SS400
接合部	GPL-4.5 1-M12	GPL-4.5 2-M12

※縦材: SS400(JIS G3550), STR400(JIS G3466), SS400(JIS G3101), SNH400(JIS G3353)
 ※材: 中材(B1180), 高力材(F107もしくはF10T(JIS B1186))
 ※特製ボルトは中ボルト、強度区分4.6 4.8以上(一面圧接合、スプリングワッシャー付)、GPL(SS400)



プレート接合部リスト

符号	M10: 水アノリス	M14, M16: 柱アノリス	M18, M20: 柱アノリス	GPL取付基準
形状				
主材	M10 SS400	M14, M16 SNH400B	M18, M20 SNH400B	
GPL	GPL-4.5 SS400	GPL-6 SS400	GPL-9 SS400	SS400
備考	HTB L=M12(支圧) FBT又はF10T 溶接長さ L=100mm以上	HTB L=M16(支圧) FBT又はF10T 溶接長さ L=180mm以上	HTB L=M20(支圧) FBT又はF10T 溶接長さ L=230mm以上	

※主材(水アノリス): SN(R) (JIS G 3138) ※M10はSS400 (JIS G 3101), GPL: SS400 (JIS G 3101), Bolt: FBT又はF10T (高力ボルト) (一面圧接合)
 ※水アノリスはJIS5000の材質に適合し(溶接寸法はJIS規格各メーカー寸法を優先する)

柱脚部材リスト

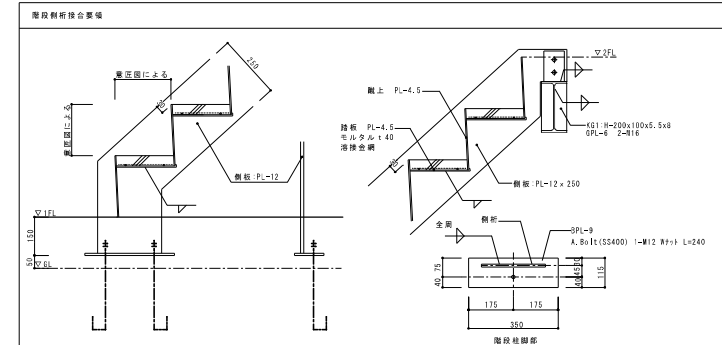
符号	G1(鋼柱)	G2, G3, P1	溶接部詳細図	7/8"ボルト固定基準
形状				
主材	柱: □=100x100x4.5(STR400) ラテス付脚: PL=25(SNH400B) 7/8"ボルト: M24(SNH400B) L=480	柱: □=100x100x4.5(STR400) ラテス付脚: PL=25(SNH400B) 7/8"ボルト: M24(SNH400B) L=520	●縦筋継: PL=4.5×50×50 底筋: 中材(支圧)+高力(支圧)又は高力(S400) ※7/8"ボルトはJIS規格に適合し(溶接寸法はJIS規格各メーカー寸法を優先する)	※高力ボルトは3φ以上

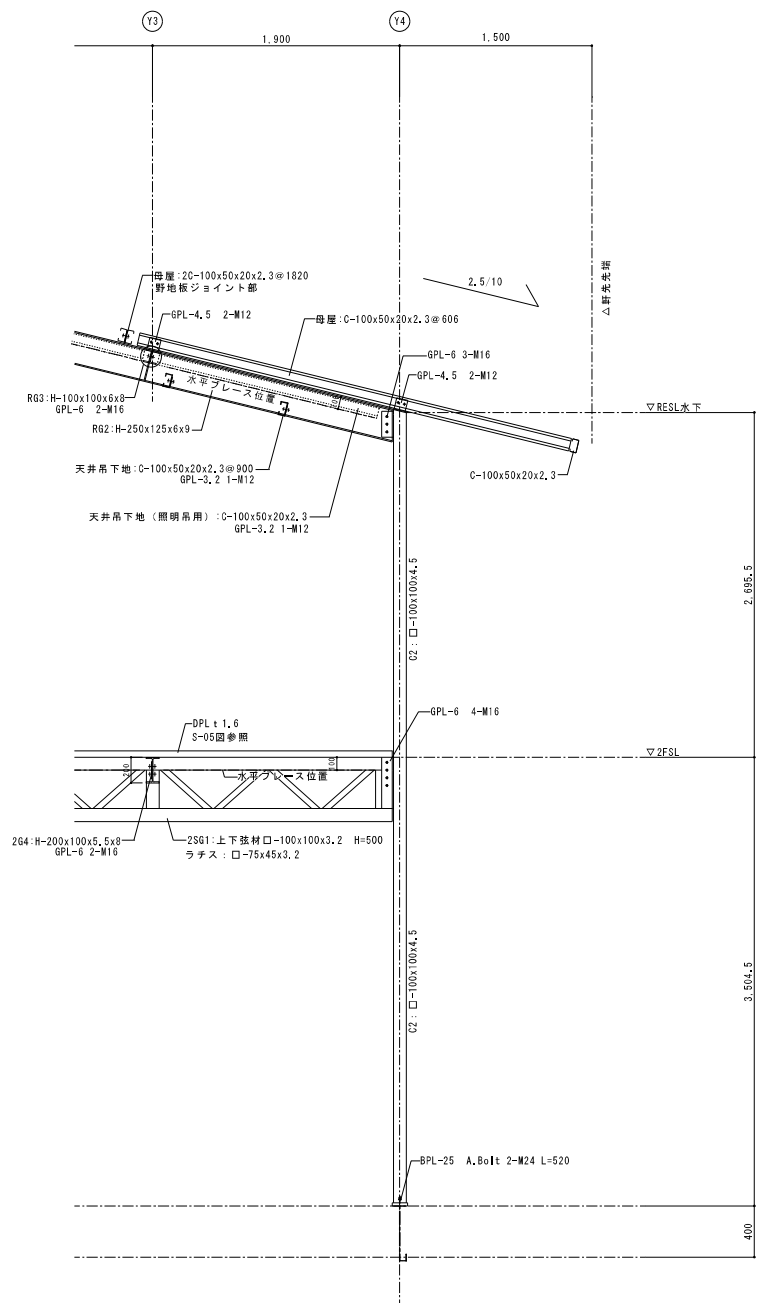
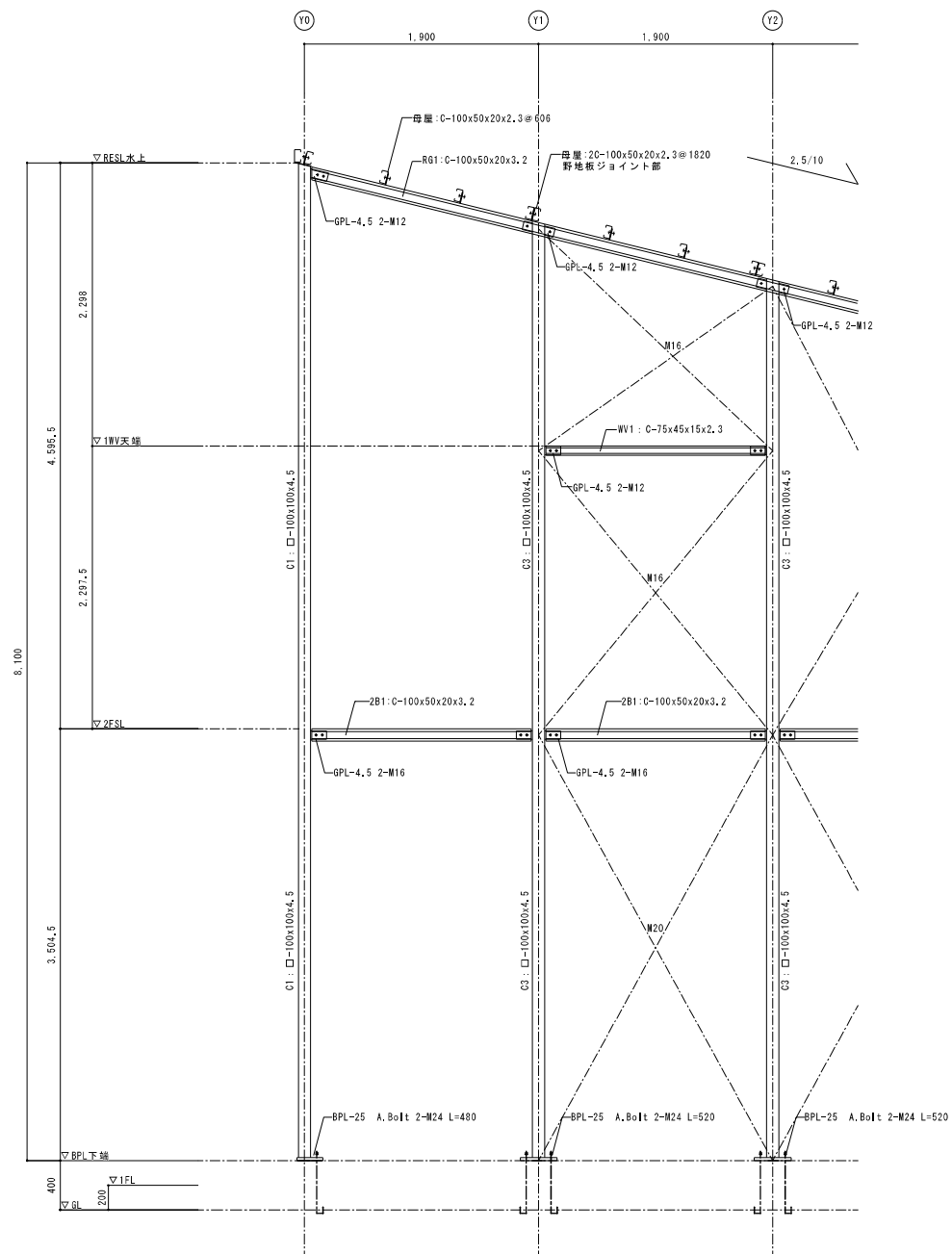
※7/8"ボルトは肘付、溶接付とする。(告示1456 第一 口に適合)

※7/8"ボルトの先端はフック付き(告示1456 第一 ハに適合)

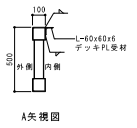
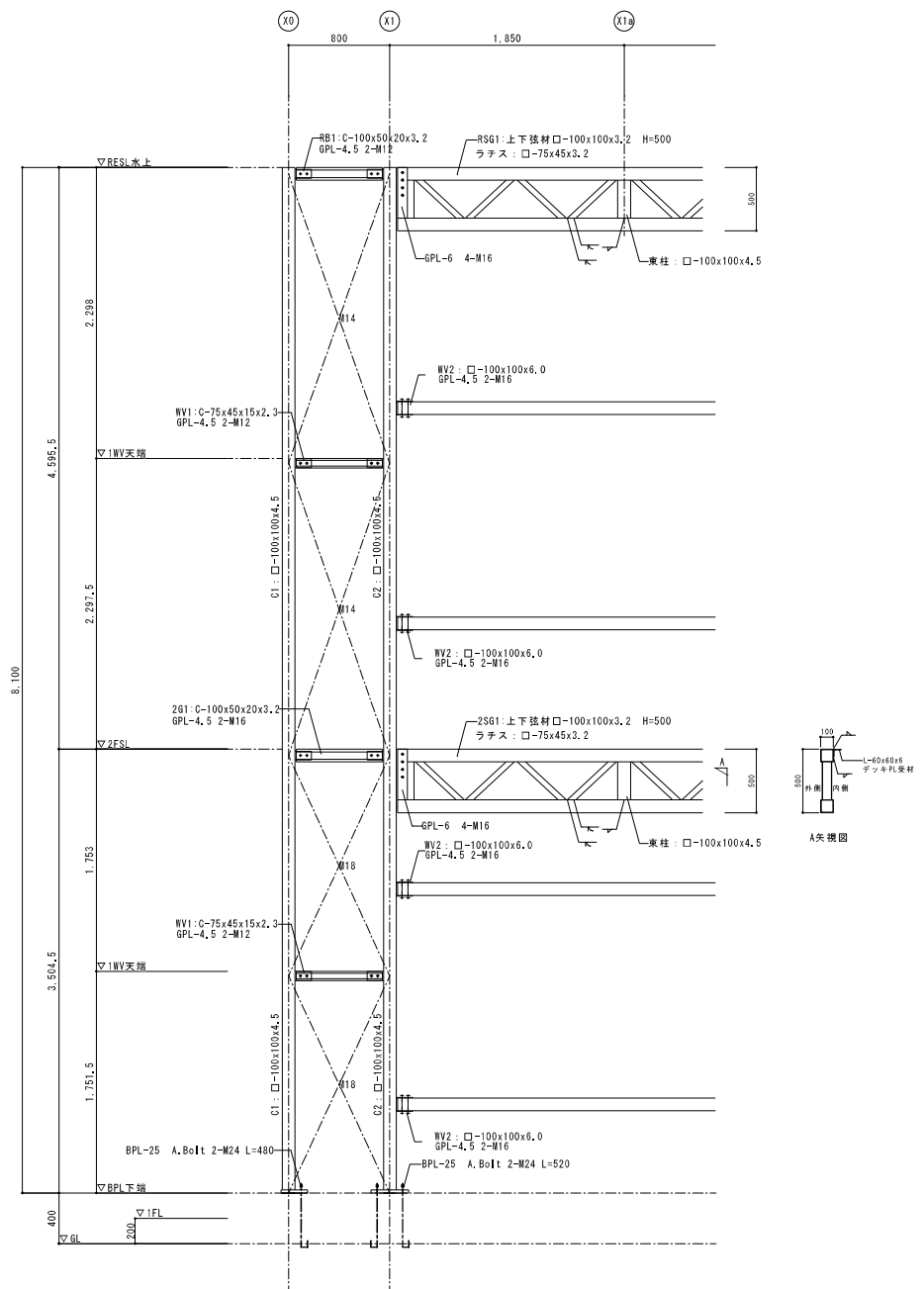
※7/8"ボルトのLは定尺長さとする

階段斜所接合部





図面番号	新座市消防団第五分団車庫建替工事		
図面名称	鉄骨架構図 1		
縮尺	A1:1/20	年次	R06_03
図面番号		図面番号	S-12



Y0鉄骨架構図

図名	新座市消防団第五分団車庫建替工事			
図種	鉄骨架構図 2			
縮尺	A1:1/20	年 月	R06_03	図番
	A3:1/40			S-13

環境配慮 (グリーン) 改修工事	1 アスベスト処理工事 一般共通事項	留意事項 1 本工事は、アスベスト含有のおそれのある吹付け材、保温材又はダクトパッキン等を除去する工事が含まれる場合に適用する。設備改修に伴う、アスベスト含有材への開口などの小規模改修工事は本仕様書に準じて行うものとする。 2 アスベスト処理を所管する行政の指導がある場合は、それによるものとし、監督員に報告し協議する。 3 この工事においては、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁審判部監督公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)(以下「改修様式」という)及び「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石棉飛散防止対策マニュアル」(令和3年3月「厚生労働省・環境省」)による。																																																																																												
	2 アスベスト含有分析 調査	分析によるアスベスト含有建材の調査 [9.1.1] ・ 行う(下表による) <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料 名</th> <th>調査方法(1材料あたりの試験数:3サンプル)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ 定性分析</td> <td>・ 定量分析</td> </tr> <tr> <td>※ 定性分析</td> <td>・ 定量分析</td> </tr> <tr> <td>※ 定性分析</td> <td>・ 定量分析</td> </tr> <tr> <td>※ 定性分析</td> <td>・ 定量分析</td> </tr> </tbody> </table> 採取箇所 ※ 図示 分析対象 ※ アスベスト 6 種類(アモサイト、クリソタイル、クロソドライト、アクチノライト、アンソフィライト、トリモライト) 調査方法・分析方法 ※ JIS A 1481 規格群(1481-1,2,3,4)「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」に準拠する。 分析結果については、監督員に提出すること。	材 料 名	調査方法(1材料あたりの試験数:3サンプル)	※ 定性分析	・ 定量分析	※ 定性分析	・ 定量分析	※ 定性分析	・ 定量分析	※ 定性分析	・ 定量分析																																																																																		
	材 料 名	調査方法(1材料あたりの試験数:3サンプル)																																																																																												
※ 定性分析	・ 定量分析																																																																																													
※ 定性分析	・ 定量分析																																																																																													
※ 定性分析	・ 定量分析																																																																																													
※ 定性分析	・ 定量分析																																																																																													
3 アスベスト粉じん 濃度測定	アスベスト粉じん濃度測定 [9.1.1] ・ 行う(測定の特及び測定点は下表による) 測定箇所 ※ 図示 <table border="1"> <thead> <tr> <th>測 定 箇 所</th> <th>測定名称</th> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定点数 (各処理作業ごと)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>測定1</td> <td>処理作業室内</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>測定2</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>測定3</td> <td>処理作業室内</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>測定4</td> <td>処理作業室内 作業員作業位置</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>測定5</td> <td>負圧・脱じん装置の排出口 (処理作業室外の場合)</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>測定6</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>測定7</td> <td>処理作業室内</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>測定8</td> <td>処理作業室内又は敷地境界</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>測定9</td> <td>処理作業室内</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>測定10</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界</td> </tr> </tbody> </table> アスベスト粉じん濃度測定方法 アスベスト粉じん濃度測定は「JIS K 3850-1:2006 空気中の繊維状粒子測定方法-第一部:光学顕微鏡法及び流量電子顕微鏡法」の6.2 相差・分散顕微鏡法による。 測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定 3</th> <th>測定 1, 2, 4, 6, 7, 8, 9, 10</th> <th>測定 5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計数範囲</td> <td>位相差・分散顕微鏡</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ノズル/ノズルの直径</td> <td>25 mm</td> <td>47 mm</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引流量</td> <td>1 l/min</td> <td>5 l/min 10 l/min</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引時間</td> <td>5 min</td> <td>120 min 240 min</td> </tr> <tr> <td>試料の透明化</td> <td>アセトシトリアセチレン法又は、シュウ酸ジエチル法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計数条件</td> <td>総アスベスト繊維数 200 本又は視野数 50 視野</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計数アスベスト</td> <td>直径(幅) 3µm 未満、長さ 5µm 以上、長さ×直径比 3:1 以上の繊維状物質</td> <td></td> </tr> <tr> <td>定量限界</td> <td>50 f/l</td> <td>0.5 f/l 0.3 f/l</td> </tr> </tbody> </table> 報告書の作成(記録する項目) ア 測定結果 イ 測定時間 ウ 測定位置(測定高さとともに図面上に記載) エ サンプリング条件(メンブレンフィルタ直径、吸引時間、吸引空気量) オ データサンプリング方法 カ 顕微鏡視野画像、計数視野数 キ 測定時(各測定場所ごと)の天候、温度、湿度、外気の風速及び風向 ク 周辺地形や構築物の状況を撮影した写真	測 定 箇 所	測定名称	測定時期	測定場所	測定点数 (各処理作業ごと)	備考	○	○	○	○	測定1	処理作業室内	○	○	○	○	測定2	施工区画周辺又は敷地境界	○	○	○	○	測定3	処理作業室内	○	○	○	○	測定4	処理作業室内 作業員作業位置	○	○	○	○	測定5	負圧・脱じん装置の排出口 (処理作業室外の場合)	○	○	○	○	測定6	施工区画周辺又は敷地境界	○	○	○	○	測定7	処理作業室内	○	○	○	○	測定8	処理作業室内又は敷地境界	○	○	○	○	測定9	処理作業室内	○	○	○	○	測定10	施工区画周辺又は敷地境界	測定 3	測定 1, 2, 4, 6, 7, 8, 9, 10	測定 5	計数範囲	位相差・分散顕微鏡		ノズル/ノズルの直径	25 mm	47 mm	試料の吸引流量	1 l/min	5 l/min 10 l/min	試料の吸引時間	5 min	120 min 240 min	試料の透明化	アセトシトリアセチレン法又は、シュウ酸ジエチル法		計数条件	総アスベスト繊維数 200 本又は視野数 50 視野		計数アスベスト	直径(幅) 3µm 未満、長さ 5µm 以上、長さ×直径比 3:1 以上の繊維状物質		定量限界	50 f/l	0.5 f/l 0.3 f/l
測 定 箇 所	測定名称	測定時期	測定場所	測定点数 (各処理作業ごと)	備考																																																																																									
○	○	○	○	測定1	処理作業室内																																																																																									
○	○	○	○	測定2	施工区画周辺又は敷地境界																																																																																									
○	○	○	○	測定3	処理作業室内																																																																																									
○	○	○	○	測定4	処理作業室内 作業員作業位置																																																																																									
○	○	○	○	測定5	負圧・脱じん装置の排出口 (処理作業室外の場合)																																																																																									
○	○	○	○	測定6	施工区画周辺又は敷地境界																																																																																									
○	○	○	○	測定7	処理作業室内																																																																																									
○	○	○	○	測定8	処理作業室内又は敷地境界																																																																																									
○	○	○	○	測定9	処理作業室内																																																																																									
○	○	○	○	測定10	施工区画周辺又は敷地境界																																																																																									
測定 3	測定 1, 2, 4, 6, 7, 8, 9, 10	測定 5																																																																																												
計数範囲	位相差・分散顕微鏡																																																																																													
ノズル/ノズルの直径	25 mm	47 mm																																																																																												
試料の吸引流量	1 l/min	5 l/min 10 l/min																																																																																												
試料の吸引時間	5 min	120 min 240 min																																																																																												
試料の透明化	アセトシトリアセチレン法又は、シュウ酸ジエチル法																																																																																													
計数条件	総アスベスト繊維数 200 本又は視野数 50 視野																																																																																													
計数アスベスト	直径(幅) 3µm 未満、長さ 5µm 以上、長さ×直径比 3:1 以上の繊維状物質																																																																																													
定量限界	50 f/l	0.5 f/l 0.3 f/l																																																																																												

4 77%以上含有吹き付け材の除去(レベル1)	アスベスト含有吹き付け材の除去 [9.1.3] ・ 行う 除去方法は9.1.3による除、除去の部位・内容に応じた除去は専門工業者の仕様とする。 除去物及び汚染物質等 処理方法 ※岩綿梱包(二重梱包) 隣接居室に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能高圧洗浄機、粉じんフィルタについても密閉処理を行う。 ・セメント固化 処理を行う吹き付けアスベストの仕様 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料 名</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>処 理 を 行 う 箇 所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	材 料 名	厚さ(mm)	処 理 を 行 う 箇 所			※ 図示																								
材 料 名	厚さ(mm)	処 理 を 行 う 箇 所																													
		※ 図示																													
5 77%以上含有保温材等の除去(レベル2)	アスベスト含有保温材等の除去 [9.1.4] ・ 行う 作業上の隔離 ・ 行う ・ 行わない 処理を行う保温材等アスベストの仕様 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料 名</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>処 理 を 行 う 箇 所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	材 料 名	厚さ(mm)	処 理 を 行 う 箇 所			※ 図示																								
材 料 名	厚さ(mm)	処 理 を 行 う 箇 所																													
		※ 図示																													
6 77%以上含有成形部材等の除去(レベル3)	1 アスベスト含有成形部材の除去 [9.1.5] ・ 行う 処理を行うアスベスト成形部材の仕様等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料 名(製品名)</th> <th>含有するアスベストの種別</th> <th>処 理 を 行 う 箇 所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>*</td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td>*</td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td>*</td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td>*</td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> </tbody> </table> 2 非石綿物での切断による除去 ・ 行う 処理を行うアスベスト含有物の仕様等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料 名</th> <th>含有するアスベストの種別</th> <th>処 理 を 行 う 箇 所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 断熱材ダクト結合部(石綿含有パッキン混入)</td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td>・ 石綿含有保温材配管</td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td>・ 石綿含有配管フランジパッキン</td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> </tbody> </table> ※なお、石綿含有保温材配管については、断熱のおそれ考慮し、一部レベル2の対応を図るものとする。 <p><参考>石綿使用有無の事前調査フロー</p> <pre> graph TD A["(1) 設計図書による調査 ① 施工による調査 ② 使用建築材料による調査"] --> B{可能性なし} A --> C{可能性あり・不明} C --> D["(2) 現場目視による調査 目視調査(建材の確認)"] D --> E{可能性なし} D --> F{可能性あり・不明} F --> G{分析を実施しない場合} G --> H{石綿含有とみなす} H --> I{石綿使用あり・届出要件確認・届出} F --> J{分析を実施する場合} J --> K["(3) 分析調査による判定 JIS A 1481-2「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」など"] K --> L{石綿含有0.1%を超えていると判断} L --> I K --> M{石綿含有0.1%以下と判断} M --> N{石綿使用なし} </pre>	材 料 名(製品名)	含有するアスベストの種別	処 理 を 行 う 箇 所	*		※ 図示	*		※ 図示	*		※ 図示	*		※ 図示	材 料 名	含有するアスベストの種別	処 理 を 行 う 箇 所	・ 断熱材ダクト結合部(石綿含有パッキン混入)		※ 図示	・ 石綿含有保温材配管		※ 図示	・ 石綿含有配管フランジパッキン		※ 図示			※ 図示
材 料 名(製品名)	含有するアスベストの種別	処 理 を 行 う 箇 所																													
*		※ 図示																													
*		※ 図示																													
*		※ 図示																													
*		※ 図示																													
材 料 名	含有するアスベストの種別	処 理 を 行 う 箇 所																													
・ 断熱材ダクト結合部(石綿含有パッキン混入)		※ 図示																													
・ 石綿含有保温材配管		※ 図示																													
・ 石綿含有配管フランジパッキン		※ 図示																													
		※ 図示																													

品名 型式	電圧 用途	種別	定格電圧				定格電流	定格電力	定格電圧	定格電流	定格電力	定格電圧	定格電流	定格電力	定格電圧	定格電流	定格電力	定格電圧	定格電流	定格電力			
			100V	200V	300V	400V																	
分電盤 型式 ELC8P 100/30 中性線欠損保護付き	10,250VA	①	1	○	312		106														1F 照明・機室用		
			2	○	400		142															2F 照明・機室用	
			3	○	60																		照明用機
			4	○																			予備
			5	○	500																		300V 専用
			6	○	400																		300V 専用
			7	○	975																		300V 専用 (トイレ)
			8	○	300																		300V 専用 (収納)
			9	○	40																		300V 専用 (洗面)
			10	○	500																		300V 専用 (持機室)
			11	○	200																		300V 専用 (キッチン)
			12	○	1000																		300V 専用 (冷蔵庫)
			13	○	1000																		300V 専用 (キッチン)
			14	○	500																		300V トイレ 専用 (改修)
			15	○	200																		外断コンセント (キッチン)
			16	○	1000																		300V 専用 (予備)
17	○	2000																		300V 専用 (持機室 空調機)			
18	○																			300V 専用 (予備)			
合計	10,250VA			852	7,195	2,748																	

分電盤 特記事項	
(A) 盤仕様は下記の組番号に○印のあるものを採用する。	
1) 分電盤の仕様は次による。	
①	国土交通省大臣官庁告示第100号「公共建築物工事標準仕様書 (電気設備工事編) (令和4年版)」及び「標準図 (電気設備)」
(B) 回路記号、番号は次による。	
1) 回路記号	
①	電灯回路 (100V)
②	電灯回路 (200V)
③	コンセント回路 (100V)
④	コンセント回路 (200V)
⑤	空調回路 (100V)
⑥	空調回路 (200V)
2) 回路番号	
①	数字 (1,2,3,...) 一般回路：主回路2次側
②	アルファベット (A,B,C,...) 防災回路：主回路1次側
③	アルファベット (G1,G2,...) 保安回路：主回路1次側 (2次側)
④	数字 (1,2,3,...) リモコン回路番号

A	LED埋込灯 下面開放 W150	F	LEDウォールライト (防雨型)
A30	LRS6-2-30 LN 28VA以下 3000lm以上	F14	壁直付付型 H116形相当 14.9W 1470lm

B	LED埋込灯 下面開放 W150	G	LEDウォールライト (防雨型)
B30	LRS6-4-30 LN 25VA以下 3000lm以上	G14	壁付赤色灯
B37	LRS6-4-37 LN 31VA以下 3760lm以上		
B48	LRS6-4-48 LN 41VA以下 4800lm以上		
B65	LRS6-4-65 LN 54VA以下 6500lm以上		

C	LED直付灯 W60以下
C65	LSS1-4-65 LN 54VA以下 6500lm以上

定格出力型、電圧100～242V
 25年、寿命保証
 反射板・散光板 (高反射白色粉体塗装)
 ライトバー (カバー)：ポリカーボネート (乳白)
 光源寿命40000時間 (光束維持率85%)
 暖白色 (5000K)、Ra83、電源線はライトバー側内蔵

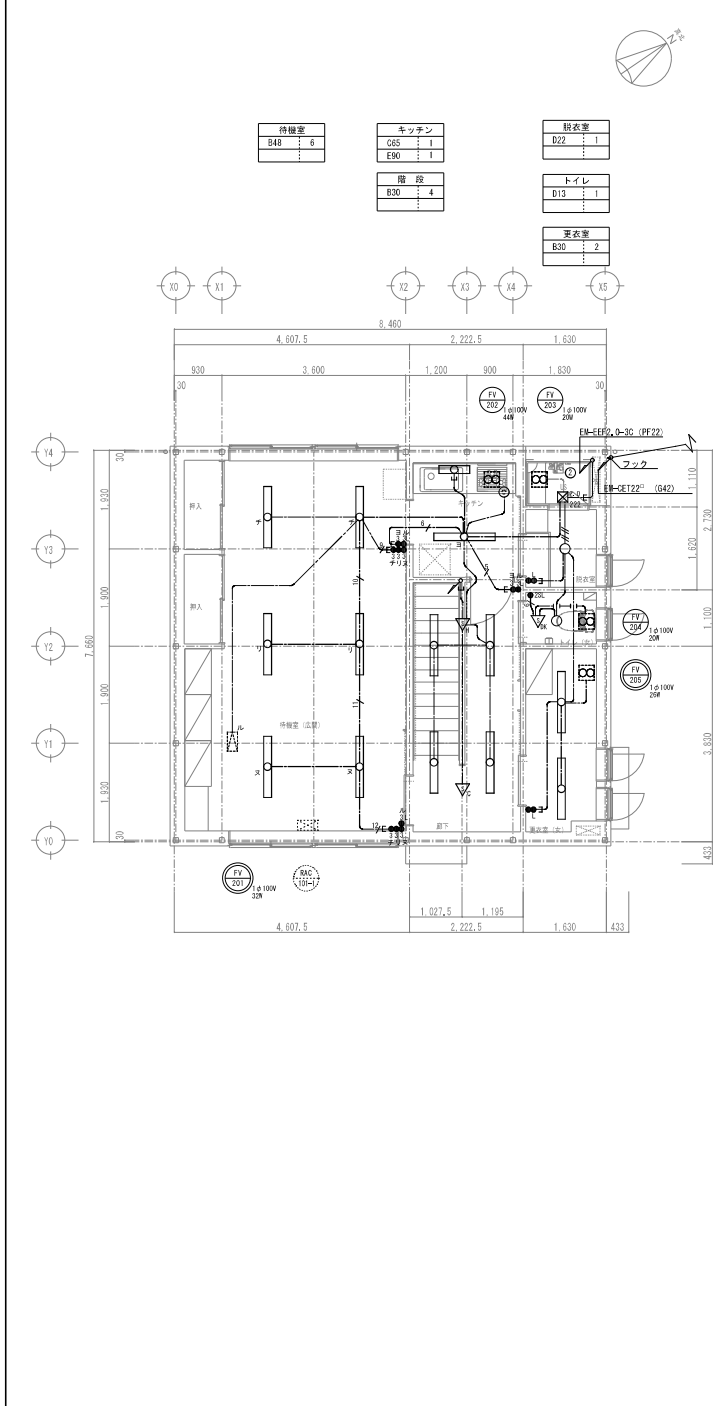
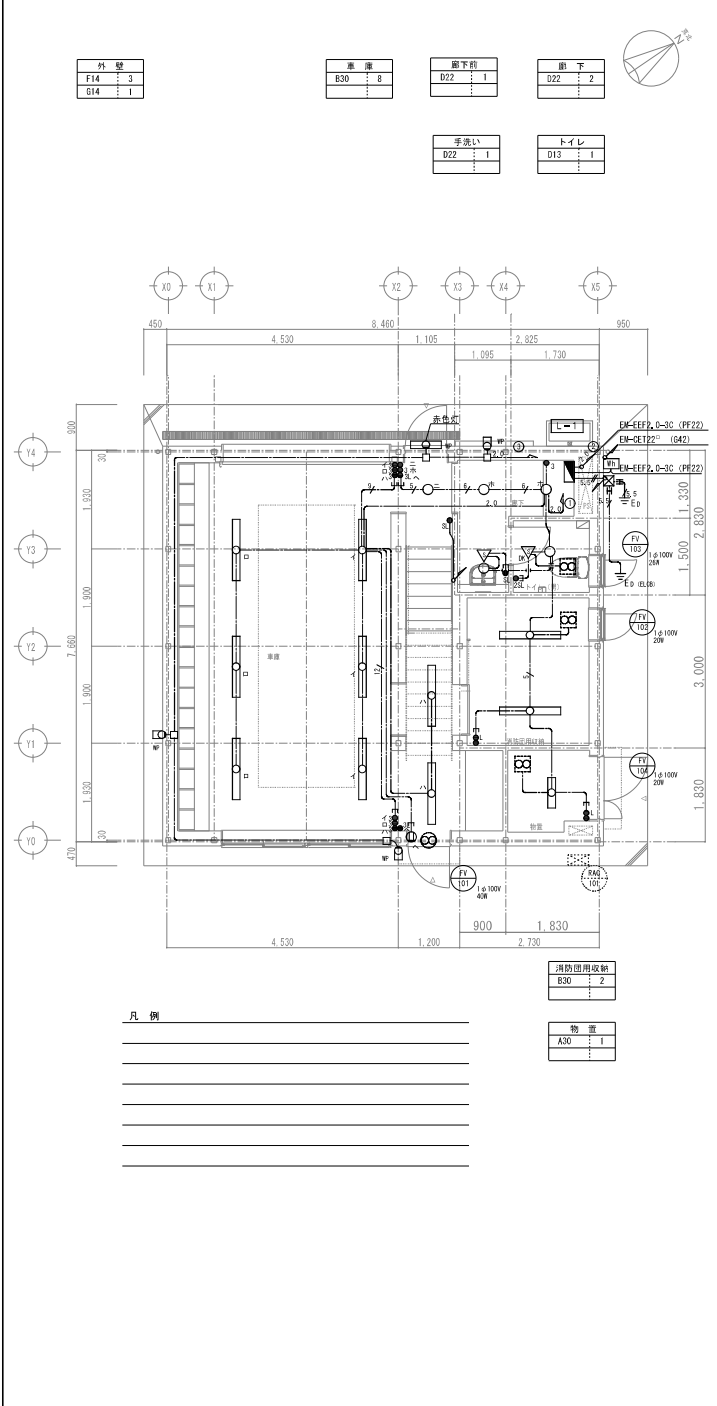
D	LED埋込灯 ダウンライト型
D8	LRS1-08 10VA 800lm
D13	LRS1-13 16VA 1695lm
D17	LRS1-17 22VA 1700lm
D22	LRS1-22 24VA 2200lm

暖白色 (5000K)、Ra83
 標準光束980lm、消費電力12W、電圧100V
 拡散タイプ、天井直付型・壁直付型
 カバー：プラスチック (乳白)
 タッチレススイッチ付

※ 参考型番 LGS52085LE1 相当

E	LED直付付灯
E90	棚下灯 15VA 960lm

図面名称 新座市消防団第五分団車庫建設工事			
図面内容 電気設備 分電盤結線図・機器図			
図面尺寸	A1:—	図面尺寸	AS:—
図面縮尺	1/100	図面縮尺	1/100
図面縮尺	1/100	図面縮尺	1/100
図面縮尺	1/100	図面縮尺	1/100
図面縮尺	1/100	図面縮尺	1/100



シンボル	名称	仕様
○	照明器具	
□	照明器具	壁付け (NP附加は防雨型)
◇	照明器具	壁付け (NP附加は防雨型)
○	照明器具	ダウンライト
▽	人感センサー	誘機
▽	人感センサー	手機
▽	人感センサー	換気扇連動OFF機能付き
▽	人感センサー	誘機 高天井用
□	アウトレットボックス	
■	分電盤	分電盤
⊗	換気扇	
⊗	換気扇	
⊗	ファン	
⊗	空調機	
⊗	プルボックス	SS200×200×200
●	スイッチ	1P15A×1
●	3線スイッチ	1P15A×1
●	スイッチ	1P15A×1 動作確認灯付き
●	3線スイッチ	1P15A×1 動作確認灯付き
●	人感センサー操作ユニット	2回路用
⊕	接地盤	接地棒φ14-1.5m 3連
⊕	電力量計取付盤	(日本分電盤 9ME-2510C10相当)

※スイッチはネーム入りとする。

特記なき配管記号は下記とする。()内は保護管を表す

- EF-EEF2, D-3C (PF22)
- EF-EEF1, 6-2C (PF16)
- EF-EEF1, 6-3C (PF22)
- EF-EEF1, 6-2C×2 (PF28)
- EF-EEF1, 6-2C+3C (PF28)
- EF-EEF1, 6-3C×2 (PF28)
- EF-EEF1, 6-2C×2 (PF28) + 3C (PF22)
- EF-EEF1, 6-3C×2 (PF28) + 3C (PF22)
- EF-EEF1, 6-3C×2 (PF28) + 2C×2 (PF28)
- EF-EEF1, 6-3C×2 (PF28) + 3C+2C (PF28)
- EF-EEF1, 6-3C×2 (PF28) × 2
- EF-IE5, 5×2 (VE16) 露出
- EF-IE5, 5×1 (VE16) 露出
- EF-IE5, 5×1 (VE16) 地中

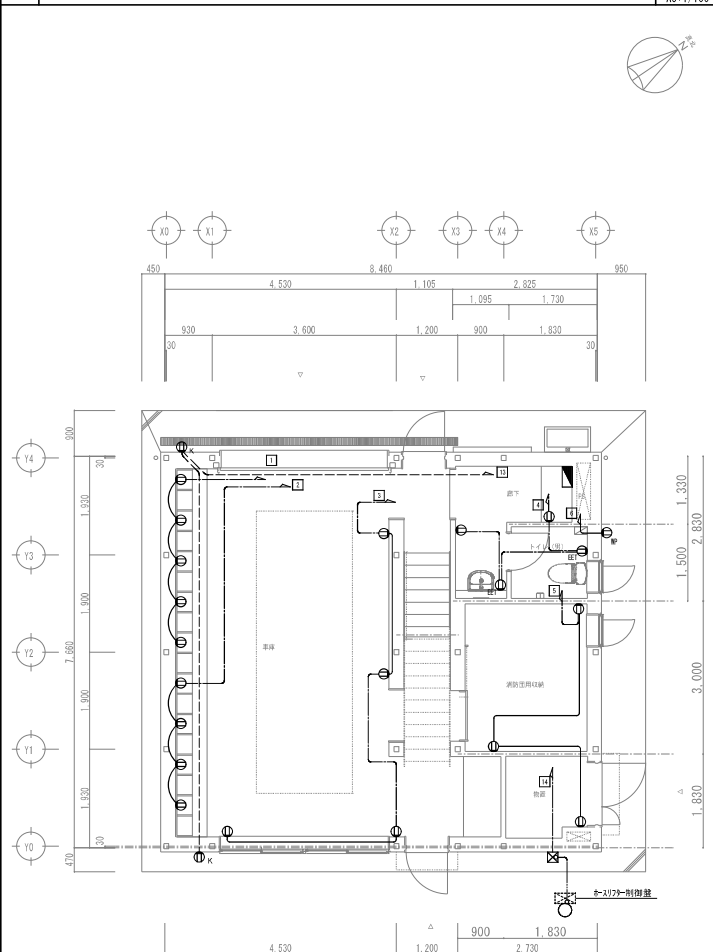
配管配線施工凡例

- 電線管内
- 天井内

図名	新座市消防団第五分団車庫建設工事		
図種	電灯設備 1・2階平面図		
図尺	A1:1/50	図号	ROG.03
縮尺	A3:1/100	設計者	E-04

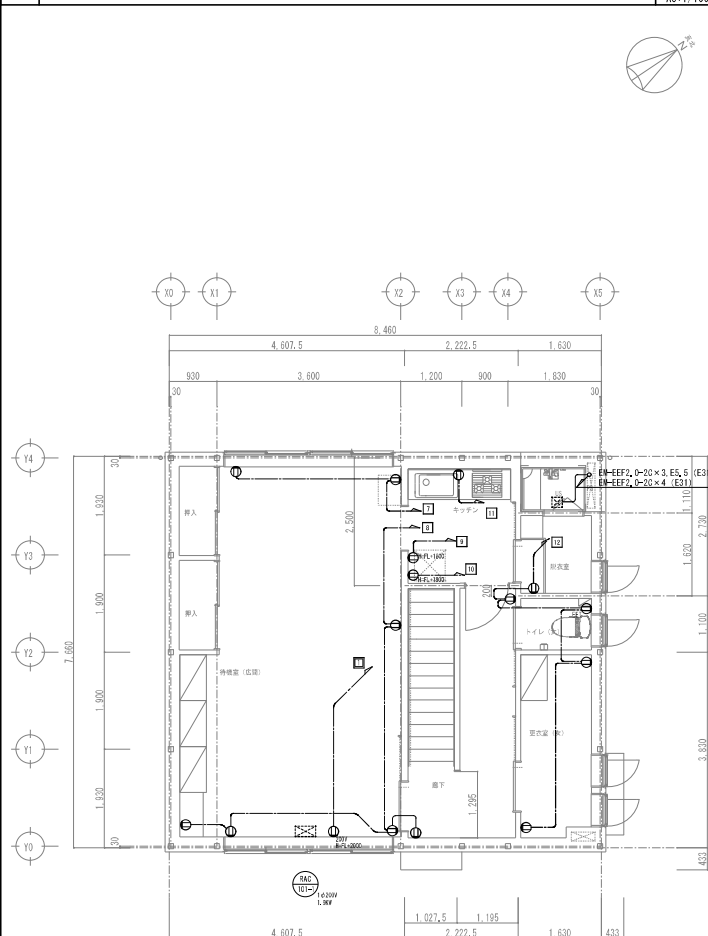
O 1

1階平面図

A1:1/50
A3:1/100

O 2

2階平面図

A1:1/50
A3:1/100

O 3

屋根伏図

A1:1/50
A3:1/100

凡例

シンボル	名称	仕様
Ⓢ	コンセント	2P15A×2, E付
ⓈE1	コンセント	2P15A×1, E, E1付
Ⓢ30W	コンセント	200V 2P20A×1, E, E1付
ⓈP	防水コンセント	2P15A×1, E, E1付
Ⓢ×	鍵付きカバー付き	2P15A×1, E, E1付

特記なき配管配線は下記とする。

——— E1-E2F, O-3C (室内保護管付22) (天井内20mm²)
 - - - E1-E2F, O-3C (PF22) (床内ベ)

配管配線施工凡例

——— ベネ配線 (電線管内)
 ——— 天井内こまがしケーブル
 - - - 床内ベ配線 (PF22)

図面名称 新座市消防団第五分団車庫建設工事

図面内容 コンセント設備 1・2階平面図

期 次

A1:1/50

期 号

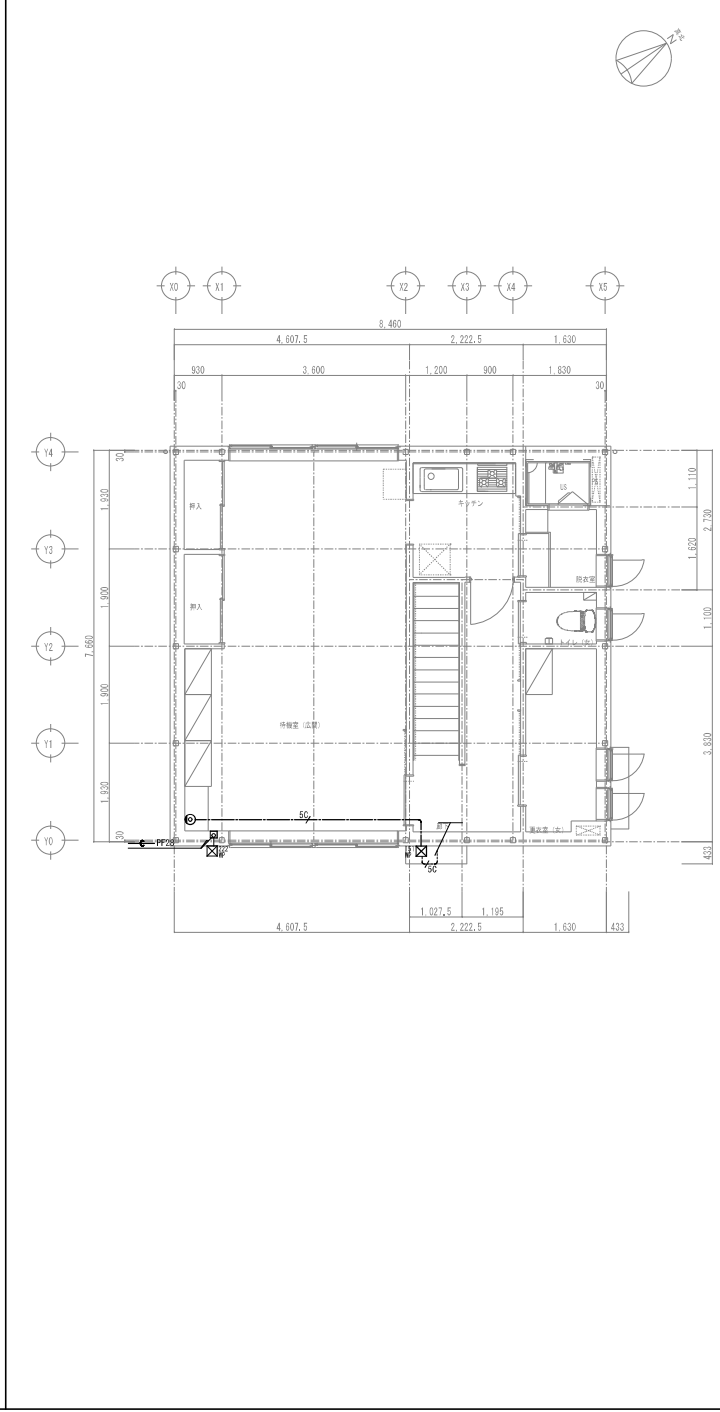
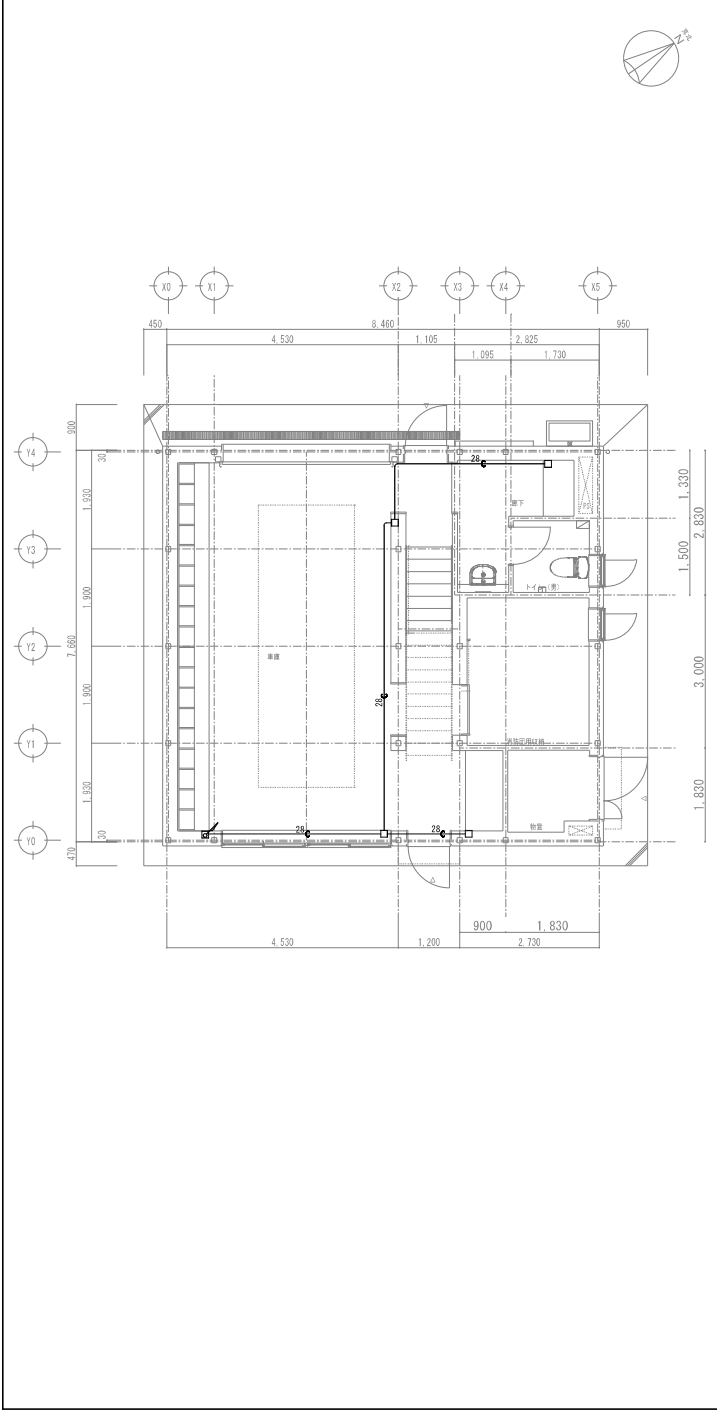
A3:1/100

設計者

R06.03

図番

E-05



屋根伏せ (Roof Plan)

シンボル	名称	仕様
⊙	テレビ端子	
☒	プルボックス	150×150×100 WP-SUS

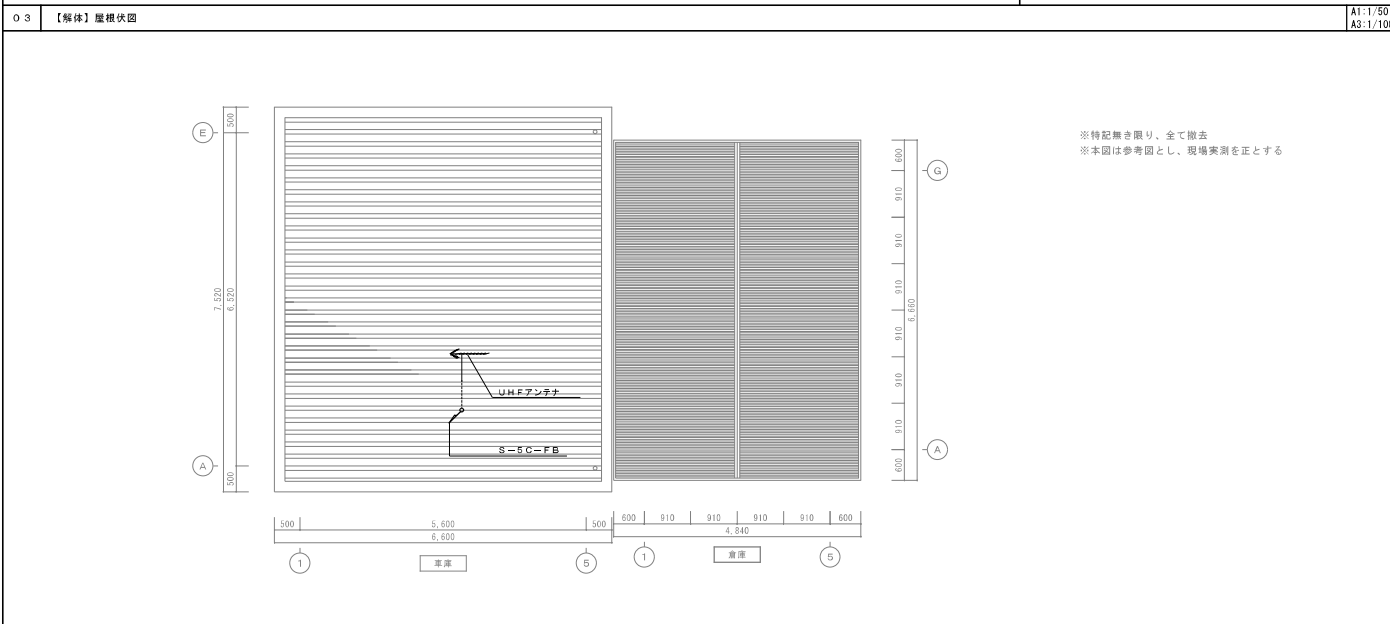
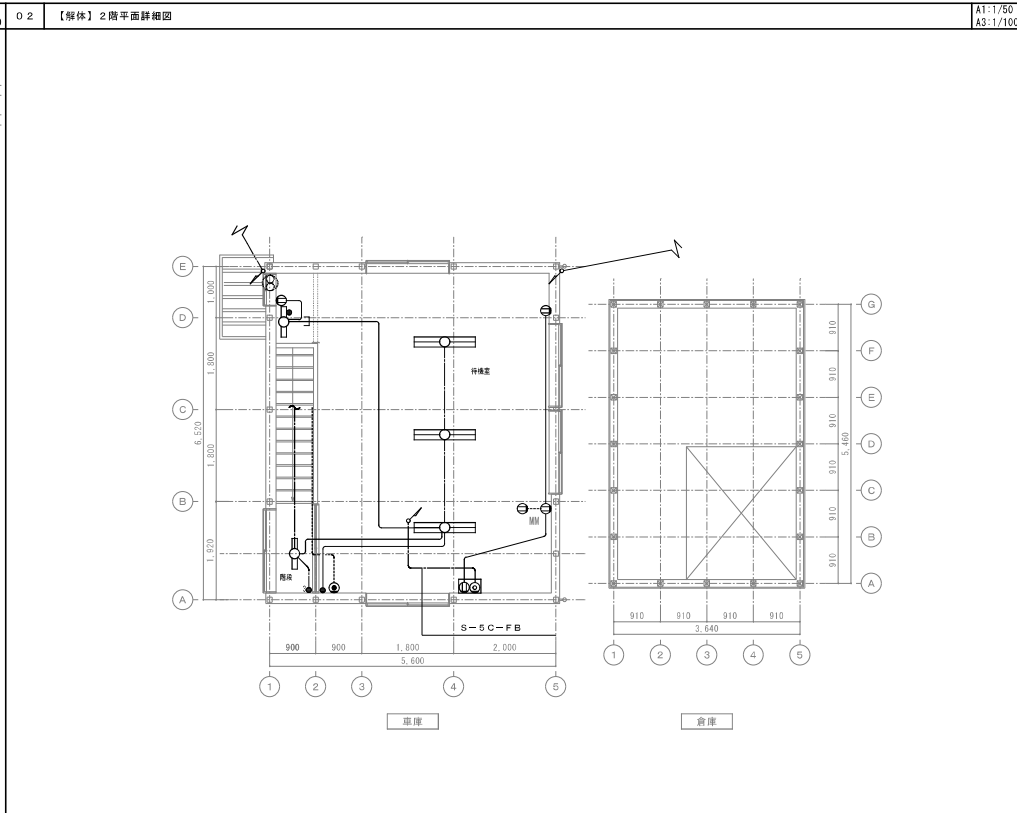
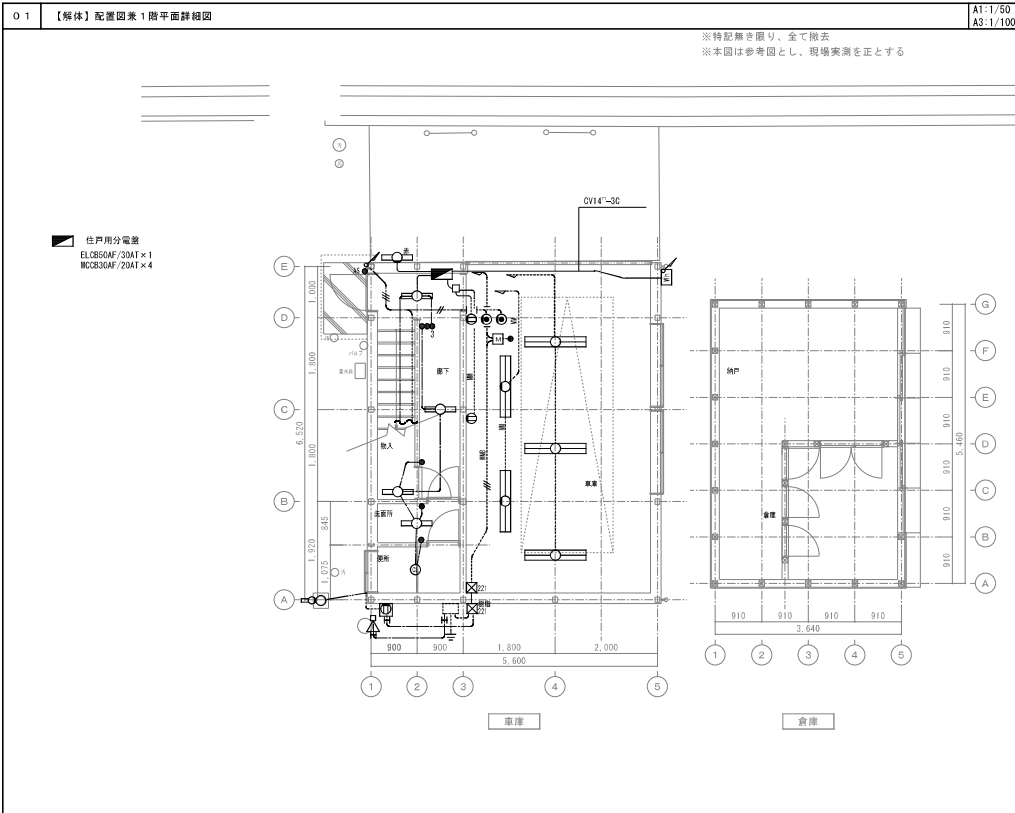
特記なき配管配線は下記とする。

- S1--- EK-S-S-FB 天井こしがし
- S2--- EK-S-S-FB 露出
- S3--- EK-S-S-FB 壁内 (PF22)
- S4--- 空配管 (PF28)

配管配線施工凡例

- 〇 --- 〇ベ イ配線 (電線管内)
- 〇 --- 天井内こしがしトブ&

図名 新座市消防団第五分団車庫建設工事			
図面名称 弱電設備 1・2階平面図			
図大 A1:1/50	図種 RO6.03	図番	図番 E-06
A3:1/100			



04 凡例

A1:1/50
A3:1/100

※特記無き限り、全て撤去
※本図は参考図とし、現場実測を正とする

凡例	電気記号	特記なき配管配線は下記による
	電力配線	
	電灯分電盤	
	照明器具 (天井直付け蛍光灯 40W-2灯)	《電灯設備》
	照明器具 (壁面直付け蛍光灯 40W-2灯)	----- VVF1.6-2C 天井こぶし
	照明器具 (天井直付け蛍光灯 20W-1灯)	----- VVF1.6-2C (PF16)
	照明器具 (壁面直付け蛍光灯 20W-1灯)	----- VVF1.6-2C (E25)
	照明器具 (天井直付け蛍光灯 20W-1灯)	----- W VVF1.6-2C 調光
	照明器具 (天井直付け蛍光灯 20W-1灯)	
	照明器具 (天井直付け白熱灯 60W-1灯)	《コンセント設備》
	照明器具 (蛍光灯32W) (防犯灯)	----- VVF2.0-2C 天井こぶし
	接地極	----- VVF2.0-2C (PF16)
	スイッチ 1P15A×1	----- W VVF2.0-2C 調光
	3路スイッチ	----- W VVF2.0-2C×3 調光
	発光センサー	
	スイッチ 1P15A×3	《電話設備》
	コンセント 2P15A×2	----- T1VF0.65-2C 天井こぶし
	コンセント 2P15A×2 WP	----- T1VF0.65-2C×2 天井こぶし
	テレビユニット	----- T1VF0.65-2C×3 天井こぶし
	電話ジャック	----- T1VF0.65-2C 露出 (2キップ用)
		----- W T1VF0.65-2C (調光)
		《テレビ設備》
		----- S-5C-FB 天井こぶし
		----- S-5C-FB (PF16)

03 04 05

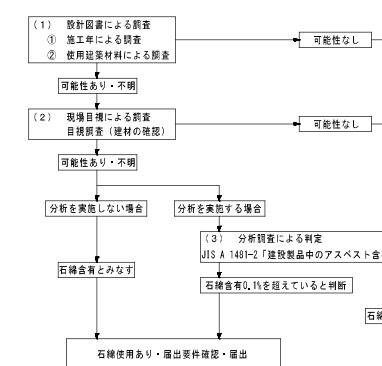
1 2 3 4 5

車庫 倉庫

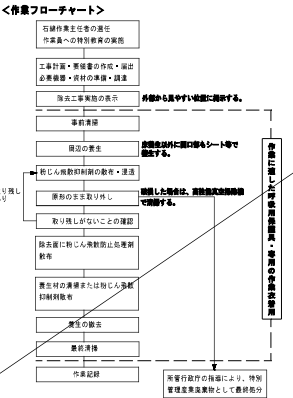
図名	新座市消防団第五分団車庫建替工事		
図面名	【解体】電気設備 平面図		
図尺	A1:1/50	※ 尺	ROG.03
A3:1/100		図番	E-07

<p>① 設計温度</p> <table border="1" data-bbox="224 239 604 319"> <tr> <th colspan="2">外気</th> <th colspan="2">一般系統</th> <th colspan="2">屋内</th> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>冬季</td> <td>夏季</td> <td>冬季</td> <td>夏季</td> <td>冬季</td> </tr> <tr> <td>24.0℃</td> <td>11.0℃</td> <td>24.0℃</td> <td>11.0℃</td> <td>24.0℃</td> <td>11.0℃</td> </tr> <tr> <td>1.7℃</td> <td>41.7%</td> <td>22.0℃</td> <td>9%</td> <td>9%</td> <td>9%</td> </tr> </table> <p>※外気処理用エアコンの室内設定温度は、夏期湿度50%とする。</p> <p>② 総合運転調整</p> <table border="1" data-bbox="224 335 604 414"> <tr> <td>※本工事・別途</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水量調整</td> <td>※する</td> <td>・しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水量調整</td> <td>※する</td> <td>・しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td>室温の測定</td> <td>※する</td> <td>・しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td>室内外空気の温度差の測定</td> <td>※する</td> <td>・しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td>室内空気及びじんあいの測定</td> <td>※する</td> <td>・しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td>初期運転状態の記録</td> <td>※する</td> <td>・しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事対象機器の運転状態の記録</td> <td>※する</td> <td>・しない</td> <td></td> </tr> </table> <p>3 暖 道</p> <p>4 暖 突</p> <p>5 長方形ダクト</p> <p>6 円形ダクト</p> <p>7 風量測定口</p> <p>8 チャンバー</p> <p>9 吸出口及び吸込口ボックス</p> <p>10 ダンパー</p> <p>⑬ 配管材料</p> <p>11 温度計</p> <p>12 弁 類</p> <p>13 風 量 計</p> <p>14 圧 力 計</p> <p>15 測定調整</p> <p>16 測定調整</p> <p>17 冷却塔</p>	外気		一般系統		屋内		夏季	冬季	夏季	冬季	夏季	冬季	24.0℃	11.0℃	24.0℃	11.0℃	24.0℃	11.0℃	1.7℃	41.7%	22.0℃	9%	9%	9%	※本工事・別途				水量調整	※する	・しない		水量調整	※する	・しない		室温の測定	※する	・しない		室内外空気の温度差の測定	※する	・しない		室内空気及びじんあいの測定	※する	・しない		初期運転状態の記録	※する	・しない		工事対象機器の運転状態の記録	※する	・しない		<p>③ 空気加熱ヒートポンプ空調機</p> <p>標準仕様書によるほか下記による。</p> <p>(1) 圧縮機駆動機の種類方式 ※回転制御 ・ オンオフ制御</p> <p>(2) 圧縮機 HFC (R410A, R32又はR407C)</p> <p>(注1) R410Aを採用した場合、冷媒配管は機器の設計圧力を満足するものを使用すること</p> <p>(注2) R32を採用した場合、冷媒配管の断材強度割当は熱性のもを使用すること</p> <p>(3) 埼玉県工務課推進方針で掲げる成績係数を満たす機器とする。</p> <p>④ 1 長方形ダクト</p> <p>● 換気設備</p> <p>⑤ 円形ダクト</p> <p>3 風量測定口</p> <p>4 チャンバー</p> <p>5 ダンパー</p> <p>⑥ 送風器の排気ダクト</p> <p>⑦ 保 温</p> <p>⑧ 試験調整</p> <p>1 ダクト</p> <p>2 排気口の形式</p> <p>3 排気口手動開放装置</p> <p>4 排気風量測定</p> <p>⑨ 中央監視制御装置</p> <p>⑩ 自動制御</p> <p>⑪ 小使器具排水装置</p> <p>⑫ バリアフリー対応</p> <p>⑬ 衛生器具排水配管</p> <p>⑭ 自動水栓の種類</p> <p>⑮ 環境配慮</p> <p>⑯ 大洗浄洗浄弁・洗浄用タンク</p> <p>⑰ 大洗浄耐食カバー</p> <p>18 掃除機</p> <p>⑱ 排水器具用1継手</p> <p>⑲ 騒 音</p> <p>20 水受け皿入れ</p>	<p>12 暖音装置</p> <p>⑬ その他</p> <p>● 給水設備</p> <p>① 配管材料</p> <p>② 配管材料</p> <p>③ 配管材料</p> <p>④ 配管材料</p> <p>⑤ 配管材料</p> <p>⑥ 配管材料</p> <p>⑦ 配管材料</p> <p>⑧ 配管材料</p> <p>⑨ 配管材料</p> <p>⑩ 配管材料</p> <p>⑪ 配管材料</p> <p>⑫ 配管材料</p> <p>⑬ 配管材料</p> <p>⑭ 配管材料</p> <p>⑮ 配管材料</p> <p>⑯ 配管材料</p> <p>⑰ 配管材料</p> <p>⑱ 配管材料</p> <p>⑲ 配管材料</p> <p>⑳ 配管材料</p> <p>㉑ 配管材料</p> <p>㉒ 配管材料</p> <p>㉓ 配管材料</p> <p>㉔ 配管材料</p> <p>㉕ 配管材料</p> <p>㉖ 配管材料</p> <p>㉗ 配管材料</p> <p>㉘ 配管材料</p> <p>㉙ 配管材料</p> <p>㉚ 配管材料</p> <p>㉛ 配管材料</p> <p>㉜ 配管材料</p> <p>㉝ 配管材料</p> <p>㉞ 配管材料</p> <p>㉟ 配管材料</p> <p>㊱ 配管材料</p> <p>㊲ 配管材料</p> <p>㊳ 配管材料</p> <p>㊴ 配管材料</p> <p>㊵ 配管材料</p> <p>㊶ 配管材料</p> <p>㊷ 配管材料</p> <p>㊸ 配管材料</p> <p>㊹ 配管材料</p> <p>㊺ 配管材料</p> <p>㊻ 配管材料</p> <p>㊼ 配管材料</p> <p>㊽ 配管材料</p> <p>㊾ 配管材料</p> <p>㊿ 配管材料</p>	<p>② 洗濯機の排水</p> <p>3 湯水設備排水</p> <p>④ 換 気 用</p> <p>① 配管材料</p> <p>② 配管材料</p> <p>③ 配管材料</p> <p>④ 配管材料</p> <p>⑤ 配管材料</p> <p>⑥ 配管材料</p> <p>⑦ 配管材料</p> <p>⑧ 配管材料</p> <p>⑨ 配管材料</p> <p>⑩ 配管材料</p> <p>⑪ 配管材料</p> <p>⑫ 配管材料</p> <p>⑬ 配管材料</p> <p>⑭ 配管材料</p> <p>⑮ 配管材料</p> <p>⑯ 配管材料</p> <p>⑰ 配管材料</p> <p>⑱ 配管材料</p> <p>⑲ 配管材料</p> <p>⑳ 配管材料</p> <p>㉑ 配管材料</p> <p>㉒ 配管材料</p> <p>㉓ 配管材料</p> <p>㉔ 配管材料</p> <p>㉕ 配管材料</p> <p>㉖ 配管材料</p> <p>㉗ 配管材料</p> <p>㉘ 配管材料</p> <p>㉙ 配管材料</p> <p>㉚ 配管材料</p> <p>㉛ 配管材料</p> <p>㉜ 配管材料</p> <p>㉝ 配管材料</p> <p>㉞ 配管材料</p> <p>㉟ 配管材料</p> <p>㊱ 配管材料</p> <p>㊲ 配管材料</p> <p>㊳ 配管材料</p> <p>㊴ 配管材料</p> <p>㊵ 配管材料</p> <p>㊶ 配管材料</p> <p>㊷ 配管材料</p> <p>㊸ 配管材料</p> <p>㊹ 配管材料</p> <p>㊺ 配管材料</p> <p>㊻ 配管材料</p> <p>㊼ 配管材料</p> <p>㊽ 配管材料</p> <p>㊾ 配管材料</p> <p>㊿ 配管材料</p>
外気		一般系統		屋内																																																							
夏季	冬季	夏季	冬季	夏季	冬季																																																						
24.0℃	11.0℃	24.0℃	11.0℃	24.0℃	11.0℃																																																						
1.7℃	41.7%	22.0℃	9%	9%	9%																																																						
※本工事・別途																																																											
水量調整	※する	・しない																																																									
水量調整	※する	・しない																																																									
室温の測定	※する	・しない																																																									
室内外空気の温度差の測定	※する	・しない																																																									
室内空気及びじんあいの測定	※する	・しない																																																									
初期運転状態の記録	※する	・しない																																																									
工事対象機器の運転状態の記録	※する	・しない																																																									

環境配慮 グリーン 改修工事	1 アスベスト処理工事 一般共通事項	留意事項 1 本工事は、アスベスト含有物のおそれのある吹付け材、保温材又はグROUTパッキン等を除去する工事が含まれる場合に適用する。設備改修に伴う、アスベスト含有材への開口などの小規模改修工事は本仕様に準じて行うものとする。 2 アスベスト処理を所管する行政庁の指図書がある場合は、それに準ずるものとし、監督員に報告し協議する。 3 この工事においては、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁管理課長監修 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）（以下「改修仕様」という）及び「建築物等の解体等に係る石綿除去防護防止及び石棉繊維除去防止対策マニュアル」（令和3年3月 厚生労働省「環境省」による）。																																																																																															
	2 アスベスト含有物分析 調査	分析によるアスベスト含有物の検出 ・ 行う（下表による） [9.1.1] <table border="1"> <tr> <th>材料名</th> <th>調査方法（1材料あたりの試料数：3サンプル）</th> </tr> <tr> <td>※ 定性分析</td> <td>・ 定量分析</td> </tr> <tr> <td>※ 定性分析</td> <td>・ 定量分析</td> </tr> <tr> <td>※ 定性分析</td> <td>・ 定量分析</td> </tr> <tr> <td>※ 定性分析</td> <td>・ 定量分析</td> </tr> </table> 採取箇所 ※ 図示 分析対象 ※ アスベスト 6 種類（アモサイト、クリソタイル、クロソライト、アクチノライト、アンオフィライト、トリモライト） 調査方法・分析方法 ※ JIS A 1481「規格群（1481-1,2,3,4）『建材製品中のアスベスト含有率測定方法』」に準拠する。 分析結果については、監督員に提出すること。	材料名	調査方法（1材料あたりの試料数：3サンプル）	※ 定性分析	・ 定量分析	※ 定性分析	・ 定量分析	※ 定性分析	・ 定量分析	※ 定性分析	・ 定量分析																																																																																					
	材料名	調査方法（1材料あたりの試料数：3サンプル）																																																																																															
※ 定性分析	・ 定量分析																																																																																																
※ 定性分析	・ 定量分析																																																																																																
※ 定性分析	・ 定量分析																																																																																																
※ 定性分析	・ 定量分析																																																																																																
3 アスベスト粉じん 濃度測定	アスベスト粉じん濃度測定 ・ 行う（測定名称及び測定点は下表による） [9.1.1] 測定箇所 ※ 図示 <table border="1"> <thead> <tr> <th>測 定 箇 所</th> <th>測 定 名 称</th> <th>測 定 期 間</th> <th>測 定 場 所</th> <th>測 定 点 数</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>①</td> <td>測定1</td> <td>処理作業室内</td> <td>※各2点・各3点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>②</td> <td>測定2</td> <td>施工区隣接又は敷地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>③</td> <td>測定3</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>④</td> <td>測定4</td> <td>処理作業中 （吹き付け作業時）</td> <td>各1点</td> <td>空気の流れを確保</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤</td> <td>測定5</td> <td>処理作業中 （吹き付け作業時）</td> <td>各1点</td> <td>吹き付け作業時（除じん装置の性能確認）</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>⑥</td> <td>測定6</td> <td>施工区隣接又は敷地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>⑦</td> <td>測定7</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点 （※A3は1点）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>⑧</td> <td>測定8</td> <td>施工区隣接又は敷地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨</td> <td>⑨</td> <td>測定9</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点 （※A3は1点）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑩</td> <td>⑩</td> <td>測定10</td> <td>施工区隣接又は敷地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> アスベスト粉じん濃度測定方法 アスベスト粉じん濃度測定は「JIS K 3850-1:2006 空気中の繊維状粒子測定方法 第1部：光学顕微鏡法及び気流粒子数計測法」の「6.2 位相差・分散顕微鏡法」による。 測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定3</th> <th>測定1,2,4,6,7,8,9,10</th> <th>測定5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計数機器</td> <td>位相差・分散顕微鏡</td> <td>位相差・分散顕微鏡</td> </tr> <tr> <td>ノズル径の直径</td> <td>25mm</td> <td>47mm</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引流量</td> <td>1 l/min</td> <td>5 l/min</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引時間</td> <td>5 min</td> <td>120 min</td> </tr> <tr> <td>試料の透明化</td> <td>アセトニトリアセチレン法又は、ジエチルエーテル法</td> <td>240 min</td> </tr> <tr> <td>計数条件</td> <td>総アスベスト繊維数 200 本/本視野野 50 視野</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計数アスベスト</td> <td>直径（径） 3µm 未満、長さ 5µm 以上、長さと直径比 3:1 以上の繊維状物質</td> <td></td> </tr> <tr> <td>定量限界</td> <td>50 f/l</td> <td>0.5 f/l</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>0.2 f/l</td> </tr> </tbody> </table> 報告書の作成（記録する項目） ア 測定結果 イ 測定時間 ウ 測定位置（測定結果とともに図面に記載） エ サンプリング条件（メンブレンフィルタ直径、吸引時間、吸引空気量） オ マウンティング方法 カ 顕微鏡視野面積、計数視野数 キ 測定時（各測定場所ごと）の気候、温度、湿度、外気の風速及び風向 ク 周辺地形や作業時の状況を撮影した写真	測 定 箇 所	測 定 名 称	測 定 期 間	測 定 場 所	測 定 点 数	備 考	①	①	測定1	処理作業室内	※各2点・各3点		②	②	測定2	施工区隣接又は敷地境界	4方向各1点		③	③	測定3	処理作業室内	各2点		④	④	測定4	処理作業中 （吹き付け作業時）	各1点	空気の流れを確保	⑤	⑤	測定5	処理作業中 （吹き付け作業時）	各1点	吹き付け作業時（除じん装置の性能確認）	⑥	⑥	測定6	施工区隣接又は敷地境界	4方向各1点		⑦	⑦	測定7	処理作業室内	各2点 （※A3は1点）		⑧	⑧	測定8	施工区隣接又は敷地境界	4方向各1点		⑨	⑨	測定9	処理作業室内	各2点 （※A3は1点）		⑩	⑩	測定10	施工区隣接又は敷地境界	4方向各1点		測定3	測定1,2,4,6,7,8,9,10	測定5	計数機器	位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡	ノズル径の直径	25mm	47mm	試料の吸引流量	1 l/min	5 l/min	試料の吸引時間	5 min	120 min	試料の透明化	アセトニトリアセチレン法又は、ジエチルエーテル法	240 min	計数条件	総アスベスト繊維数 200 本/本視野野 50 視野		計数アスベスト	直径（径） 3µm 未満、長さ 5µm 以上、長さと直径比 3:1 以上の繊維状物質		定量限界	50 f/l	0.5 f/l			0.2 f/l
測 定 箇 所	測 定 名 称	測 定 期 間	測 定 場 所	測 定 点 数	備 考																																																																																												
①	①	測定1	処理作業室内	※各2点・各3点																																																																																													
②	②	測定2	施工区隣接又は敷地境界	4方向各1点																																																																																													
③	③	測定3	処理作業室内	各2点																																																																																													
④	④	測定4	処理作業中 （吹き付け作業時）	各1点	空気の流れを確保																																																																																												
⑤	⑤	測定5	処理作業中 （吹き付け作業時）	各1点	吹き付け作業時（除じん装置の性能確認）																																																																																												
⑥	⑥	測定6	施工区隣接又は敷地境界	4方向各1点																																																																																													
⑦	⑦	測定7	処理作業室内	各2点 （※A3は1点）																																																																																													
⑧	⑧	測定8	施工区隣接又は敷地境界	4方向各1点																																																																																													
⑨	⑨	測定9	処理作業室内	各2点 （※A3は1点）																																																																																													
⑩	⑩	測定10	施工区隣接又は敷地境界	4方向各1点																																																																																													
測定3	測定1,2,4,6,7,8,9,10	測定5																																																																																															
計数機器	位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡																																																																																															
ノズル径の直径	25mm	47mm																																																																																															
試料の吸引流量	1 l/min	5 l/min																																																																																															
試料の吸引時間	5 min	120 min																																																																																															
試料の透明化	アセトニトリアセチレン法又は、ジエチルエーテル法	240 min																																																																																															
計数条件	総アスベスト繊維数 200 本/本視野野 50 視野																																																																																																
計数アスベスト	直径（径） 3µm 未満、長さ 5µm 以上、長さと直径比 3:1 以上の繊維状物質																																																																																																
定量限界	50 f/l	0.5 f/l																																																																																															
		0.2 f/l																																																																																															

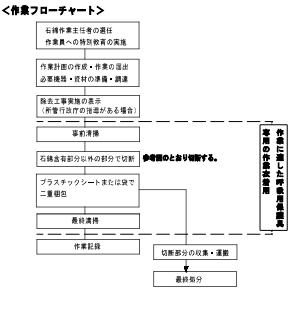
4 776)社会有害吹付け材の除去（レベル1）	アスベスト含有吹付け材の除去 [9.1.3] ・ 行う 除去方法は9.1.3による他、除去の部位・内容に応じた除去は専門工事業者の仕様とする。 除去物及び汚染物質等 処理方法 ※ 密閉（二重密閉） 閉鎖養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能空気ろ過器フィルタ、密じん器フィルタについても密閉処理を行う。 ・ セメント固化 処理を行う吹付けアスベストの仕様 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>厚さ（mm）</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> </tbody> </table>	材料名	厚さ（mm）	処理を行う範囲			※ 図示																											
材料名	厚さ（mm）	処理を行う範囲																																
		※ 図示																																
5 776)社会有害保温材等の除去（レベル2）	アスベスト含有保温材の除去 [9.1.4] ・ 行う 作業上の関係 ・ 行う ・ 行わない 処理を行う保温材等アスベストの仕様 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>厚さ（mm）</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> </tbody> </table>	材料名	厚さ（mm）	処理を行う範囲			※ 図示																											
材料名	厚さ（mm）	処理を行う範囲																																
		※ 図示																																
6 776)社会有害成形成物の除去（レベル3）	1 アスベスト含有成形成物の除去 [9.1.5] ・ 行う 処理を行うアスベスト成形成物の仕様等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名（製品名）</th> <th>含有するアスベストの濃度</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※</td> <td>※</td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>※</td> <td>※</td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>※</td> <td>※</td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>※</td> <td>※</td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>※</td> <td>※</td> <td>※</td> </tr> </tbody> </table> 2 非石綿繊維での切断による除去 ・ 行う 処理を行うアスベスト含有物の仕様等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>含有するアスベストの濃度</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 繊維強化プラスチック（石綿含有バッキング）</td> <td>※</td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>・ 石綿含有保温材付配管</td> <td>※</td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>・ 石綿含有保温材付配管</td> <td>※</td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>・ 石綿含有保温材付配管</td> <td>※</td> <td>※</td> </tr> </tbody> </table> ※なお、石綿含有保温材付配管については、発熱のおそれがある場合は、一部レベル2の対応を要するものとする。 ＜参考＞石綿含有物の事前調査フロー  ＜参考＞非石綿繊維石綿含有物を除去する時の作業フロー 1 成形された配管保温材等を原形のまま取り外しによる除去（レベル2） 成形された配管保温材等を原形のまま取り外しやすき場合には、石綿濃度の程度が比較的低いことから、関係業者（責任不要）、放水等による薬剤による石綿の分散防止措置を行い、次の手順で除去する。なお、変化し石綿濃度のおそれがある場合には、石綿含有吹付け材等の切断等による除去と同等の措置を講じる。また、作業中に事前調査により把握していない放射性石綿含有物材が確認された場合には、直ちに作業を中止し、放射線防護措置を講ずるとともに、関係機関に連絡する。	材料名（製品名）	含有するアスベストの濃度	処理を行う範囲	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	材料名	含有するアスベストの濃度	処理を行う範囲	・ 繊維強化プラスチック（石綿含有バッキング）	※	※	・ 石綿含有保温材付配管	※	※	・ 石綿含有保温材付配管	※	※	・ 石綿含有保温材付配管	※	※
材料名（製品名）	含有するアスベストの濃度	処理を行う範囲																																
※	※	※																																
※	※	※																																
※	※	※																																
※	※	※																																
※	※	※																																
材料名	含有するアスベストの濃度	処理を行う範囲																																
・ 繊維強化プラスチック（石綿含有バッキング）	※	※																																
・ 石綿含有保温材付配管	※	※																																
・ 石綿含有保温材付配管	※	※																																
・ 石綿含有保温材付配管	※	※																																

＜作業フローチャート＞



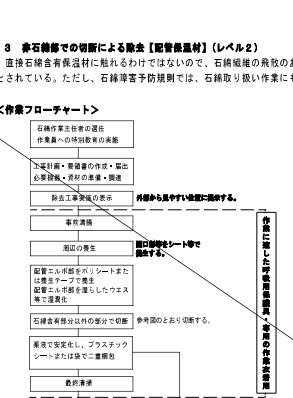
2 非石綿繊維での切断による除去【グROUTパッキン・配管バッキング】（レベル3）
連続グROUTには、継ぎ目に石綿含有物を使用されることが多い。この場合、直接石綿含有物に触れるわけではないので、石綿繊維の飛散のおそれがない場合には、大気汚染防止法の届出不要とされている。ただし、石綿障害予防規則では、石綿取り扱い作業にも該当しないものの、計画の届出が必要とされている。

＜作業フローチャート＞



3 非石綿繊維での切断による除去【配管保温材】（レベル2）
直接石綿含有保温材に触れるわけではないので、石綿繊維の飛散のおそれがない場合には、大気汚染防止法の届出不要とされている。ただし、石綿障害予防規則では、石綿取り扱い作業にも該当しないものの、計画の届出が必要とされている。

＜作業フローチャート＞



参考図1 脱機グROUT除去後の除去方法
石綿含有バッキング
切断
切断
ガス管

参考図2 配管フランジバッキングの除去方法
石綿含有バッキング
切断
切断

参考図3 石綿含有保温材配管の除去方法
養生テープ
石綿含有保温材
ポリシート
養生テープ
切断
切断

凡例 (空調)

記号	名称	区分	備 考	備 考
— R —	冷 媒 管	冷媒用被覆銅管		JODA 0009
		【配管径】	液管 ガス管	
		①	6.4φ 12.7φ	
— O —	ド レ ン 管	耐火二層管 (VP)		
— DA —	外 気 ダ ク ト	丸:2φ (59φ) 外 (亜鉛鉄板) 保温:2R25(巻(全て))		
— EA —	排 気 ダ ク ト	丸:2φ (59φ) 外 (亜鉛鉄板) ※外壁より1mを保温とする。		
— EA —	排 気 ダ ク ト	多層断熱 丸:2φ (59φ) 外 (2F以上鋼板) ※多層断熱はエクスパンション系統とする。		
— EA —	排 気 ダ ク ト	火気系統 丸:2φ (59φ) 外 (2F以上鋼板) 断熱:R0501巻		
※ダクトサイズは下記による。 A:100φ、B:160φ、D:250φ、E:300φ				
⊗	吹 出 口			
⊙	24時間換気機器			
⊕	壁換気扇・有圧筒			
⊗	天井換気扇			
⊗	天井換気扇			
⊗	エアカットバルブ			
— D —	ベントキャップ	両掛り:深型 (SUS) その他:平型 (SUS) 指定色焼付塗装		
— E —	ドアガラリ	建築工事		
【解体】				
— R —	冷 媒 管	【配管径】	冷媒用被覆銅管	
		①	液管 ガス管	
			6.4φ 9.5φ	
— O —	ド レ ン 管	配管用炭素鋼管 (白)		

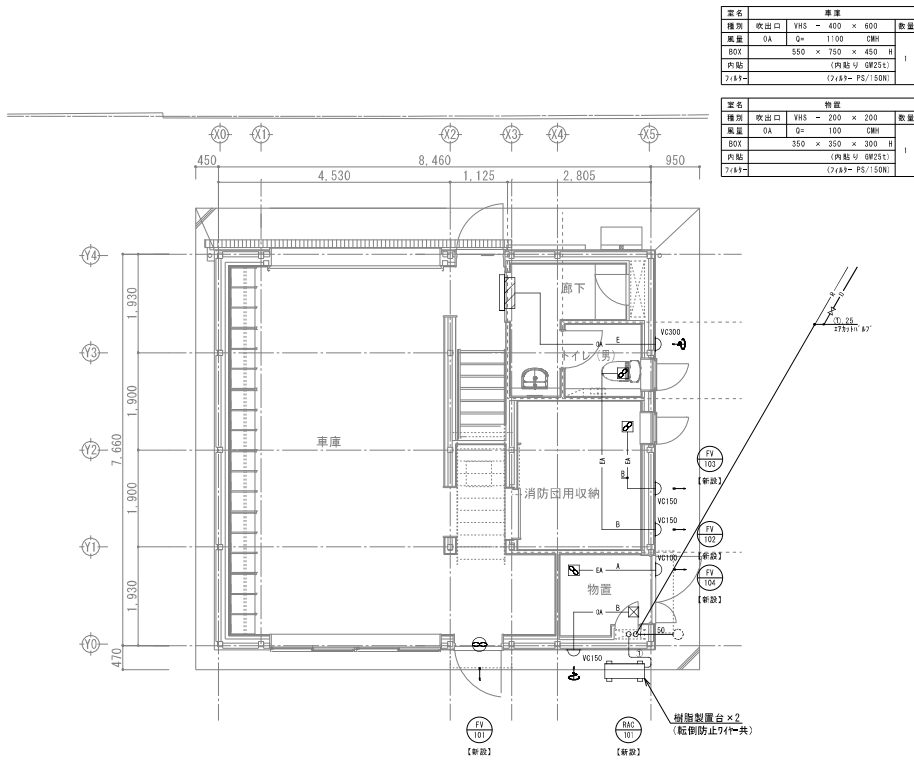
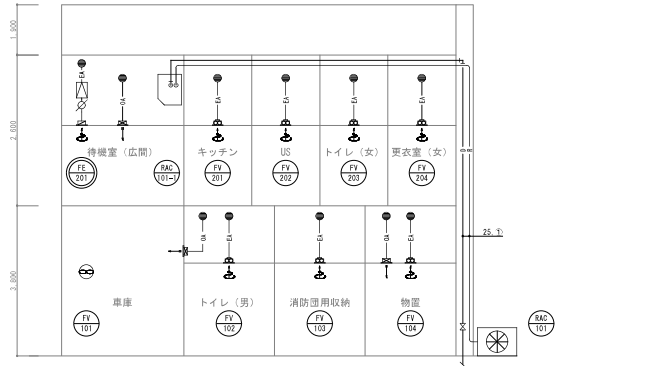
凡例 (衛生)

記号	名称	区分	備 考	備 考
— — —	給水管	引込管	耐衝撃性硬質PVC強化PVC管 (HVP)	JIS K 6742
— — —	給水管	埋設部	硬質PVC強化PVC管 (PE)	JIS K 6787
— — —	給水管	建物内	硬質PVC強化PVC管 (VE)	JWMA K 116
— —	給湯管	一般配管用PVC鋼管 (拡張式)		JWMA G 115
— — —	雑排水管	硬質PVC強化PVC管 (VP)		JIS K 6741
— — —	雑排水管	硬質PVC強化PVC管 (VU)		JIS K 6741
— — —	汚水管	硬質PVC強化PVC管 (VP)		JIS K 6741
— — —	汚水管	硬質PVC強化PVC管 (VU)		JIS K 6741
— — —	通気管	硬質PVC強化PVC管 (VP)		
⊕	埋設弁	JIS 10K		ボックス共
⊕	量水器	水道局買与品		ボックス共
⊗	水栓 (水)			
⊗	混合水栓			
— G —	ガス管	配管用炭素鋼管 (白)		
— G —	ガス管	屋外配管	SP4419硬質鋼管 (一般)	
○	小口径 (1/2) 桧			
○	小口径 (1/2) 桧			
○	床排水金物			
○	床清掃取口			
○	床下排水取口			
○	間接排水金物			
— D —	ベントキャップ	両掛り:深型 (SUS) 指定色焼付塗装		
⊗	ガスロック			
⊗	ガスメーター			
【解体】				
— — —	給水管	一般配管用ステンレス鋼管		埋設部 (VP)
— — —	給水管	引込管	耐衝撃性硬質PVC強化PVC管 (HVP)	
— — —	雑排水管	硬質PVC強化PVC管 (VP)		
— — —	屋外排水管	硬質PVC強化PVC管 (VU)		
⊕	埋設弁	JIS 10K		ボックス共
⊕	量水器	水道局買与品		ボックス共
⊗	水栓 (水)			
— G —	ガス管	配管用炭素鋼管		
○	小口径 (1/2) 桧			
⊗	ガスロック			
⊗	ガスメーター			
⊕	地 中 埋 設 機			

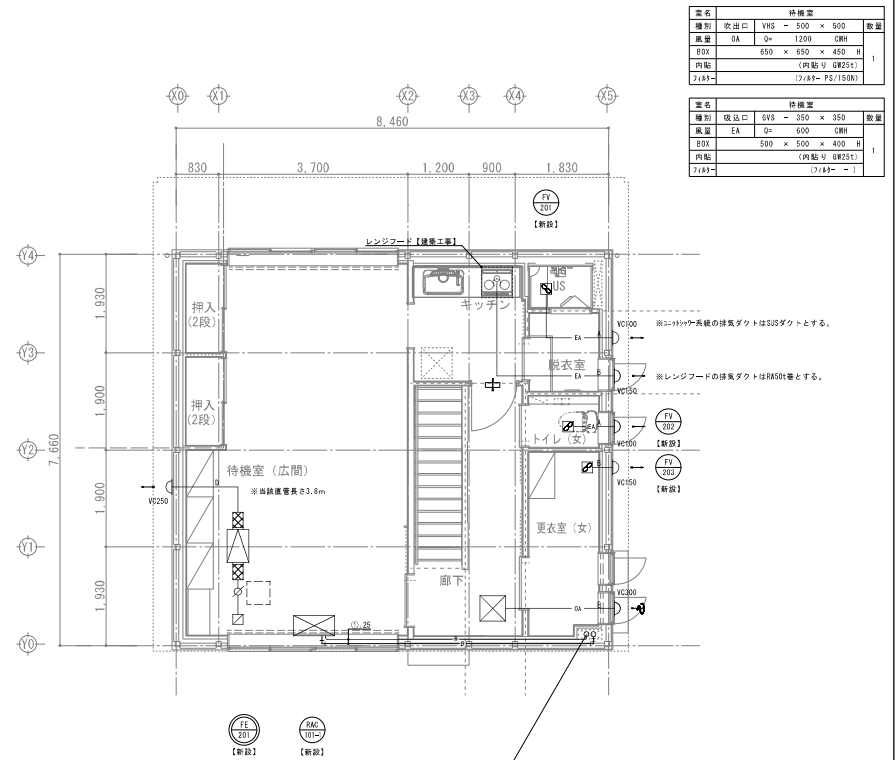
機器表 (新設)

記号	機器名称	仕 様	電 気		設置場所	備 考 (参考型式)
			φ-V	50Hz Kw 台数		
RA0-101	ル ー ム エ ア コ ン	型 式 壁掛形 ペア 冷房能力 7.1 kW 暖房能力 8.5 kW 消費電力 冷房 2.21 kW 暖房 2.02 kW 室外機 圧縮機 付属品 9131, 他附属品一式	1-200	-	1 2階	S714ATAP-N 待機室 参考運転重量: 45kg (95), 16, 5kg (内) 参考寸法: 850×320×729H (外) 788×370×295H (内) 冷媒管: 12.7φ, 6.4φ
FV-101	壁 換 気 扇 (車 庫)	型 式 窓枠挿入椅子 (排気型) 羽根径 30 cm 風 量 850 m³/h 付属品 取付枠、電動リフト、SJS601+P-30'-、防虫網付 他標準付属品椅子	1-100	40W	1 1階	車庫 EX-30SC4
FV-102	天 井 扇 (1 階 ト イ レ (男))	型 式 低騒音タイプ 接続径 100 φ 風 量 100 m³/h 静 圧 80 pa 付属品 他標準付属品一式	1-100	20W	1 1階	VD-15ZP13 1-L (男)
FV-103	天 井 扇 (消 防 団 用 取 締)	型 式 低騒音タイプ 接続径 150 φ 風 量 150 m³/h 静 圧 80 pa 付属品 他標準付属品一式	1-100	26W	1 1階	VD-18ZB13 消防団用取締
FV-104	天 井 扇 (物 置)	型 式 低騒音タイプ 接続径 100 φ 風 量 100 m³/h 静 圧 80 pa 付属品 他標準付属品一式	1-100	20W	1 1階	VD-15ZP13 物置
FV-201	天 井 扇 (ユ ニ ッ ト シ ョ ー ル)	型 式 低騒音タイプ 接続径 100 φ 風 量 100 m³/h 静 圧 80 pa 付属品 他標準付属品一式	1-100	20W	1 2階	VD-15ZP13 25-L (女)
FV-202	天 井 扇 (2 階 ト イ レ (女))	型 式 低騒音タイプ 接続径 100 φ 風 量 100 m³/h 静 圧 80 pa 付属品 他標準付属品一式	1-100	20W	1 2階	VD-15ZP13 1-L (女)
FV-203	天 井 扇 (更 衣 室 (女))	型 式 低騒音タイプ 接続径 150 φ 風 量 150 m³/h 静 圧 80 pa 付属品 他標準付属品一式	1-100	26W	1 2階	VD-18ZB13 更衣室 (女)
FE-201	排 気 フ ァ ン (待 機 室 系 統)	型 式 ストレートシロッコ形 (消費型) 接続径 200 φ 風 量 600 m³/h 静 圧 120 pa 付属品 24hリフト、防振吊金具、他標準付属品一式	1-100	106W	1 2階	BF5-65S062 待機室 24時間換気

【RA0】
注記)
1. ルームエアコンの能力はJISの条件におけるものとする。
2. 暖房の能力、容量は表示された数値以上とする。
3. ルームエアコンの付属品は付属とする。
4. ルームエアコンのフィルターはロングライフフィルターとする。
5. ルームエアコンの冷媒はR410Aあるいは、R32とする。
6. 室内機への電源供給は冷媒管共巻 (EM-EF2.0-3C) 、本工事とする。
【換気扇類】
注記)
1. 扇風の能力、容量は表示された数値以上とし、電動機の出力、接続口径、消費電力等は参考値とする。
2. スイッチ本体 (タイマー、サーモ、ヒューズも含む) 及び配管、配線は電気工事とする。



1階平面図 S=1/100(A3)



2階平面図 S=1/100(A3)

図面名称	新座市消防団第五分団車庫建設工事			
図面内容	空調設備 配管・ダクト 1・2階平面図・系統図			
縮尺	A1:1/50	※ 尺	ROG.03	図面番号
	A3:1/100			図面番号
				M-05

機 器 表

記号	機器名称	仕 様	電 気 50Hz		設置場所	備 考 (参考型式)		
			φ-V	Kw			起動	台数
M90-1	ガス瞬間湯沸器	型式 屋外型掛形 (潜熱回収型) 総湯能力 24号 ガス消費量 45.0kw (LPG) 附 属 品 本体(E2)、VE302-1(10m)、配管材(φ6000)、取付金物、 隔壁φ34(F15-S01M)、鉛標準付属品一式	1-100	48W	直入	1	屋外	00-2434KS

注記)
1.給湯機器の固定については、地震時の転倒防止 (R24,12,12 国土交通省告示第1447号) による。

樹リスト (汚水系統)

GL±0= 0.00

樹符号	種類	大きさ(mm)	GL±0からの深さ(mm)	地盤高からの深さ(mm)	GL±0からの地盤面高さ(mm)	地盤面の高さ(m)	蓋	備考
①	小口径インバート樹	UTK 200φ	-600	-600	0	0.00	塩ビ樹	
②	小口径インバート樹	90Y 200φ	-720	-720	0	0.00	塩ビ樹	
③	小口径インバート樹	90Y 200φ	-730	-730	0	0.00	塩ビ樹	
④	小口径インバート樹	90L 200φ	-760	-760	0	0.00	特殊製防護蓋(内蓋共)	袋穴式:1-14
⑤	小口径インバート樹	90Y 200φ	-780	-780	0	0.00	特殊製防護蓋(内蓋共)	袋穴式:1-14
⑥	小口径インバート樹	90Y 200φ	-790	-790	0	0.00	特殊製防護蓋(内蓋共)	袋穴式:1-14
⑦	小口径インバート樹	90Y 200φ	-800	-800	0	0.00	特殊製防護蓋(内蓋共)	袋穴式:1-14
⑧	小口径インバート樹	90L 200φ	-830	-830	0	0.00	特殊製防護蓋(内蓋共)	袋穴式:1-14
⑨	小口径インバート樹	90Y 200φ	-840	-840	0	0.00	特殊製防護蓋(内蓋共)	袋穴式:1-14
⑩	小口径インバート樹	90L 200φ	-980	-980	0	0.00	特殊製防護蓋(内蓋共)	袋穴式:1-14
⑪	小口径インバート樹	DR 200φ	-1,210	-1,210	0	0.00	特殊製防護蓋(内蓋共)	袋穴式:1-14
⑫	公設樹		-1,220	-1,220	0	0.00		

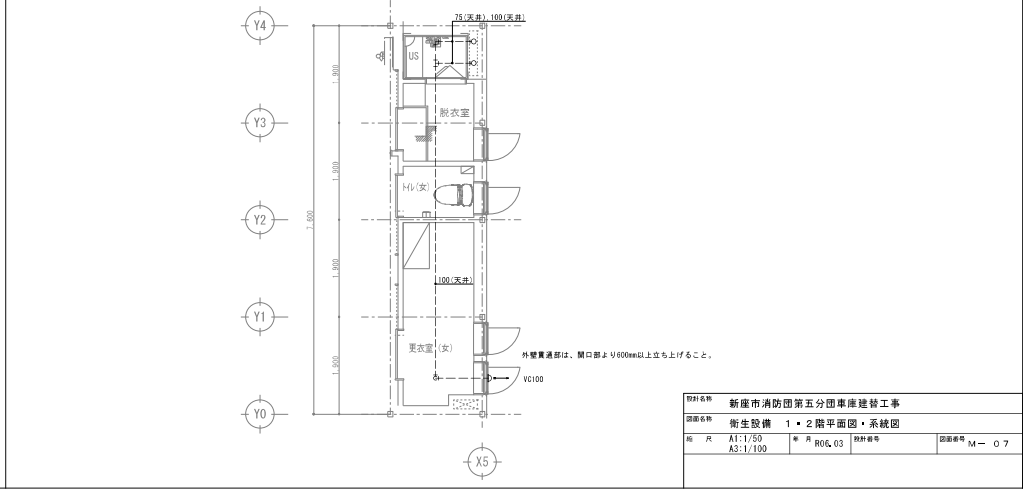
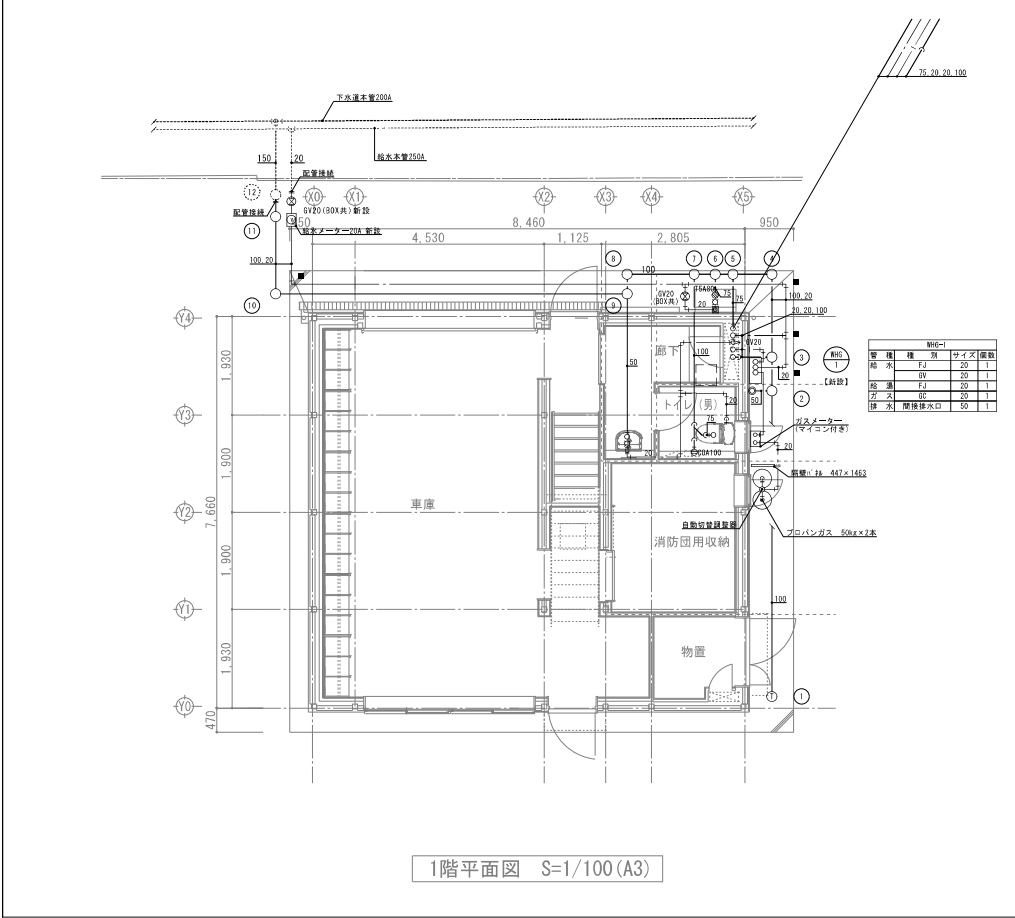
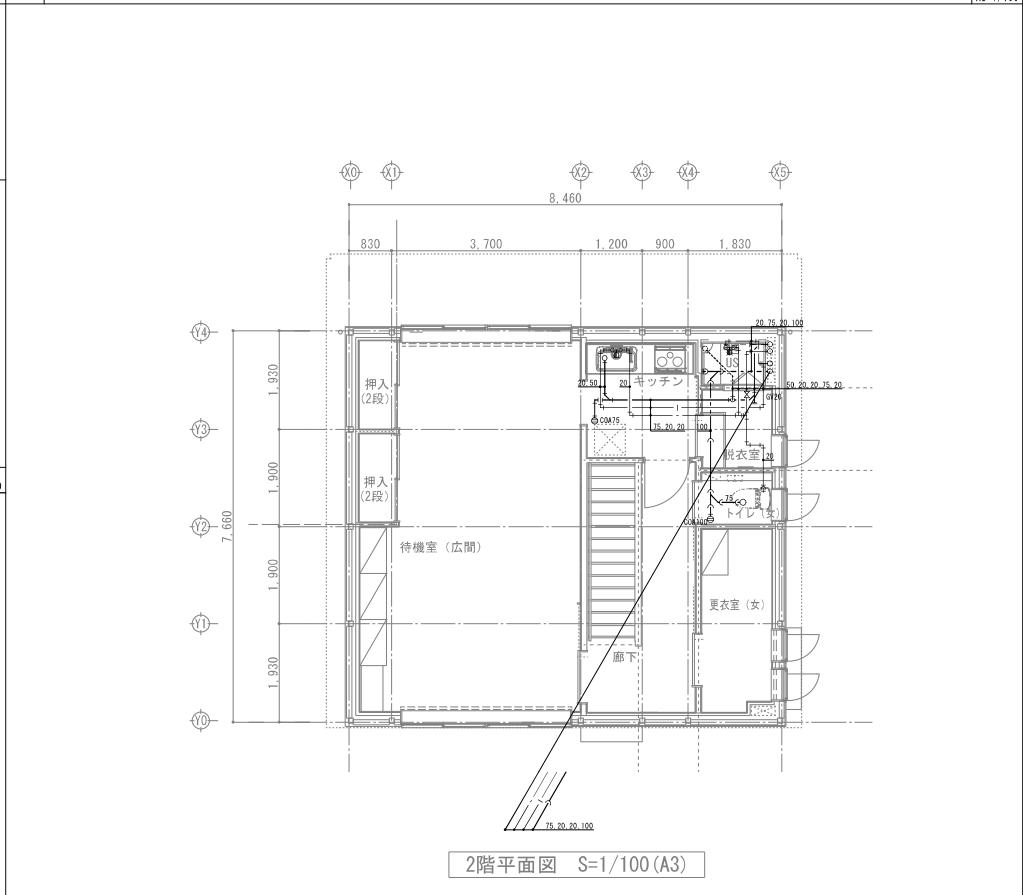
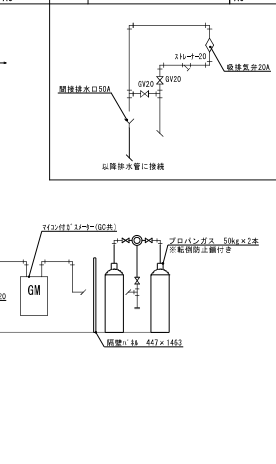
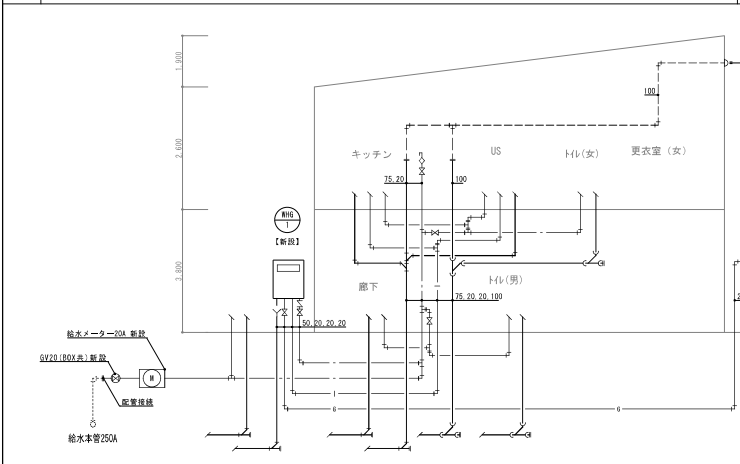
※実際の樹番号は新設とする

衛生器具表(新設)

器具名称	型式	付 属 品 (他付属品一式)	AC100V	計	車庫		屋外		備考	
					1階	2階				
					トイレ(男)	廊下	トイレ(女)	キッチン		手洗い
洋 風 大 便 器	CS232BN	SH233BA(手洗付付)、TOF6543AK(温水洗浄便座、VE3)、YH702(二連紙巻器)	○	2	1		1			
洗 面 器	L210C	TEL285S1A(自動水栓)、TLDP2105J(P1577)		1	1					
混 合 水 栓	TK30E201J			1			1			
化 粧 鏡	YW090F	600×900		1	1					
機 水 栓	T20DESNF13 C	SUS製水栓柱(φ=1000)		1				1		

※給水・排水工事については、各指定工事店による必要手続きを行った上、当該指定工事店による施工とすること。

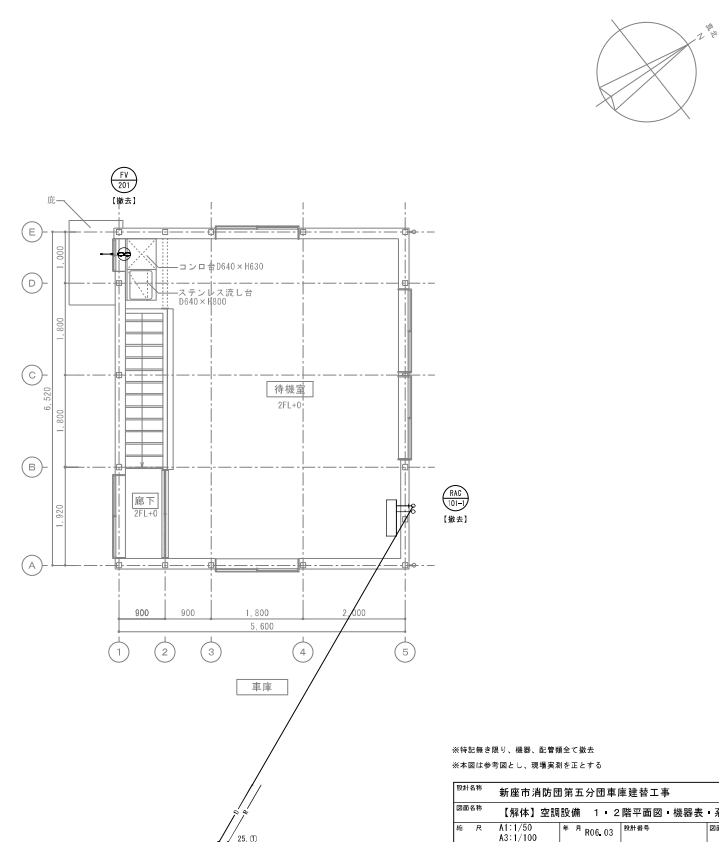
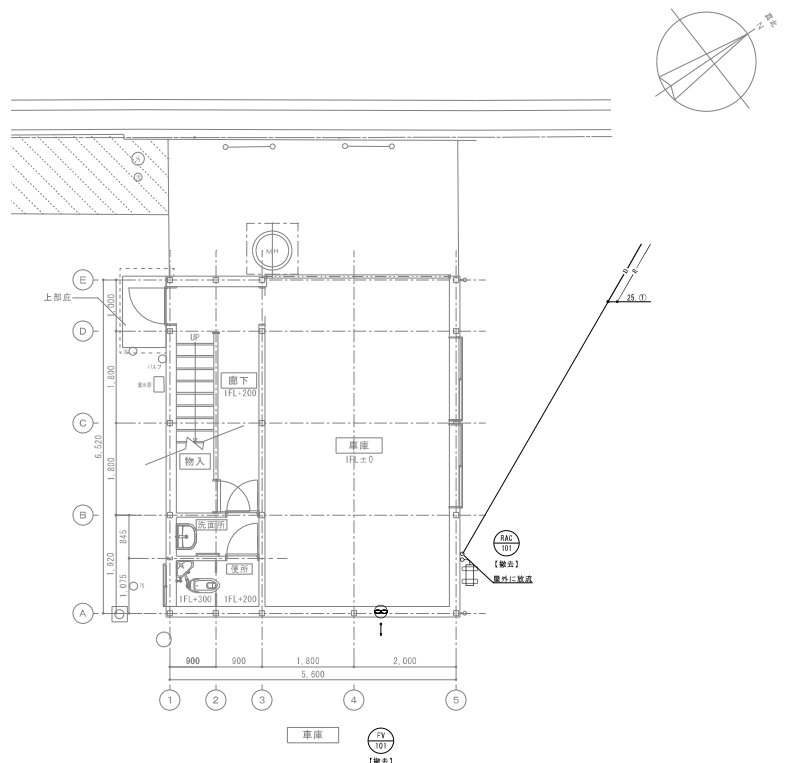
図面名称	新座市消防団第五分団車庫建設工事			
図面内容	衛生設備 機器表・器具表・樹リスト			
縮 尺	A1:1/75 A3:1/100	冊 数	ROG.03	図面番号 M- 06



図面名称	新座市消防団第五分団車庫建替工事		
図面内容	衛生設備 1・2階平面図・系統図		
縮尺	A1:1/50	※ 尺	ROG.03
A3:1/100	図面番号	M-07	

機器表 (撤去)

記号	機器名称	仕様	電気 50Hz			台数	設置場所	備考 (参考型式)
			φ-V	Kw	起動			
RAC-101 【撤去】	ルームエアコン	型式 壁掛形 ペア 冷房能力 4.0 kW 暖房能力 5.0 kW 消費電力 冷房 1.26 kW 暖房 1.42 kW 室外機 圧縮機 付属品 室外機一式	t=100	-		1	待機室	参考運転重量 45kg (内) 16, 5kg (内) 参考寸法: 350 × 320 × 650 (内) 790 × 370 × 230 (内) 冷媒管 : 12.7φ, 6.4φ
FV-101 【撤去】	壁換気扇	型式 窓枠据付格子 (排気型) 羽根径 30 cm 付属品 他標準付属品一式	t=100	50W	直入	1	車庫	
FV-201 【撤去】	壁換気扇	型式 窓枠据付格子 (排気型) 羽根径 25 cm 付属品 他標準付属品一式	t=100	50W	直入	1	待機室	EK-25H2



01 【解体】樹リスト

樹リスト (汚水系統) GL±0= 0.00

樹符号	種類	大きさ (mm)	GL±0からの深さ (mm)	地盤高からの深さ (mm)	GL±0からの地盤面高さ (mm)	地盤面の高さ (m)	産
①	小口径インバート管	90L 200φ	-350	-350	0	0.00	塩ビ管
②	小口径インバート管	90Y 200φ	-550	-550	0	0.00	塩ビ管
③	小口径インバート管	DR 200φ	-1,130	-1,130	0	0.00	塩ビ管
④	公設管		-1,220	-1,220	0	0.00	

02 【解体】衛生器具表

衛生器具表 (撤去)

器具名称	型式	付属品 (他付属品一式)	AC100V	計	車庫		備考
					1階 洗面所	1階 便所	
和風大便器					1		
洗面器				1			

